

丸亀市人口ビジョン
丸亀市未来を築く総合戦略
【資料編】

平成 27 年 10 月

丸亀市

目次

第1部	基礎調査報告書	1
1	人口の推移	2
2	人口増減の要因	6
3	就業状況	12
4	地域産業・経済の特徴	14
5	まちの状況	22
6	子育て・医療の状況	27
7	財政状況	32
第2部	アンケート調査報告書	41
1	調査の概要	42
2-1	調査結果 (高校生を中心とした若い世代対象調査)	43
2-2	調査結果(15歳～49歳の市民対象調査)	60
第3部	ヒアリング報告書	91
1	調査の概要	92
2	ヒアリング結果まとめ	93
第4部	人口推計のための資料	97
1	将来に及ぼす影響度の分析	98
2	人口構造の分析結果	100
3	老年人口比率の変化分析	101

第1部 基礎調査報告書

- 1 人口の推移
- 2 人口増減の要因
- 3 就業状況
- 4 地域産業・経済の特徴
- 5 まちの状況
- 6 子育て・医療の状況
- 7 財政状況



1 人口の推移

(1) 総人口と年齢3区分別人口の推移

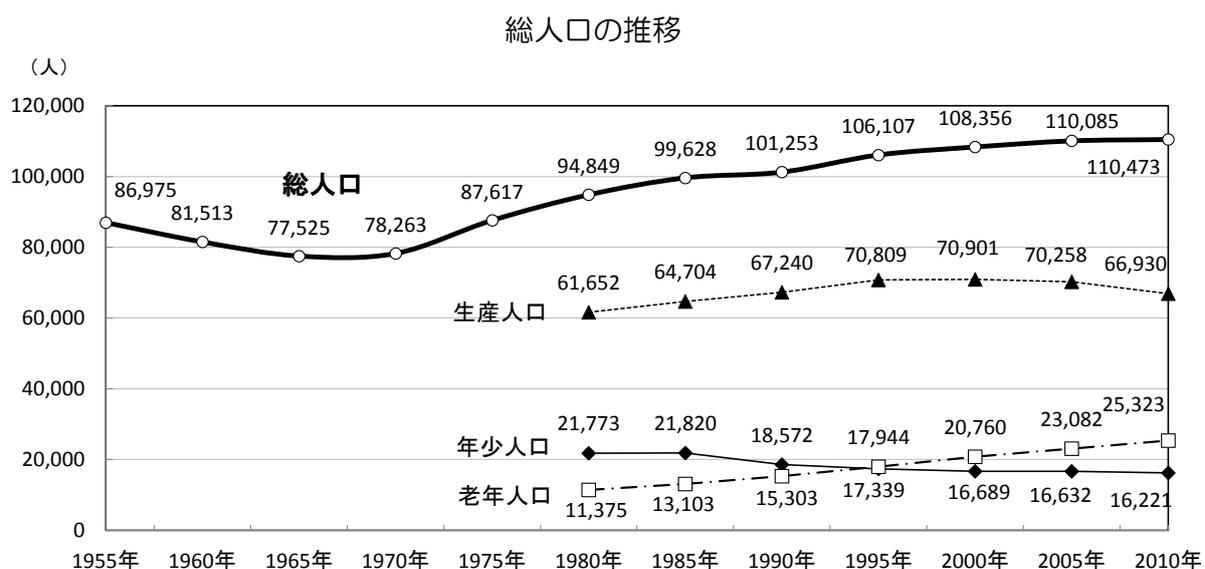
総人口の推移をみると(参考:1950年 87,339人)、第1次ベビーブームを過ぎて1970年まで人口減少が続きました。この原因は、社会情勢の影響と他の地域へ人口流出があったためと考えられています。

その後、1970年から現在まで人口増加が続いていますが、1985年以降は増加の幅は緩やかになっています。

年齢3区分別人口の推移をみると、1980年から現在まで、年少人口の減少が続いています。

生産年齢人口は1980年から2005年まで緩やかに増加していましたが、2005年以降は減少に転じています。

一方、老年人口は一貫して増加しており、1995年には老年人口が年少人口を上回りました。



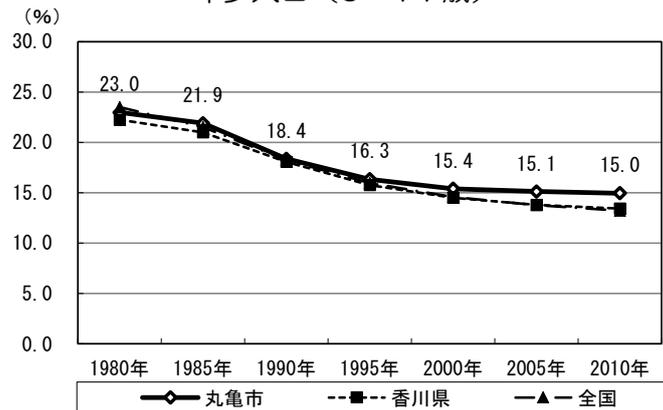
資料：国勢調査

(2) 人口比率の比較（国・県）

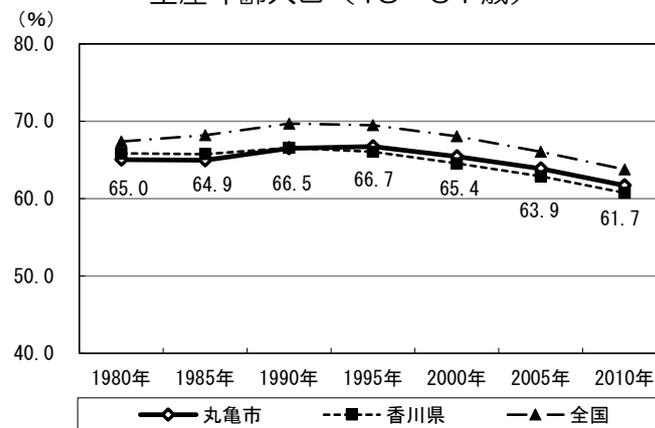
年齢3区分別人口比率をみると、年少人口比率では1995年までは県や国の割合と大きく変わらず減少傾向で推移していましたが、2000年以降は本市が県や国の割合を上回っています。

生産年齢人口比率では、国の割合を下回った状態で推移している一方で、老年人口比率では、国の割合を上回った状態で増加を続けています。

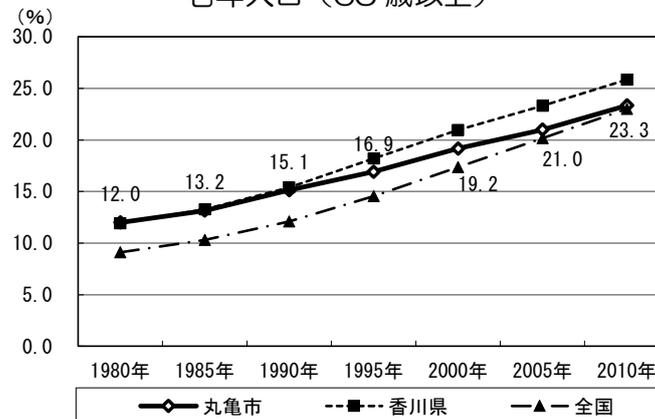
年少人口（0～14歳）



生産年齢人口（15～64歳）



老年人口（65歳以上）

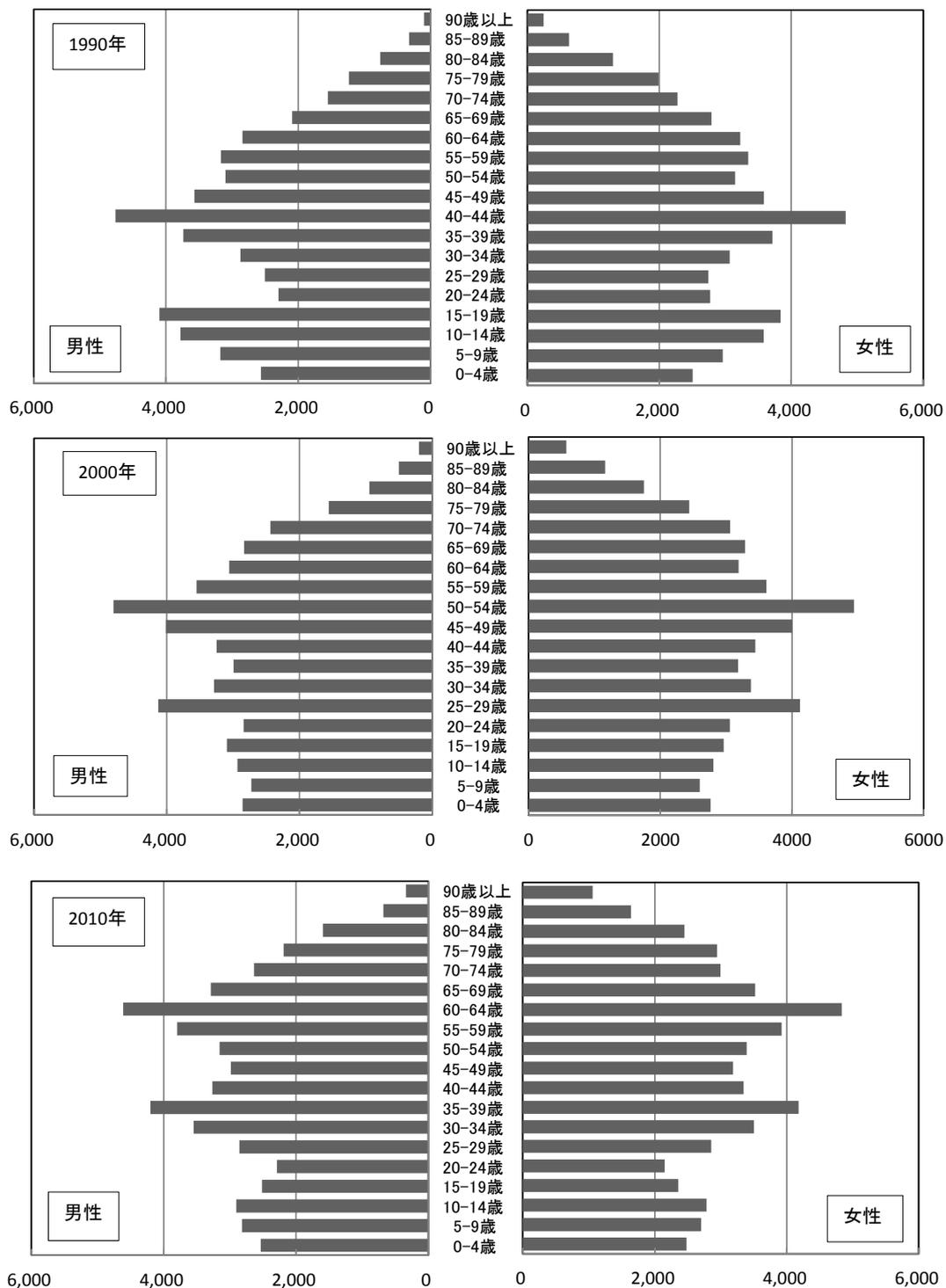


資料：国勢調査

(3) 人口ピラミッド

人口ピラミッドの推移をみると、団塊世代が61～63歳になった2010年には、60～64歳人口が男性女性ともに多くなっています。また、1990年から2010年にかけては、男性女性ともに19歳以下の人口が大きく減少するとともに、65歳以上の高齢者人口が大きく増加しており、特に2010年には、75歳以上の後期高齢者人口の増加が顕著になっています。

人口ピラミッド（1990年、2000年、2010年）

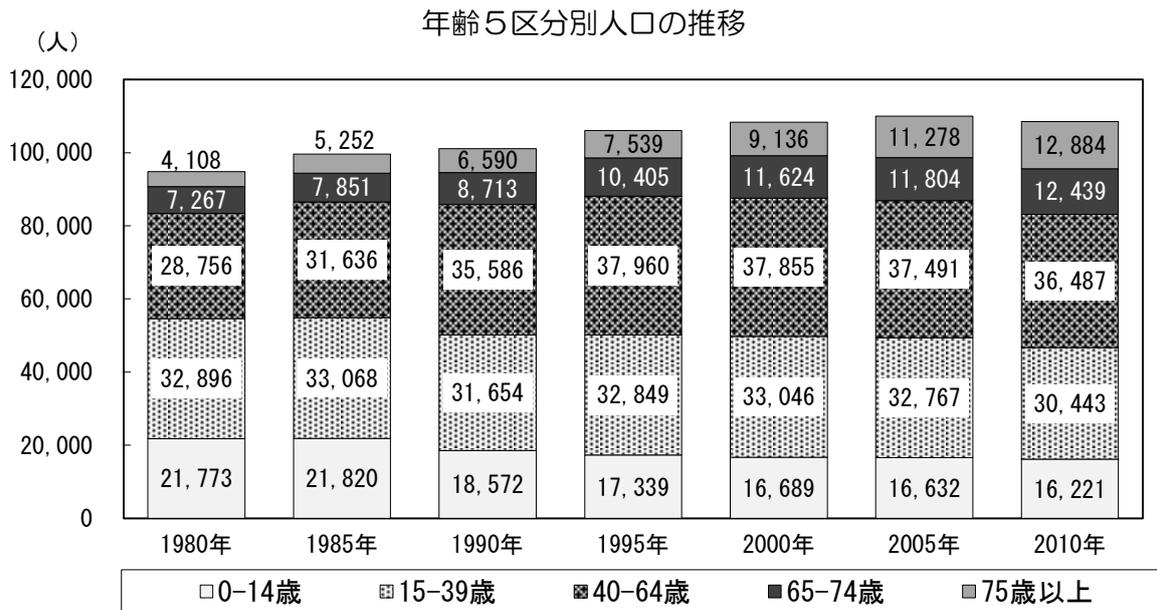


資料：国勢調査

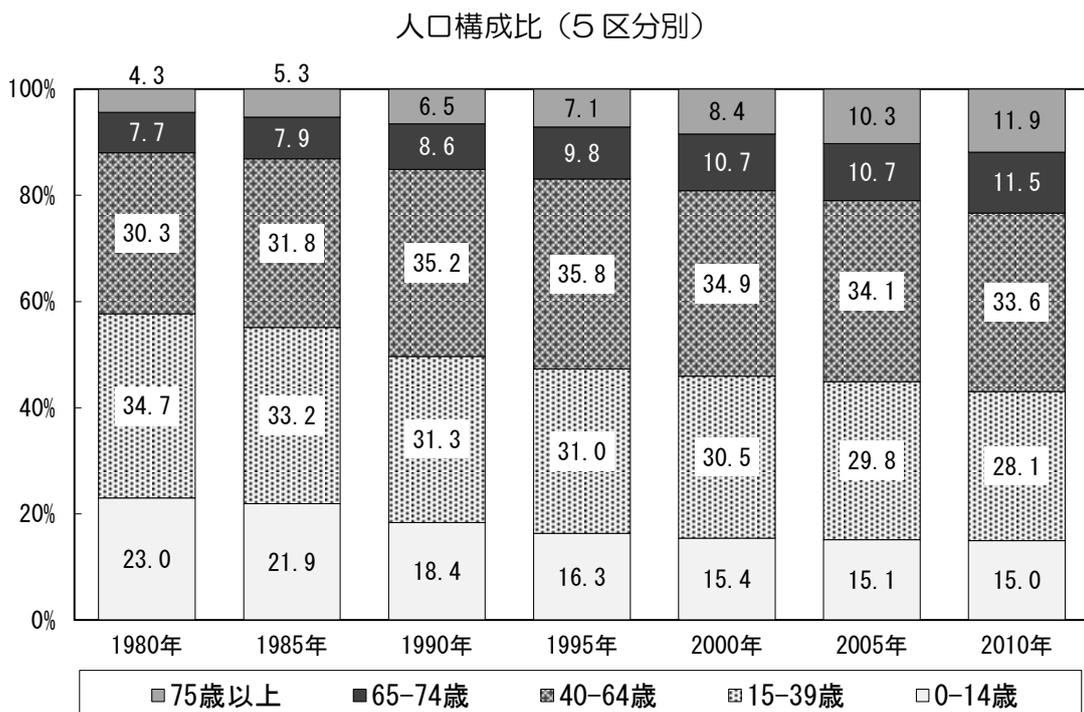
(4) 年齢5区分人口の推移

年齢5区分別人口の推移をみると、0～14歳人口は、1980年から2010年にかけて5,552人減少している一方で、後期高齢者にあたる75歳以上人口は、8,866人増加しています。

また人口構成比をみても、0～14歳人口と15～39歳人口の割合が減少しており、40～64歳人口から上の年齢層では、割合が増加しています。



資料：国勢調査



資料：国勢調査

2 人口増減の要因

(1) 自然増減、社会増減の推移

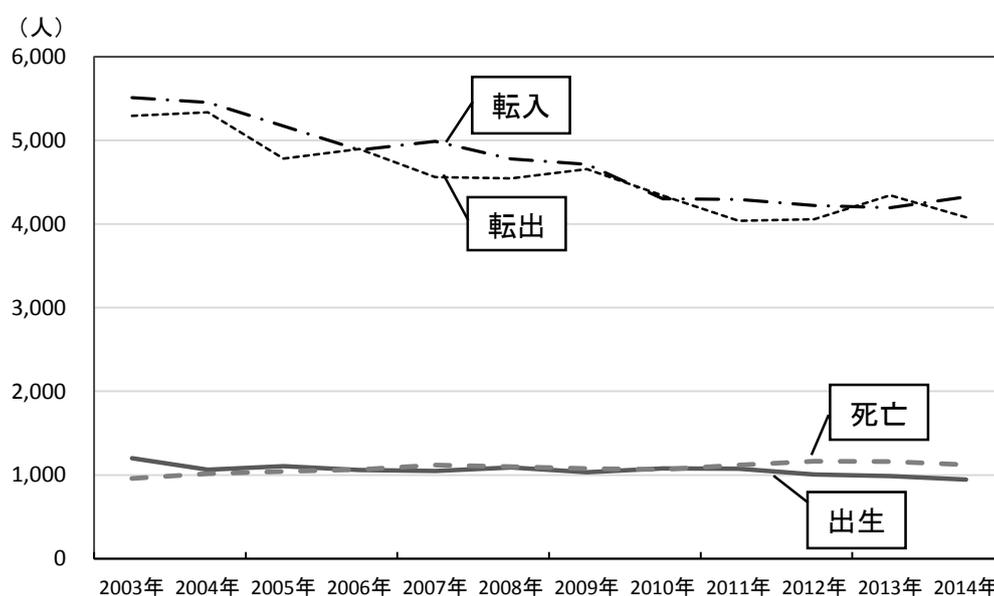
① 出生・死亡数、転入・転出数の推移

自然増減（出生数－死亡数）については、2006年までは出生数が死亡数を上回っており自然増でしたが、それ以降は自然減に転じており、出生数と死亡数の差も年々広がっています。

社会増減（転入数－転出数）については、年による変動があるものの転入数が転出数を上回っている年が多く、総体的に社会増となっています。

人口動態全体では、自然減が大きく、人口減少の傾向にあります。

出生・死亡数、転入・転出数の推移



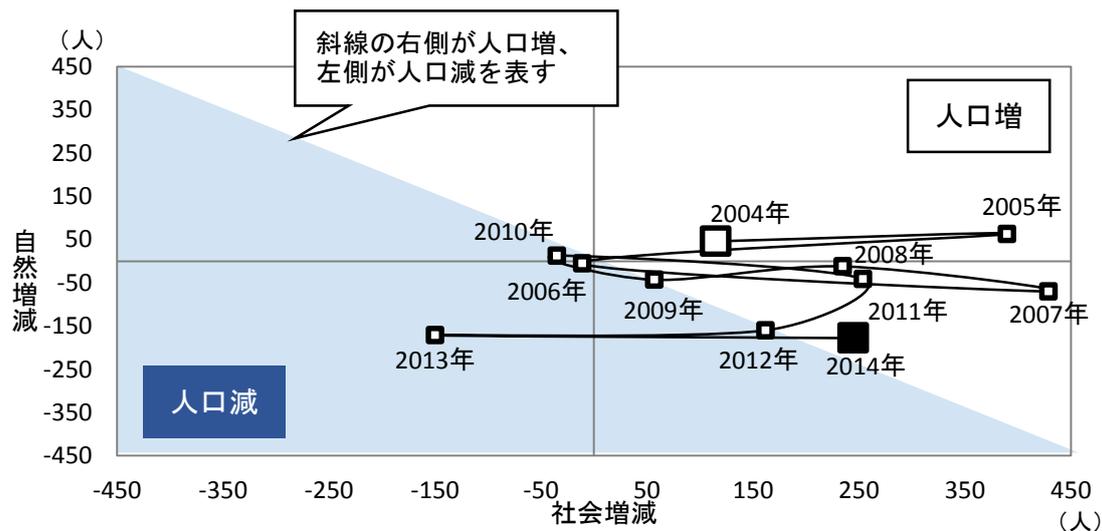
資料：香川県人口移動調査報告

②自然増減と社会増減の影響

自然増減では、減少を示している年が多く、出生数の減少や死亡数の増加による人口減少の局面がみられます。

社会増減では、2013年に大きく減少していますが、その他の年では増加を示す年が多く、社会増減による増加数をもっとも多い年は2007年（+429人）となっています。

自然増減と社会増減の影響（2004～2014年）



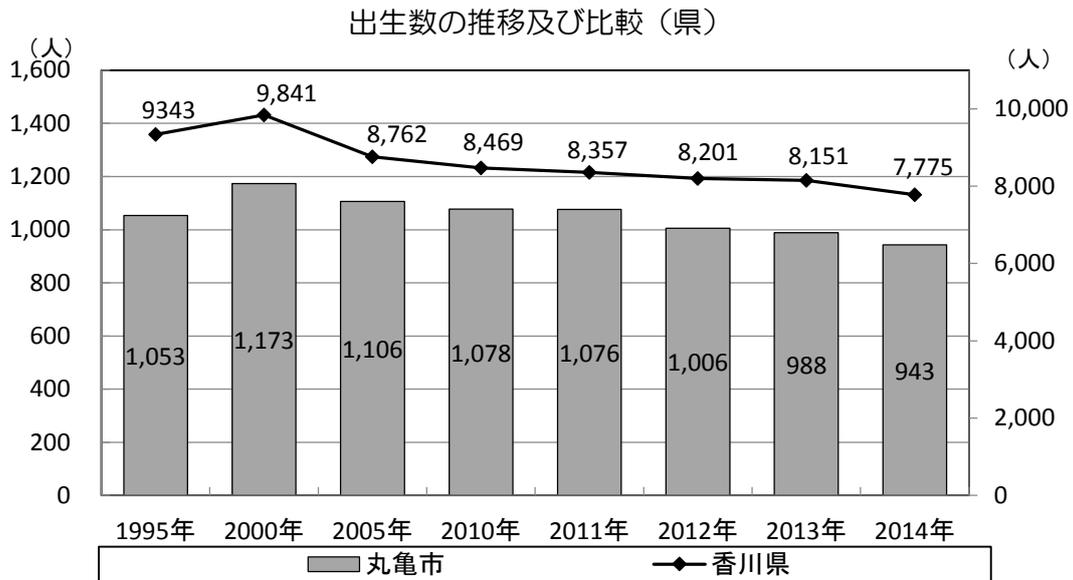
資料：香川県人口移動調査報告

(2) 自然増減の状況

① 出生数の推移及び比較（県）

出生数の推移をみると、年によって増減を繰り返していますが、2014年には988人となっており、この20年で初めて1,000人を下回り、1995年と比較しても100人以上減少しています。

また、県においても同様に減少の推移を示しています。

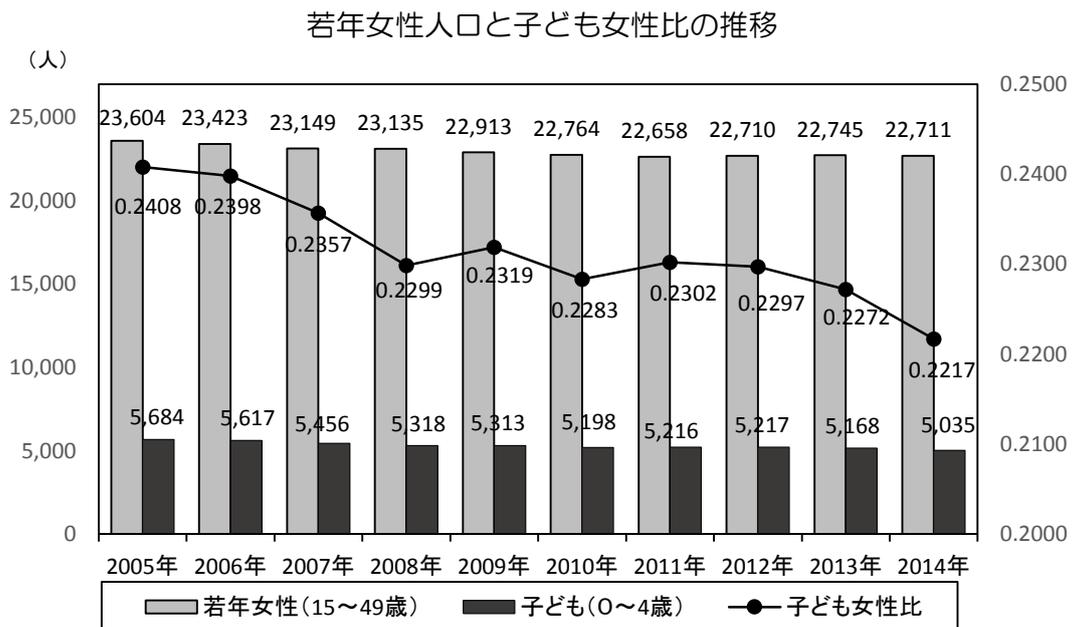


資料：香川県人口移動調査報告

② 若年女性人口の推移

人口の再生産力を示す指標である若年女性人口（15～49歳女性）は減少しており、出生数の減少の要因の一つとなっていると考えられます。

また、子ども女性比も減少傾向にあります。



資料：住民基本台帳

(3) 社会増減の状況

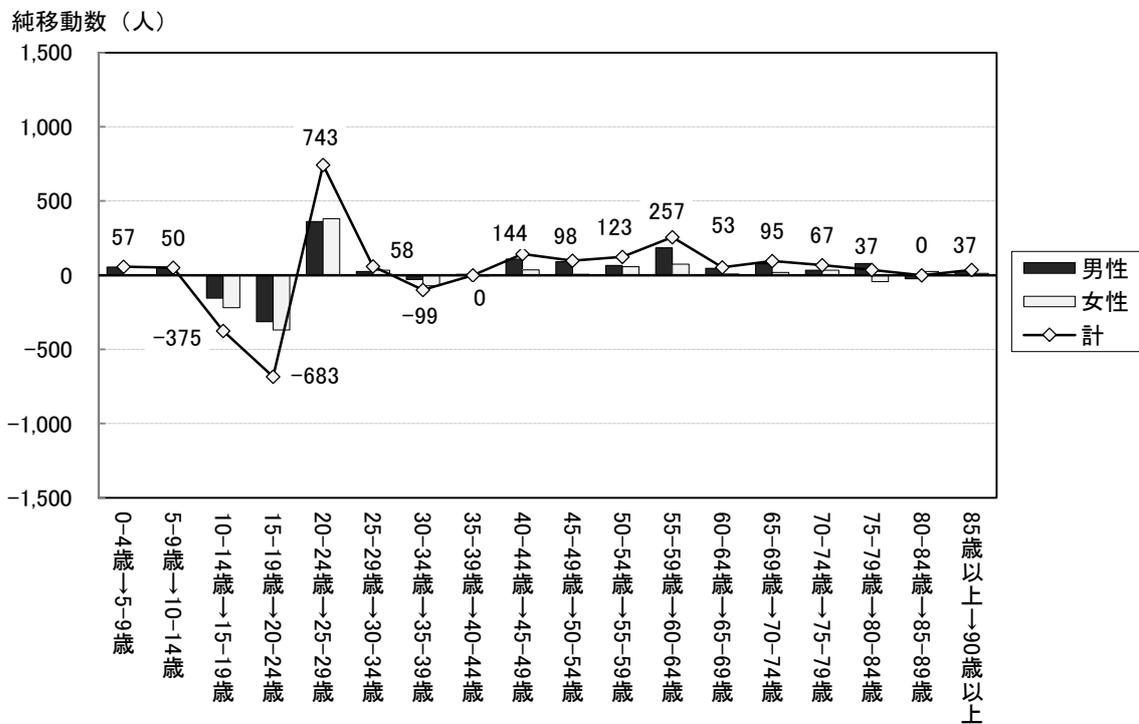
① 性別・年齢階級別の純移動数の状況

性別・年齢階級別の純移動数をみると、進学や就職を機にした若者の転出超過がみられるものの、その後の U ターンにあたる 20-24 歳→25 歳-29 歳の転入超過もみられます。

晩婚化が進み、子育て世代が 30 代となっている中で、本市の 30 歳-34 歳→35 歳-39 歳での転出傾向もみられます。

また、55 歳-59 歳→60 歳-64 歳前後で、定年を機に移住や U ターンによる転入超過が見受けられます。

2005 年→2010 年の男女別・年齢別純移動数



資料：国勢調査

②年齢別の社会動態（2010年）

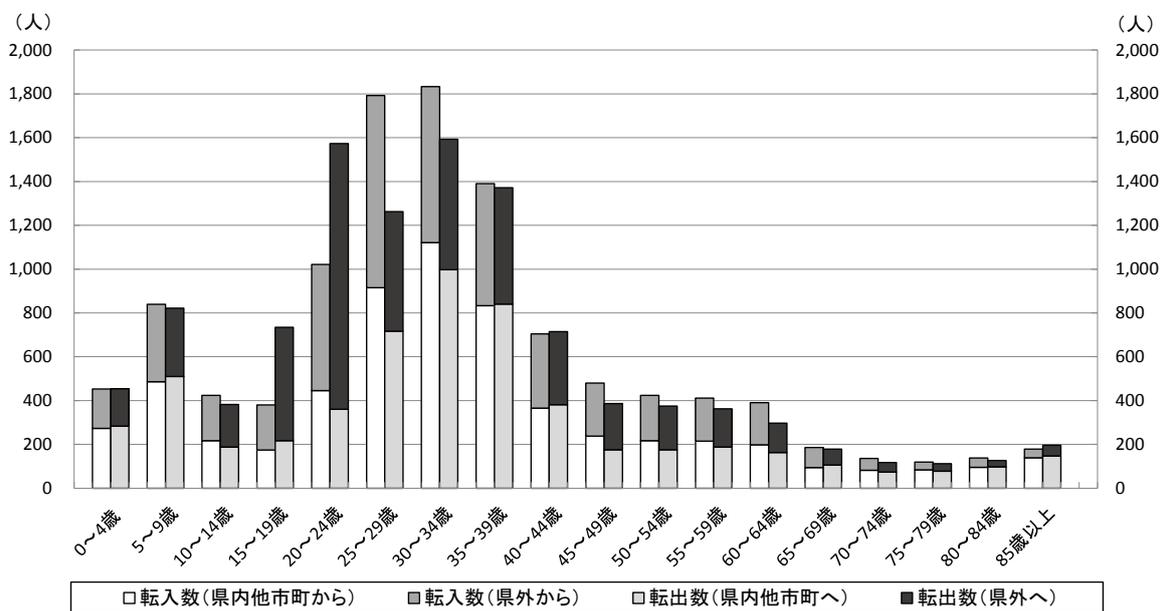
年齢別の社会動態をみると、転入数は25歳から39歳にかけて多くなっており、転勤や結婚・子育てを機に転入してくる人が多いと予測されます。

転出数は、20歳から39歳にかけて多くなっており、最も多いのは30歳から34歳、次いで20歳から24歳となっています。

転勤や結婚だけでなく、進学、就職を機に本市を離れる人も多いと予測されます。

また、15歳から24歳にかけては、県外への転出数が県内各市町村への転出数を大きく上回っています。

5年前との比較による転入・転出数



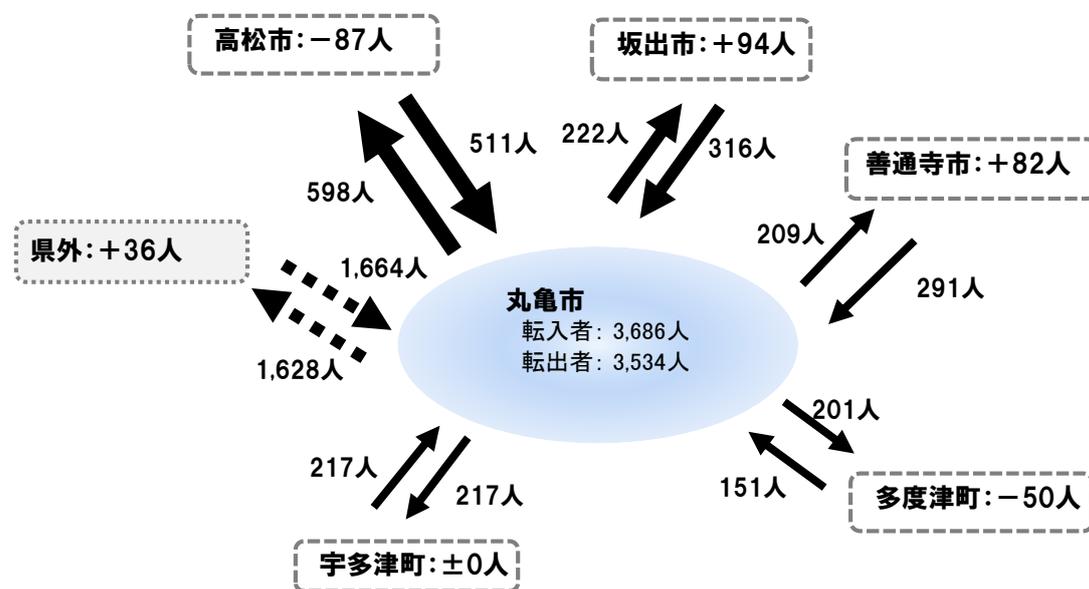
資料：国勢調査

③ 県外・県内周辺市町への人口移動の状況（2014年）

県内周辺市町における主な転入元と転出先をみると、転出入者数ともに高松市が最も多くなっており、次いで坂出市となっています。高松市と多度津町では転出者数が転入者数を上回っており転出超過となっています。

本市では、15歳から24歳といった進学・就職の年齢階級において転出超過の傾向があり、転出先としては県内より県外の方が多くなっています。

県外・県内周辺市町への人口移動（2014年）



資料：住民基本台帳人口移動報告

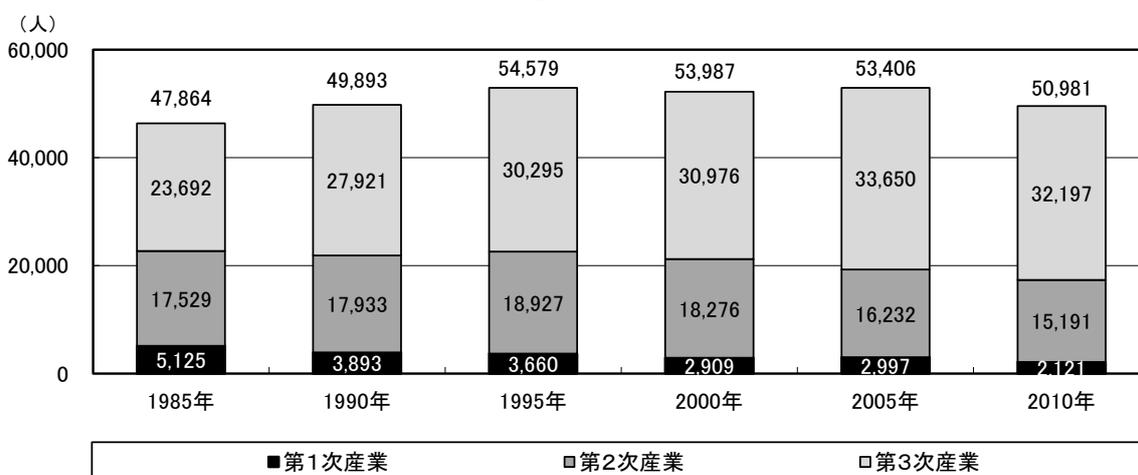
3 就業状況

(1) 産業構造別人口の推移

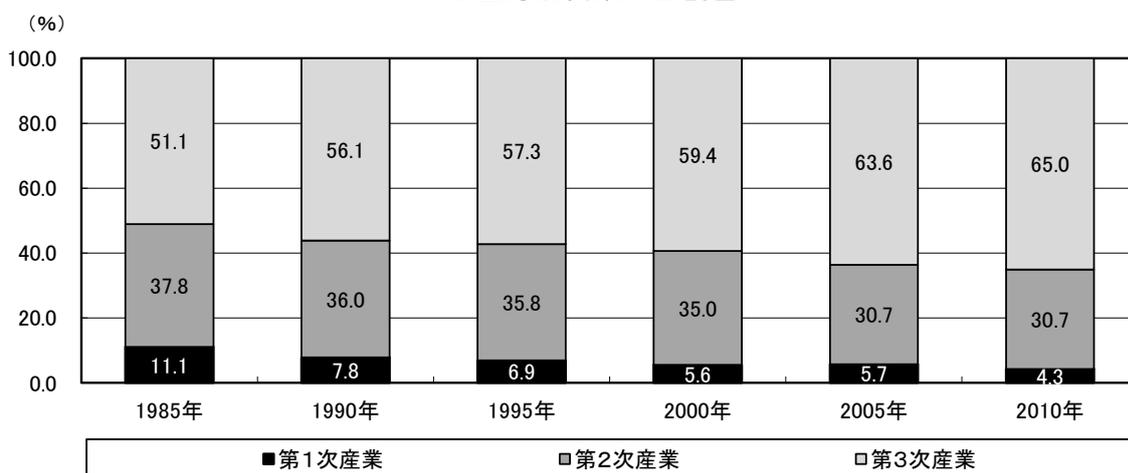
産業構造別人口の推移をみると、就業人口は2000年以降減少しており、2010年には50,981人となっています。

また、産業構造の3区分別就業人口割合をみると、第1次産業と第2次産業が低下しているのに対し、第3次産業は就業人口が若干減少しているものの、就業人口割合は上昇しており、2010年には全体の65.0%を占めています。

3区分別就業人口



3区分別就業人口割合



資料：国勢調査

(2) 男女別年齢別就業人口

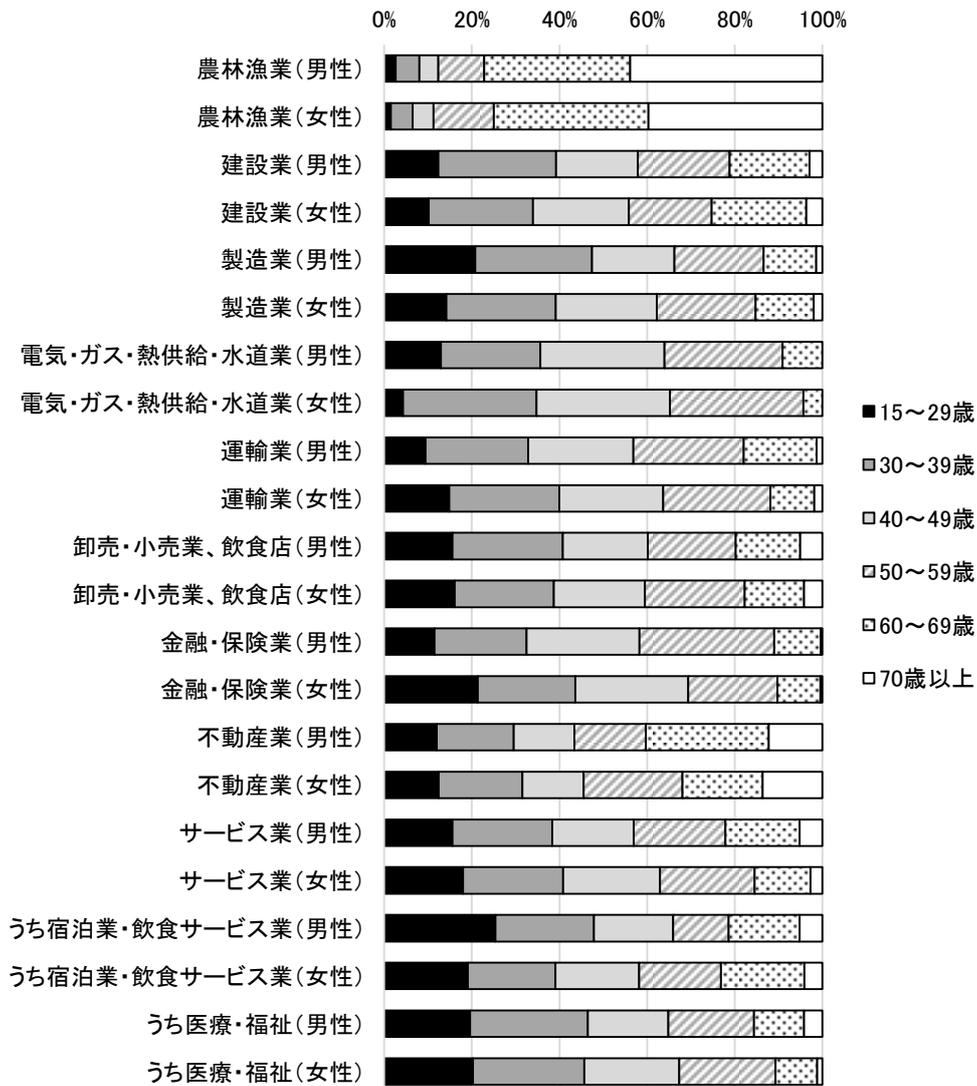
男女別年齢別就業人口をみると、農林漁業では、男女ともに60歳以上が4割を超えるという高齢化が進む一方で、15～39歳の割合が極めて低く、若い世代の新規参入者や後継者の不足が進んでいることがうかがえます。

製造業では、男性の15～29歳の割合が約2割となっており、毎年新規の就業人口が一定数いることがうかがえます。

また、同じように、卸売・小売業、飲食店や金融・保険業（女性）、サービス業、特に宿泊業・飲食サービス業（男性）、医療・福祉において若い世代の割合が比較的高くなっています。

医療・福祉は、高齢化の進行に伴う要介護認定者数の増加等により、今後さらにニーズが高まることも予測されます。

男女別年齢別産業人口（2010年）



資料：国勢調査

4 地域産業・経済の特徴

(1) 地域経済圏

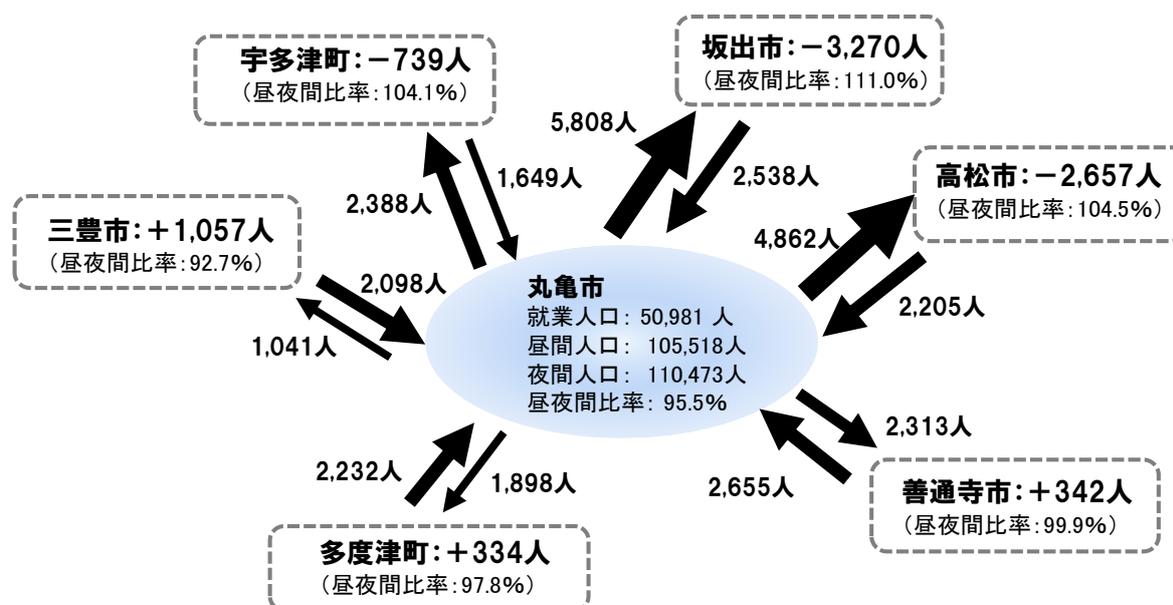
就業人口の流入と流出をみると、坂出市への流出人口が最も多く、他の近隣市町の状況を合わせても、流入人口より流出人口の方が多くなっています。

就業人口の流出入は坂出市を除くと、高松市、三豊市、宇多津町において多くなっており、通勤圏は概ね1時間程度であると思われます。

2005年度から2010年度にかけて、就業人口は減少しています。

また、昼夜間比率もやや減少しており、市外へ通学や通勤をする人が増加したため、夜間人口が増えたと考えられます。

就業人口の流入・流出の状況（2010年）



(人)

	坂出市		高松市		宇多津町		善通寺市		多度津町		三豊市	
	流入	流出	流入	流出								
2005年	2,387	6,058	1,338	4,717	1,564	2,508	2,706	2,380	2,208	1,746	2,155	985

※2005年の丸亀市：就業人口53,406人 昼夜間比率：94.6%

資料：国勢調査

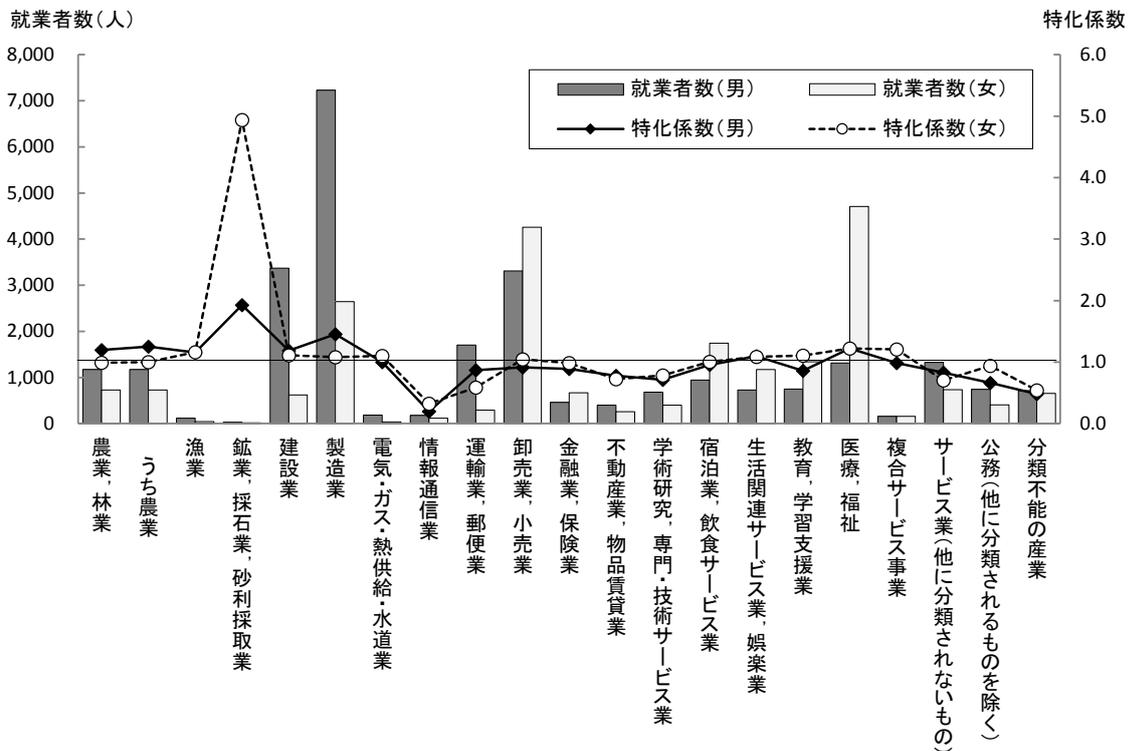
(2) 市民が就業している産業

男女別産業人口をみると、男女とも製造業や小売業・卸売業への就業者が多くなっており、また男性では建設業、女性では宿泊業・飲食サービス業や医療・福祉サービス業への就業者が多くなっています。

産業別の特化係数（本市の就業者比率／全国の就業者比率）をみると、特に男性の鉱業・採石業・砂利採取業が突出して高くなっています。

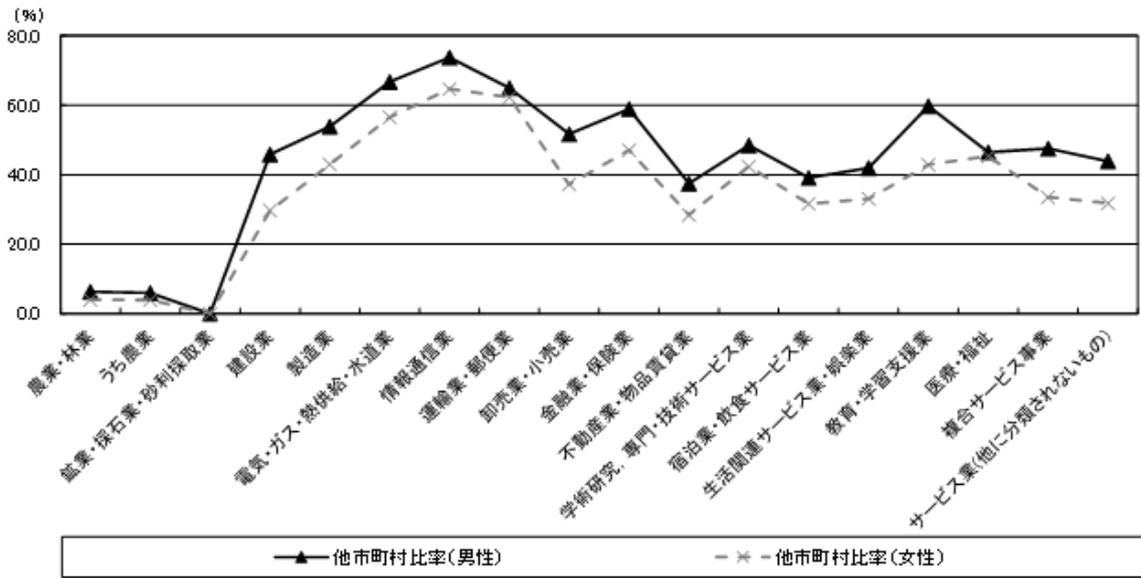
一方、他市町村への就業割合をみると、約8割を占める情報通信業をはじめとし、多くの産業で近隣市町に出て就労している市民が多くなっていますが、農業・林業と鉱業・採石業・砂利採取業は、圧倒的に市内における就業割合が大きくなっています。

男女別従業員数と特化係数（2010年）



資料：国勢調査

男女別産業別の他市町村への就業割合（2010年）



資料：国勢調査

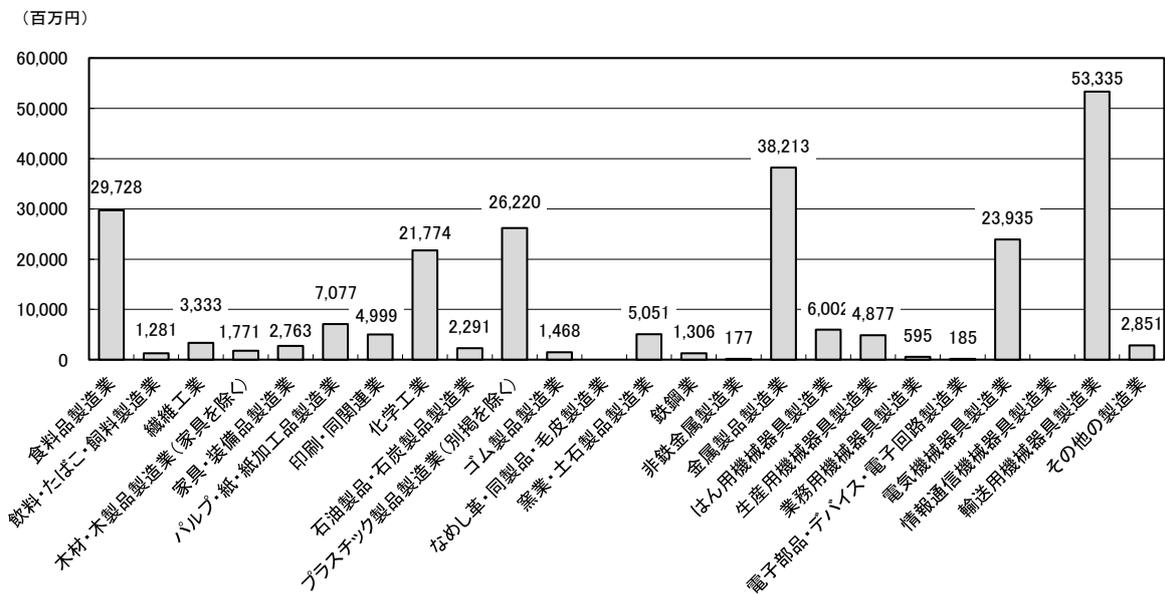
(3) 製造業

製造業は、男女ともに従業員数が多くなっています。他市町村への就業割合も高いため、就業者の流出入が顕著にみられる地域経済圏を含む坂出・丸亀地区の業種別付加価値額をみると、輸送用機械器具製造業の付加価値額が高くなっています。

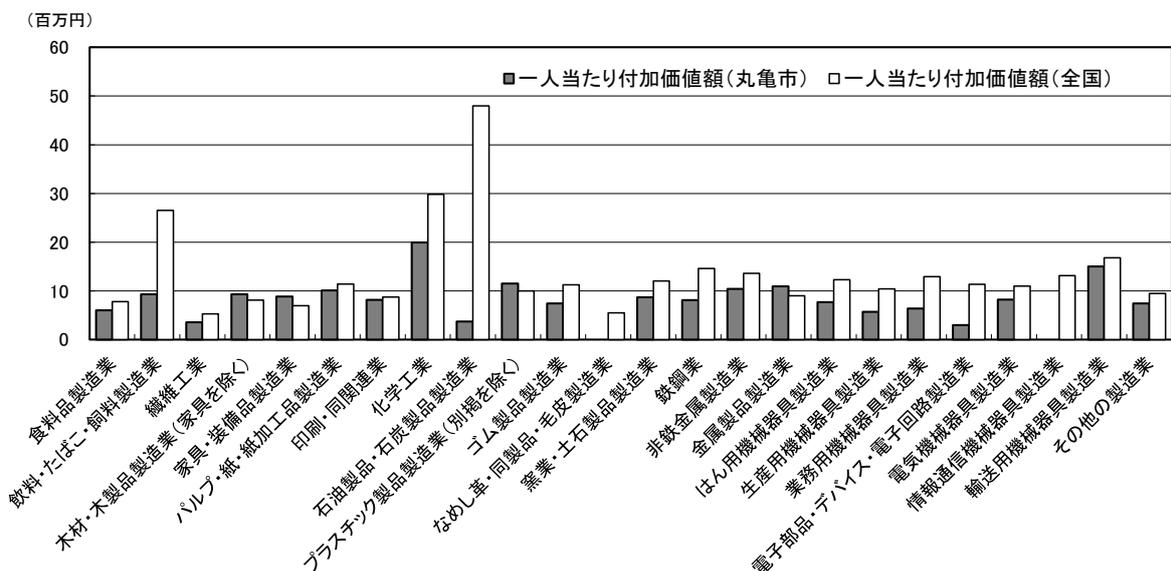
また、木材・木製品製造業（家具を除く）、家具・装備品製造業、プラスチック製品製造業（別掲を除く）、非鉄金属製造業において、一人当たり付加価値額も全国を上回っています。

なお、付加価値額はほぼ人件費に等しいため、付加価値額の高さは就業機会の大きさを表しています。

坂出・丸亀地区の業種別付加価値額（2013年）



坂出・丸亀地区と全国の1人当たり業種別付加価値額の比較（2013年）



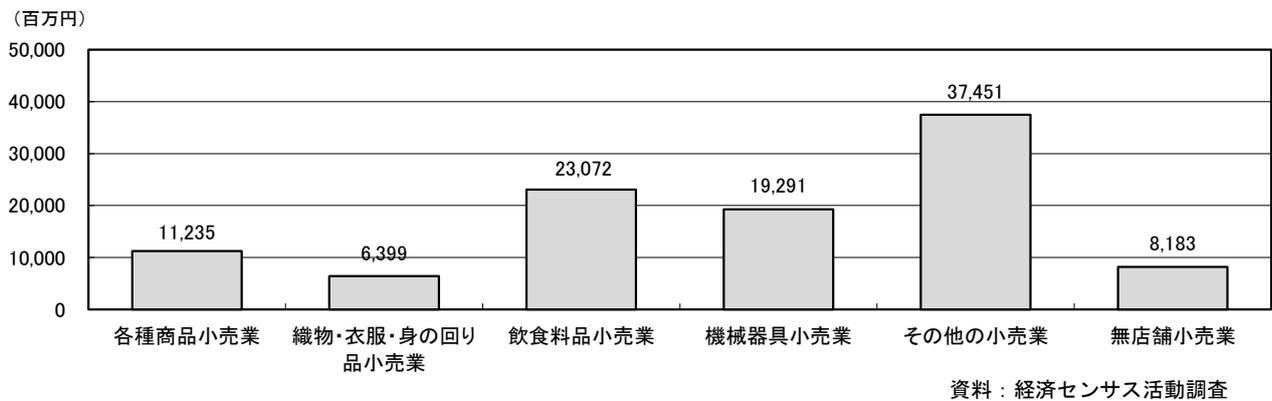
資料：工業統計

(4) 卸売業・小売業

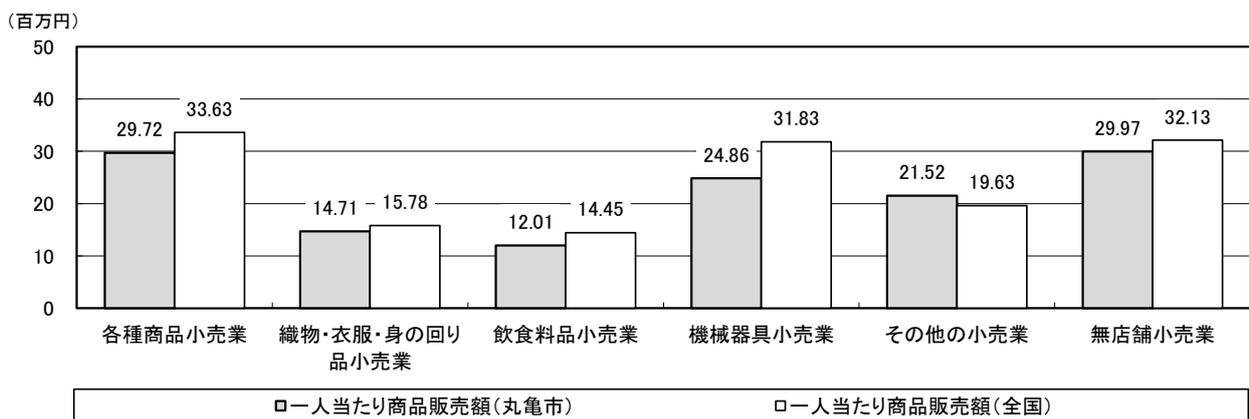
卸売業・小売業の従業員数は、他の産業と比較して男女とも従業員数が多くなっています。

業種別年間商品販売額をみると、その他の小売業が約 374 億円と比較的高くなっています。また、一人当たり年間商品販売額で全国と比較すると、わずかに全国の値を上回っており、他の業種については全国の値を下回っています。

丸亀市の業種別年間商品販売額（2012 年度）



丸亀市と全国の 1 人当たり業種別年間商品販売額の比較（2012 年度）



(5) 農業

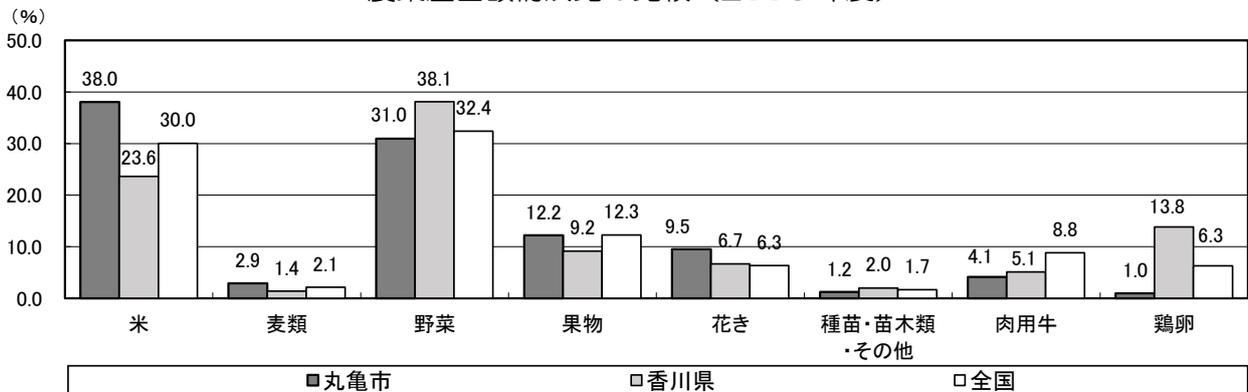
農業産出額を生産品目別にみると、米が約4割ともっとも高くなっており、県や国と比較しても農業産出額に占める割合が高くなっています。

次いで、野菜、果物と続きます。

経営耕地面積をみても、2000年度から2010年度まで田が約9割を占めています。

しかし、耕作放棄地は増加傾向にあり、農業への就業人口の高齢化や後継者不足などによって、経営耕地の放棄や縮小が進んでいるとみられます。

農業産出額構成比の比較（2006年度）



資料：生産農業所得統計

経営耕地面積と耕作放棄地

		(ha)		
		2000年度	2005年度	2010年度
合計	合計	2,635	2,124	2,102
	うち田	2356 (89.4%)	1933 (91.0%)	1937 (92.2%)
	うち畑	87 (3.3%)	33 (1.6%)	34 (1.6%)
	うち樹園地	192 (7.3%)	158 (7.4%)	131 (6.2%)
耕作放棄地		144	329	316

資料：農林業センサス

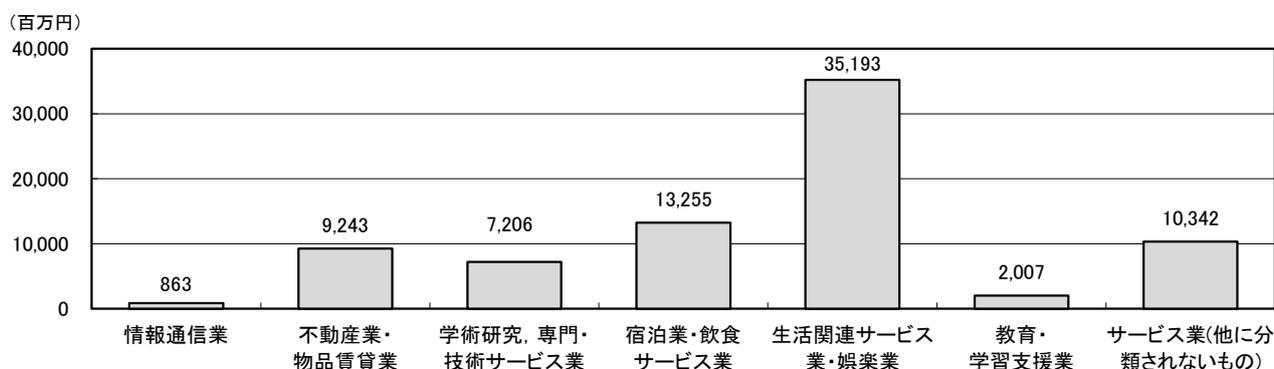
(6) サービス業

① サービス業全体

サービス関連産業Bの売上（収入）金額をみると、生活関連サービス業・娯楽業の売上（収入）金額が大きくなっています。

一人当たりの売上（収入）金額を全国と比較しても、生活関連サービス業・娯楽業で全国の値を上回っており宿泊業・飲食サービス業や教育・学習支援行においてもわずかに全国を上回っていますが、不動産業・物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業を中心に改善の余地がみられます。

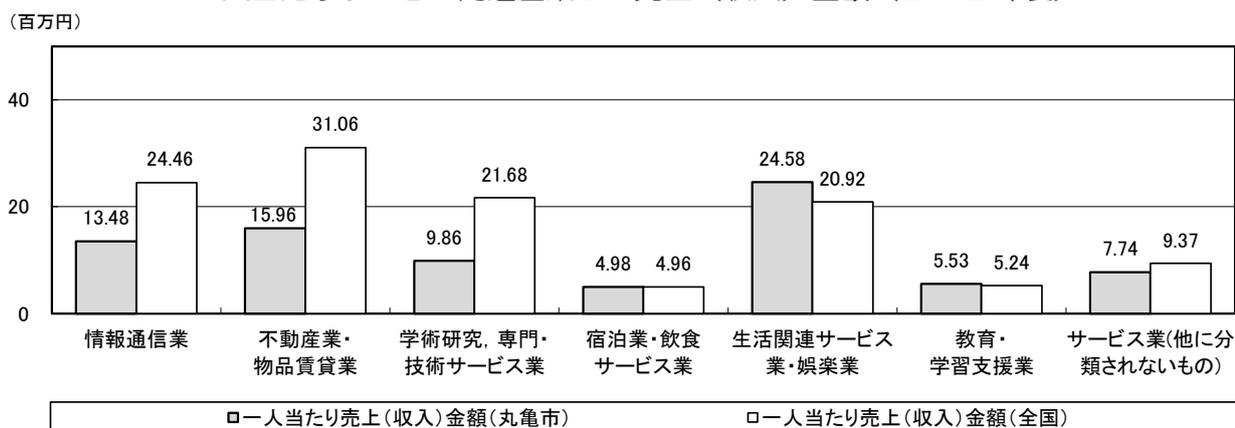
サービス関連産業Bの売上（収入）金額（2012年度）



注：サービス関連産業Bとは、情報通信業の一部、不動産業・物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業の一部、サービス業(他に分類されないもの)の一部を指す。

資料：経済センサス活動調査

一人当たりサービス関連産業Bの売上（収入）金額（2012年度）



注：サービス関連産業Bとは、情報通信業の一部、不動産業・物品賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業、宿泊業・飲食サービス業、生活関連サービス業・娯楽業、教育・学習支援業の一部、サービス業(他に分類されないもの)の一部を指す。

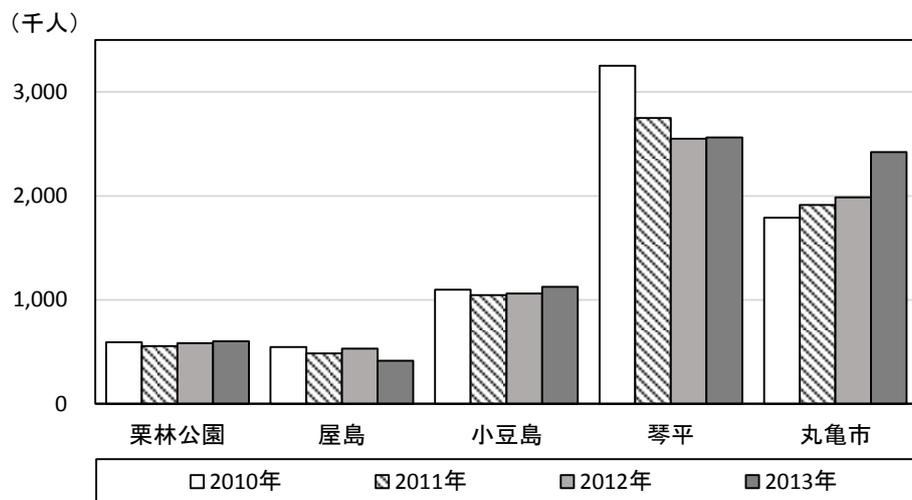
資料：経済センサス活動調査

②観光に関わるサービス業

観光客の状況をみると、県内主要観光地の観光客は、横ばいや減少傾向にある中、本市を訪れる観光客は年々増加しています。

本市は、丸亀城や猪熊弦一郎現代美術館などの歴史文化、瀬戸内海等の豊富な地域資源を有しています。

観光客の状況（香川県内主要観光地との比較）



資料：平成 26 年度版 丸亀市統計書

5 まちの状況

(1) 全国調査の結果から見た丸亀市

①東洋経済新報社「都市データパック」

◎住みよさランキング

	2015 (791市)	2014 (790市)	2013 (790市)	2012 (788市)	2011	2010 (787市)
全都市	91位	62位	109位	84位	—	108位
西日本(近畿以西)	25位	20位	32位	21位	—	24位
四国内	1位	1位	1位	1位	—	2位

※内訳(全都市順位)

	2015	2014	2013	2012	2011	2010
安心度	248位	178位	153位	93位	—	96位
利便度	185位	187位	284位	253位	—	247位
快適度	99位	75位	111位	138位	—	108位
富裕度	346位	355位	368位	373位	—	382位
住居水準充実度	396位	349位	350位	348位	—	399位

<算出に用いた指標>

安心度…①病院・一般診療所病床数②介護老人福祉施設・介護老人保健施設定員数③出生数
④保育所定員数－待機児童数

利便度…⑤小売業年間販売額⑥大型小売店店舗面積

快適度…⑦汚水処理人口普及率⑧都市公園面積⑨転入・転出人口比率⑩新設住宅着工戸数

富裕度…⑪財政力指数⑫地方税収入額⑬課税対象所得

住居水準充実度…⑭住宅延べ床面積⑮持ち家世帯比率

◎財政健全度

	2015 (790市)	2014 (790市)	2013 (789市)	2012	2011	2010 (783市)
全都市	258位	258位	311位	—	—	288位
香川県内	2位	2位	2位	—	—	1位

<算出に用いた指標>

①人口1人あたり地方債残高②地方債依存度③実質公債費比率④将来負担比率

⑤経常収支比率⑥公債費負担比率⑦自主財源比率⑧財政力指数⑨地方税増加率

⑩人口1人あたり地方税収入額⑪生産年齢人口比率⑫人口増加率

⑬納税義務者1人あたり課税対象所得⑭地価上昇率

◎成長力

	2015 (791市)	2014 (790市)	2013 (790市)	2012	2011	2010 (787市)
全都市	26位	34位	118位	—	—	346位
香川県内	1位	1位	1位	—	—	5位

<算出に用いた指標>

- ①人口②世帯数③事業所数④従業者数⑤製造品出荷額等⑥卸売業年間販売額
⑦小売業年間販売額⑧新設住宅着工床面積⑨乗用車＋軽乗用車保有台数⑩課税対象所得額
⑪地方税収入額

◎民力度

	2015 (791市)	2014 (791市)	2013 (790市)	2012	2011	2010 (787市)
全都市	295位	305位	360位	—	—	605位
香川県内	4位	4位	4位	—	—	7位

<算出に用いた指標>

- ①事業所数②製造品出荷額等③卸売業年間販売額④小売業年間販売額⑤新設住宅着工戸数
⑥課税対象所得額⑦地方税収入額

②ブランド総合研究所「地域ブランド調査」

	2015			2014		
	1000市区町村	四国内	香川県内	1000市区町村	四国内	香川県内
魅力度	221位	11位	4位	194位	12位	4位
認知度	181位	8位	2位	213位	10位	2位
情報接触度	203位	8位	2位	216位	9位	2位
観光意欲度	207位	13位	4位	156位	11位	4位
居注意欲度	233位	12位	4位	260位	15位	4位
産品購入意欲度	58位	5位	3位	—	—	—
食品想起率	27位	1位	1位	24位	2位	2位
食品以外想起率	99位	4位	1位	63位	2位	1位

<設問>

- 魅力度…「どの程度魅力を感じますか」 認知度…「どの程度ご存知ですか」
情報接触度…「情報、話題などを見たり聞いたりしたことはありますか」
観光意欲度…「観光や旅行に行きたいと思いませんか」
居注意欲度…「住んでみたいと思いませんか」
産品購入意欲度…「購入したい商品はありますか」
食品・食品以外想起率…「購入したいものがあれば、具体的な産品名をお書きください」

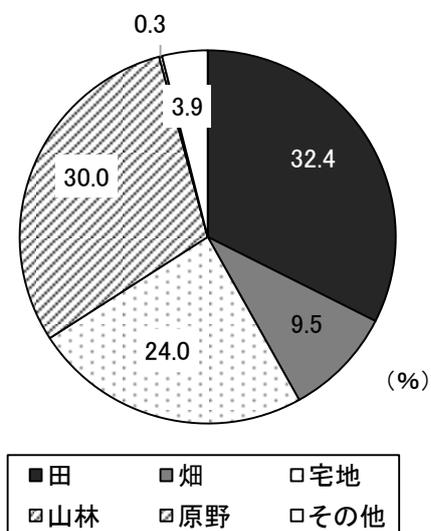
(2) 土地利用

①土地利用面積・利用率の状況

土地利用の状況を見ると、総面積の約4割が田畑、約3割を山林が占めており、自然環境に恵まれています。

また、約2.5割を占める宅地は主に、経済機能や交通機能が集中する市の北部に位置しています。

丸亀市における土地利用内訳（2013年）



資料：香川県統計年鑑

(3) 住宅所有、世帯状況

①住宅所有の状況（持ち家・借家・空き家）

住宅所有の状況を見ると、総住宅数 41,100 軒のうち、持ち家数が 29,130 軒となっており、持ち家率をみると、国よりは高く、県と同率となっています。

一方で、空き家数は 8,240 軒となっており、空き家率をみると、県よりはわずかに低く、国より高くなっています。

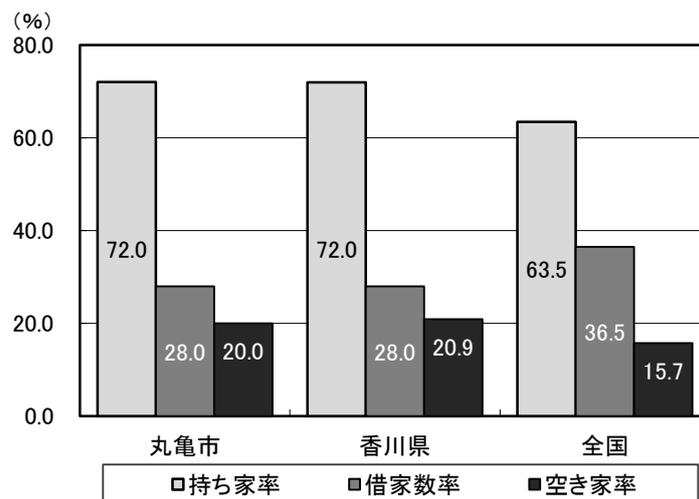
県の空き家率は、平成 25 年の調査でも全国で 4 番目に高くなっており、空き家を活用した定住人口の増加を目指す取組みの一環として、移住を希望されている方の住まいの確保を支援するため、県・市町と不動産取引業者団体の連携・協力の下、不動産取引業者団体が管理・運営する空き家バンク制度を行っています。

持ち家数・借家数・空き家の比較（2013 年度）

	丸亀市	香川県	全国
持ち家数	29,130	275,100	32,165,800
借家数	11,310	106,900	18,518,900
空き家数	8,240	80,900	8,195,600
総住宅数	41,100	387,500	52,102,200

資料：住宅・土地統計調査

総世帯数に対する持ち家率・借家率・空き家率の比較（2013 年度）



資料：住宅・土地統計調査

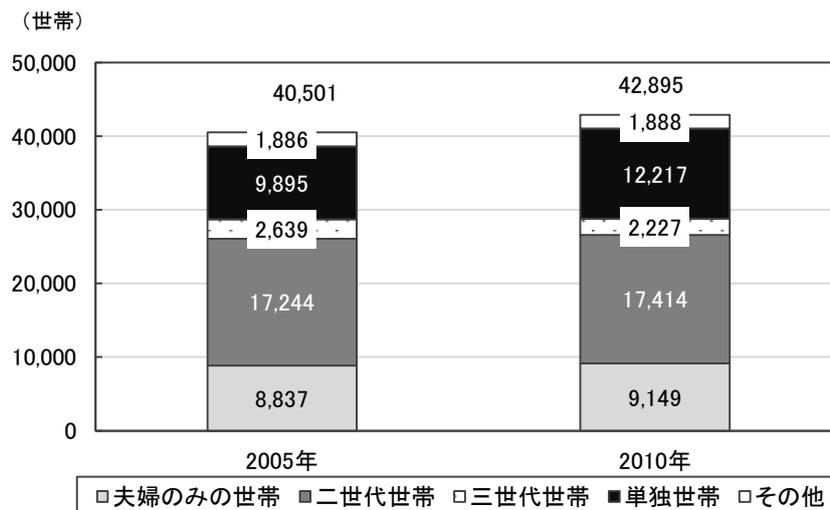
②世帯状況

世帯状況をみると、2005年から2010年の5年間で約2,400世帯増加し、42,895世帯となっています。

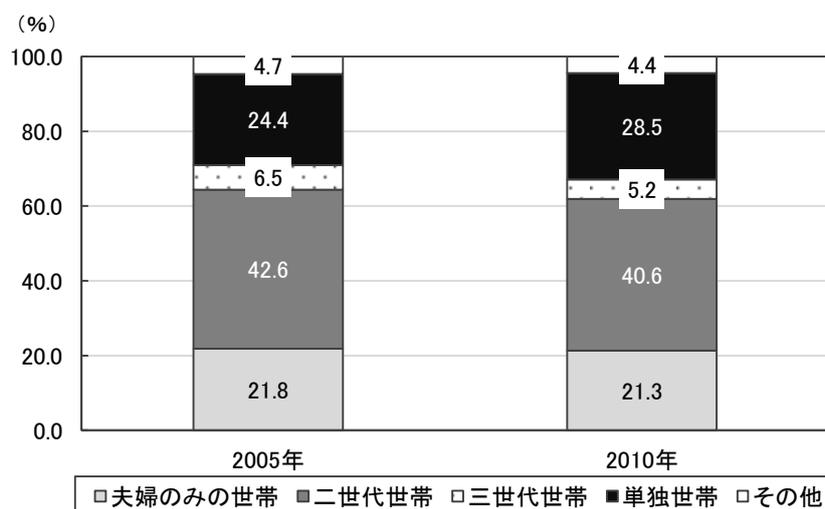
家族類型別の世帯数の推移をみると、「三世代世帯」以外は増加しています。

家族類型別の世帯割合の推移をみると2005年から2010年の5年間で「単独世帯」は4.1ポイント増加していますが、それ以外の世帯では減少しています。

家族類型別世帯数の推移



家族類型別世帯割合の推移



資料：国勢調査

6 子育て・医療の状況

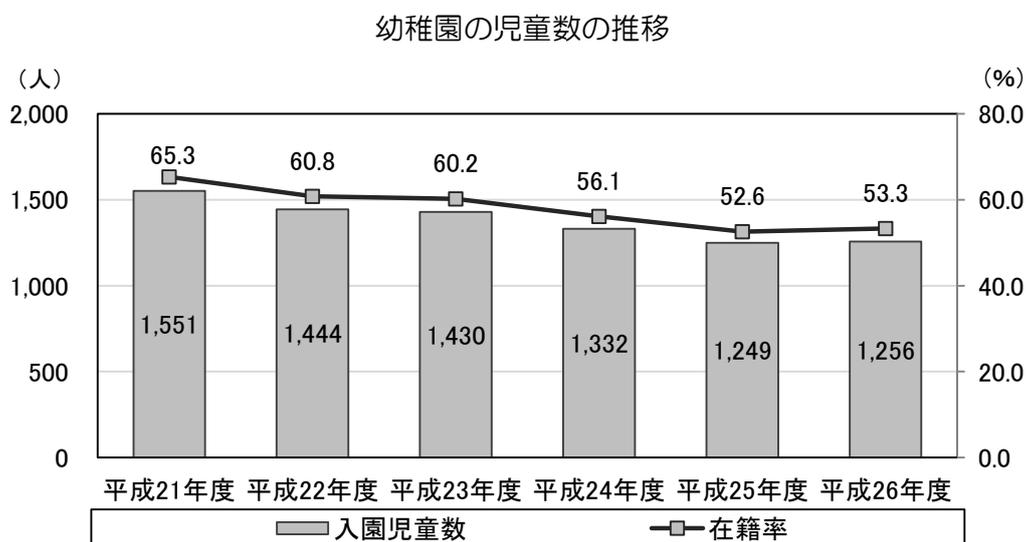
(1) 子育ての状況

幼稚園、保育所、小学校ともに定員数が利用児童数を上回る状況になっており、全国的に都市部等で問題となっている待機児童の発生はみられません。

①幼稚園の状況

平成26年5月1日現在、公立10か所、私立2か所、合計12か所の幼稚園があります。

入園児童数は、平成25年度まで大きい減少傾向が続き、平成26年度では1,256人となっています。

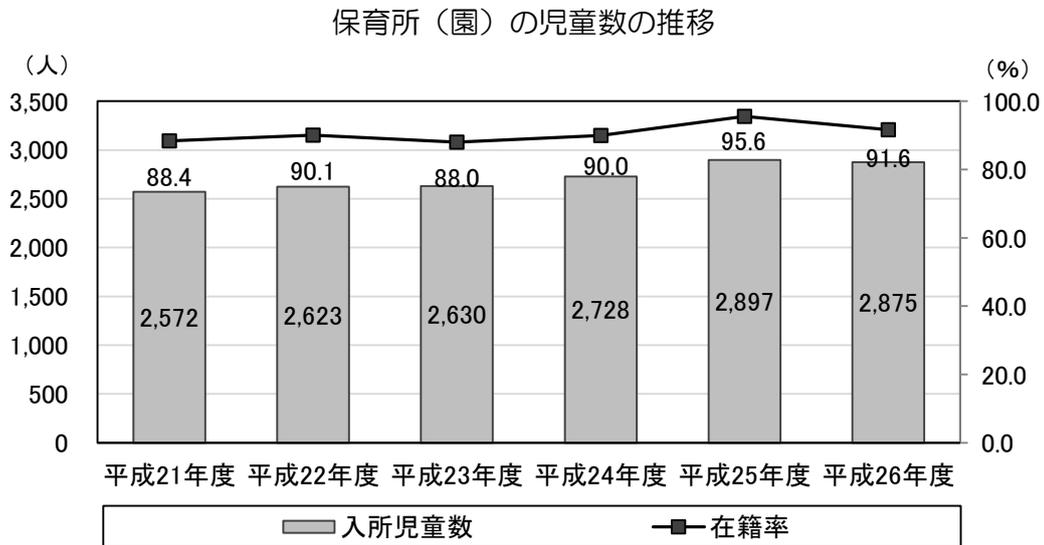


資料：丸亀市子ども・子育て支援事業計画

②保育所（園）の状況

平成26年4月1日現在、公立17か所（うち2か所は休所中）、私立10か所、合計27か所の保育所（園）があります。

入所児童数は、平成25年度までは増加傾向にありましたが、平成26年度は2,875人となっています。

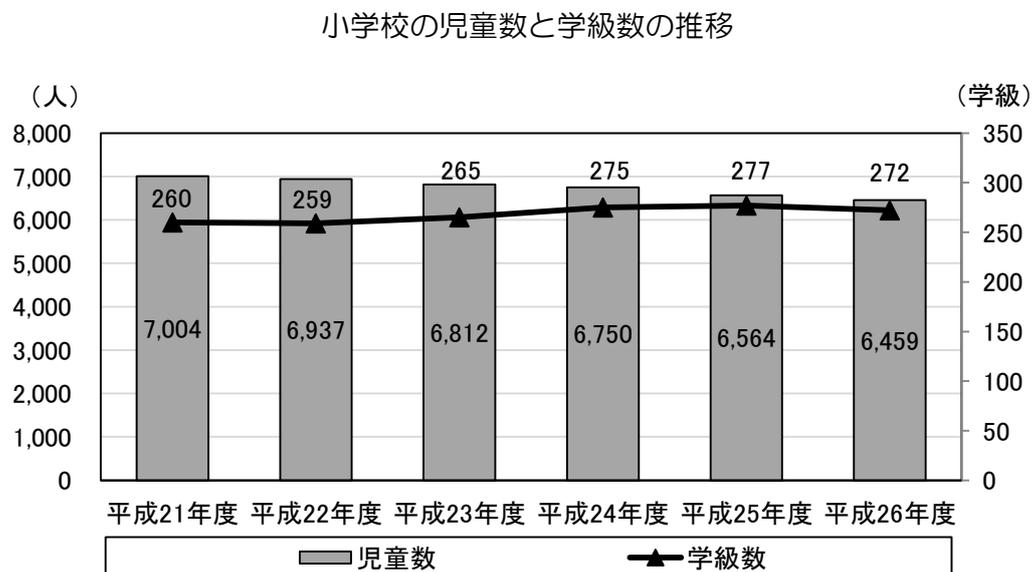


資料：丸亀市子ども・子育て支援事業計画

③小学校の状況

平成26年5月1日現在、18か所（うち1か所は休校中）の公立小学校があります。児童数は、年々減少しており、平成26年度は6,459人となっています。

学級数は、平成25年度までは増加傾向にありましたが、平成26年度には若干減少し、272学級となっています。

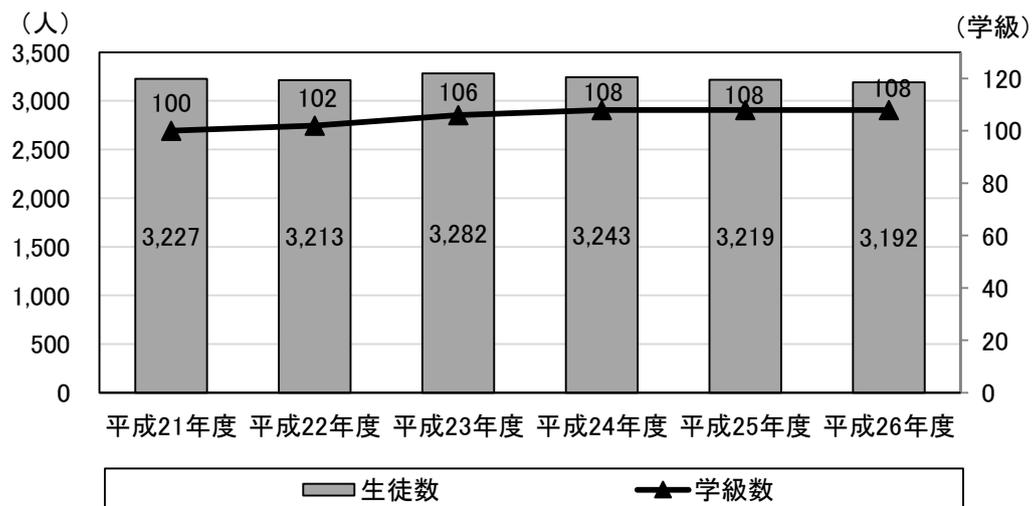


資料：学校基本調査（各年5月1日）

④中学校の状況

平成26年5月1日現在、8か所（うち2か所は休校中）の公立中学校があります。生徒数は、平成24年度以降減少しており、平成26年度は3,192人となっています。学級数は、平成24年度までは若干増加していましたが、それ以降は横ばいで推移しています。

中学校の生徒数と学級数の推移



資料：学校基本調査（各年5月1日）

(2) 医療の状況

①医療施設

2012年現在、病院が12か所、一般診療所が81か所、病院の病床数が1,982床、一般診療所の病床数が218床、医師数は245人となっています。歯科の現状は、歯科診療所施設数が51か所、歯科医師数が88人となっています。

病院数・診療所数及び病床数

	病院		一般診療所		歯科診療所	
	施設	病床	施設	病床	施設	病床
2006年	12	2,274	78	293	50	-
2007年	12	2,217	81	276	51	-
2008年	12	2,154	82	237	51	-
2009年	12	2,100	83	237	50	-
2010年	12	2,039	83	237	51	-
2011年	12	1,982	80	218	50	-
2012年	12	1,982	81	218	51	-

資料：平成26年版 丸亀市統計書（各年12月31日）

医療関係従事者数の推移

単位：人

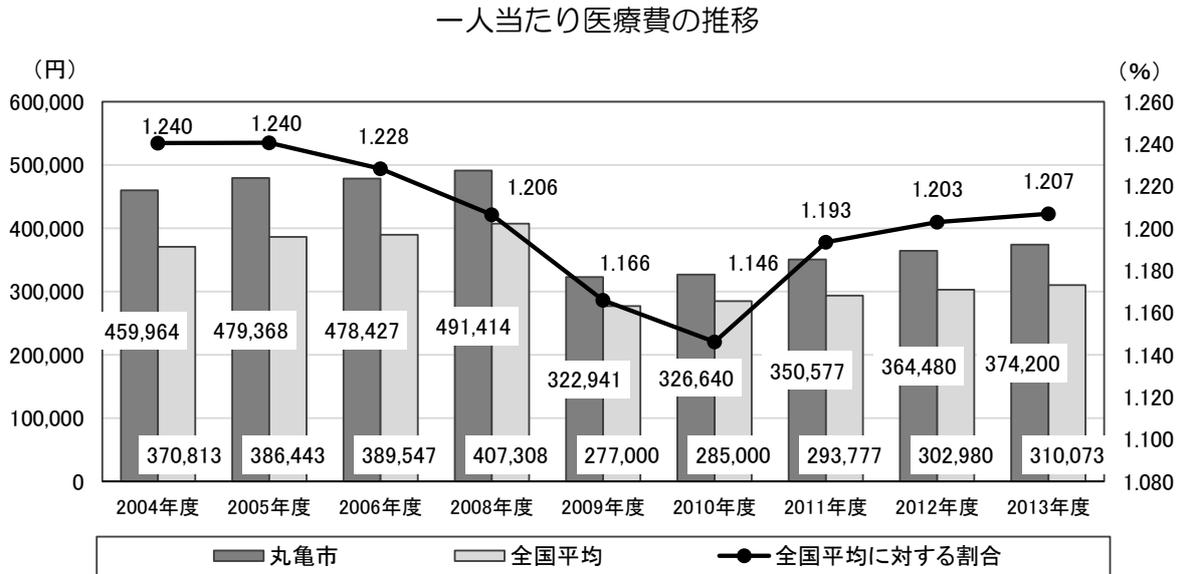
	医師	歯科医師	薬剤師	保健師	助産師	看護師	準看護師
2006年	225	78	218	61	27	880	566
2007年	未調査						
2008年	230	79	220	61	26	924	514
2009年	未調査						
2010年	245	84	217	57	24	953	509
2011年	未調査						
2012年	245	88	227	59	29	1,009	522

資料：平成26年版 丸亀市統計書（各年12月31日）

②一人当たり医療費の推移

一人当たりの医療費をみると、2002年度以降増加傾向で推移しており、後期高齢者医療制度が創設された2008年度以降も同様の結果となっています。

全国平均との比較では、ほぼ同じ曲線を描いているものの、全国平均値を下回らないまま推移しています。



資料：医療費の地域差分析（厚生省）

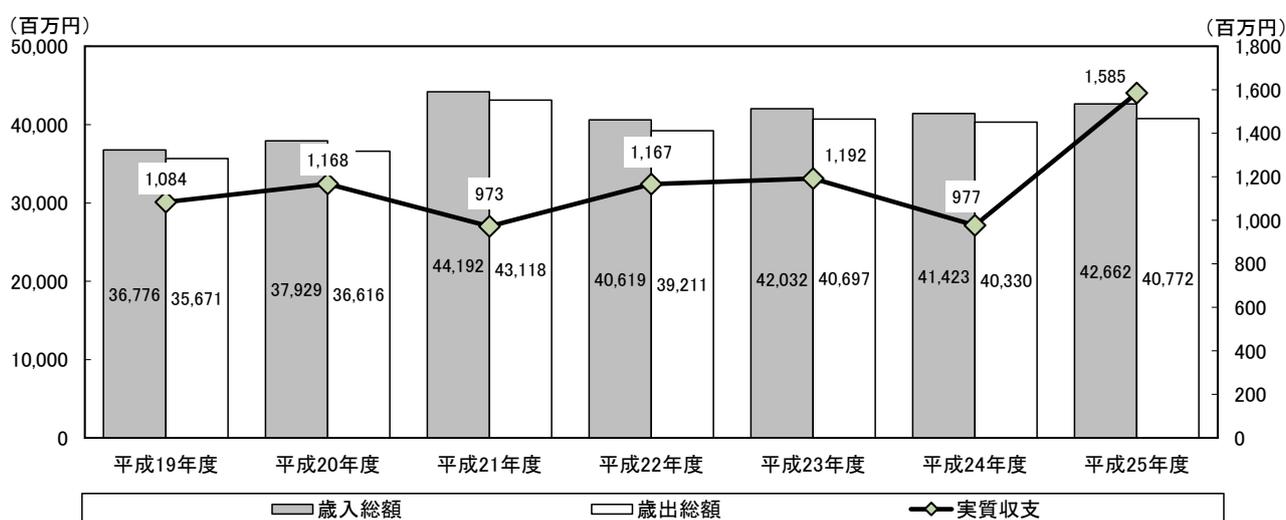
7 財政状況

(1) 実質収支

歳入・歳出の推移をみると平成19年から平成21年では、歳入・歳出ともに増加していましたが、平成22年以降は、歳入・歳出ともに増減を繰り返しています。

実質収支の推移をみると、歳入・歳出の状況と同様に増減を繰り返していますが、平成25年度では、15億8千5百万円となっており、前年に比べると大きく増加しています。

歳入・歳出及び実質収支の推移



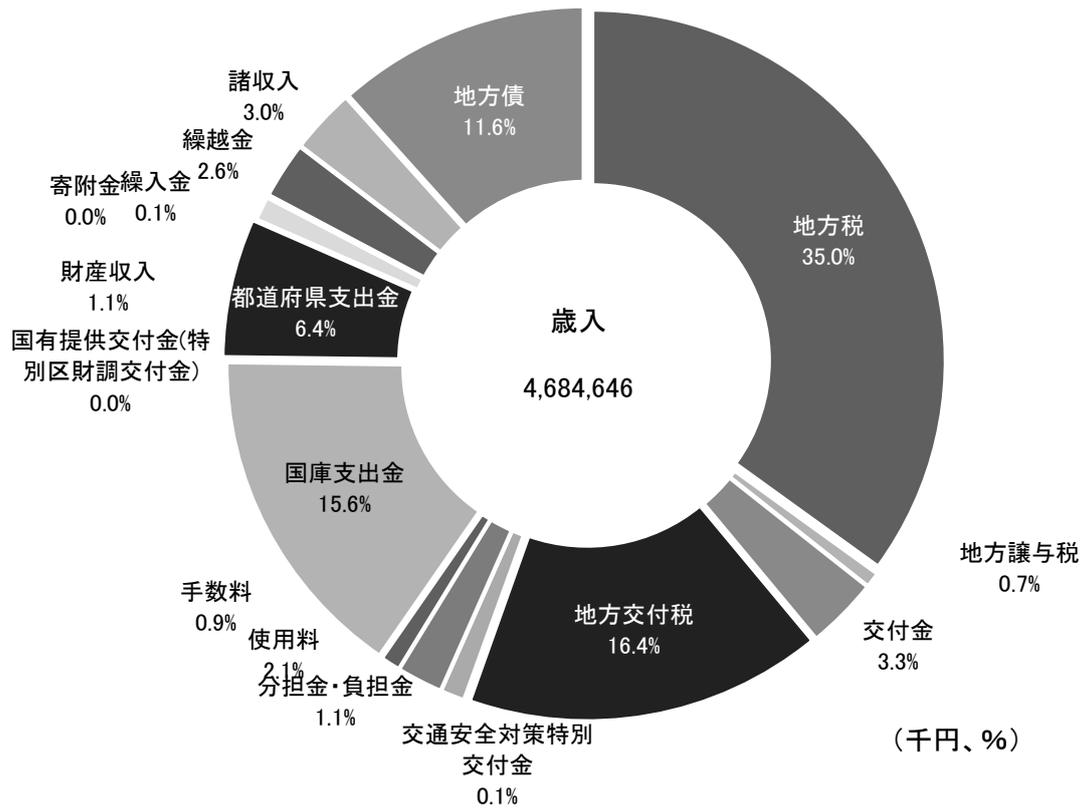
資料：丸亀市決算カード

(2) 歳入

①歳入の状況

歳入の状況をみると、地方税の割合は歳入の3分の1を占めています。
また、地方交付税は16.4%となっています。

歳入の状況（平成25年度）



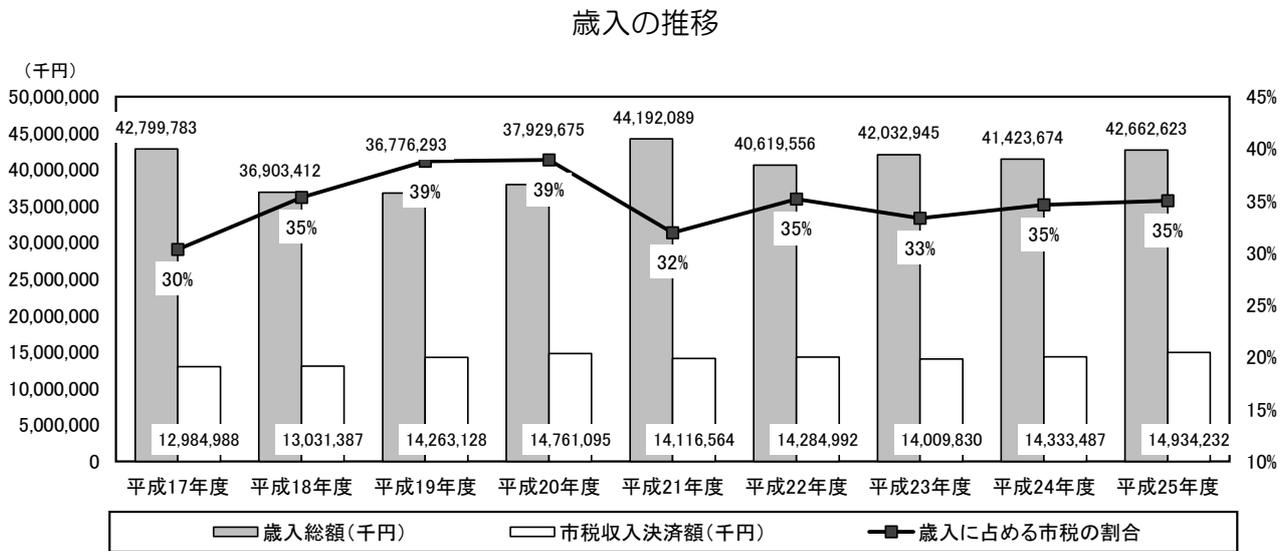
資料：平成25年度 財政状況資料集

②歳入の推移

歳入の推移をみると、増減はあるものの、平成25年度には増加し42,662,623,000円となっています。

また、歳入に占める市民税の割合をみると、平成21年度に一度減少しましたが、その後は35%前後を推移しています。

市民税は、市の主要な収入源の1つであり、人口や所得の変動に影響を受けやすいものです。これまで人口の増加もあり、市税収入決済額も増加傾向にありますが、今後は、生産年齢人口の減少が進展していくことも予測されており、税収の減少が考えられます。



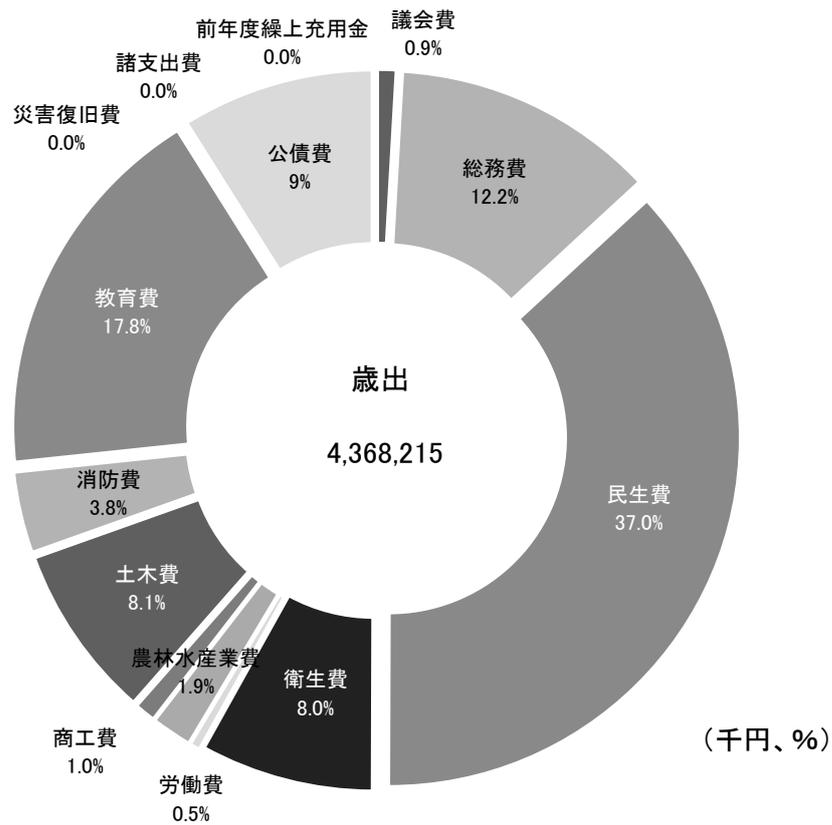
資料：丸亀市決算カード

(3) 歳出

①目的別歳出の状況

目的別歳出の状況を見ると、高齢者福祉や障害者福祉、生活保護、母子福祉等に関わる民生費の割合が、後期高齢者の増大を受けて高くなっており、37.0%となっています。

目的別歳出の状況（平成 25 年度）



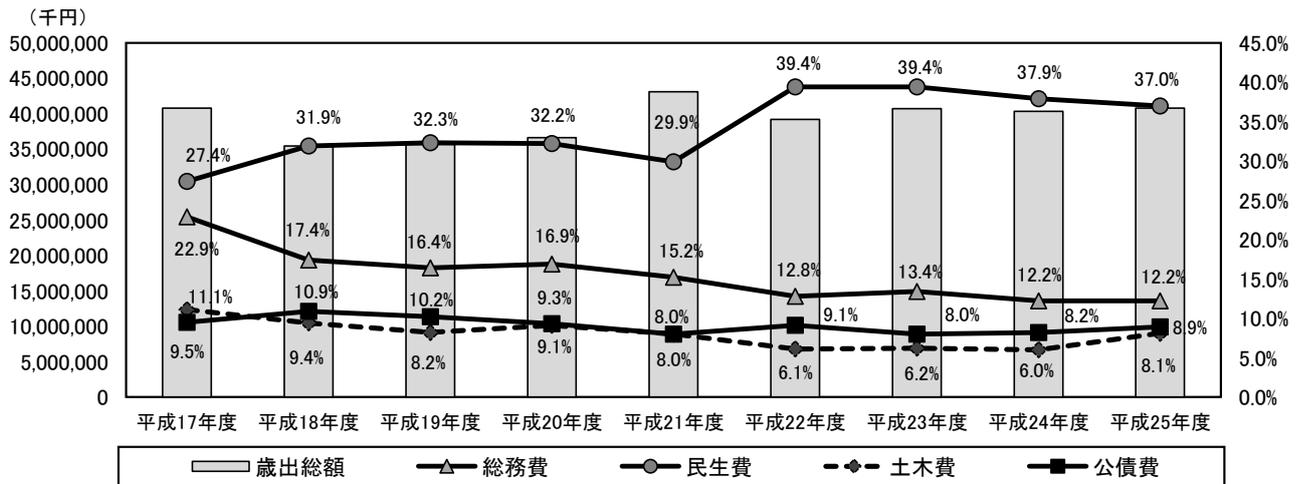
資料：平成 25 年度 財政状況資料集

②目的別歳出の推移

目的別歳出の推移をみると、民生費では子ども手当の創設や景気低迷の影響を受け平成22年度に大きく増加しており、その後は減少しながらも、高い水準で推移しています。

総務費は、職員の減少や退職手当の支給率の引き下げ等要因により、平成17年度から減少傾向にあります。

目的別歳出の推移



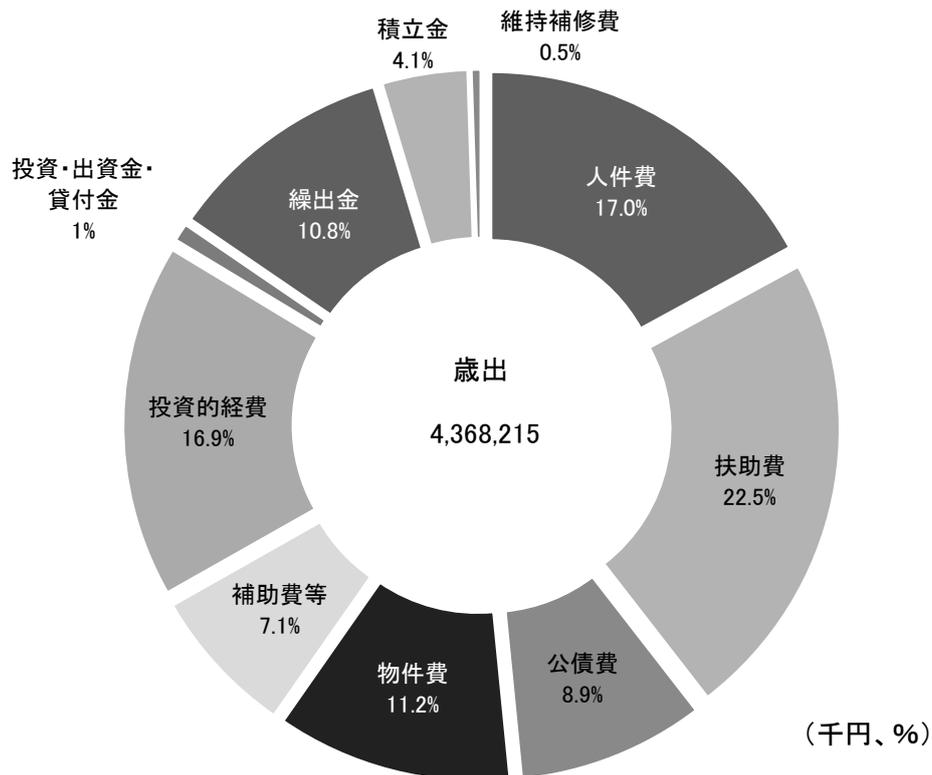
資料：丸亀市決算カード

③性質別歳出の状況

性質別歳出の状況を見ると、扶助費が22.5%と最も高くなっています。

これは、民生費同様、高齢者福祉や障害者福祉、生活保護、母子福祉等に関わる費用の割合が高くなっていることを示しています。

性質別歳出の状況（平成25年度）



資料：平成25年度 財政状況資料集

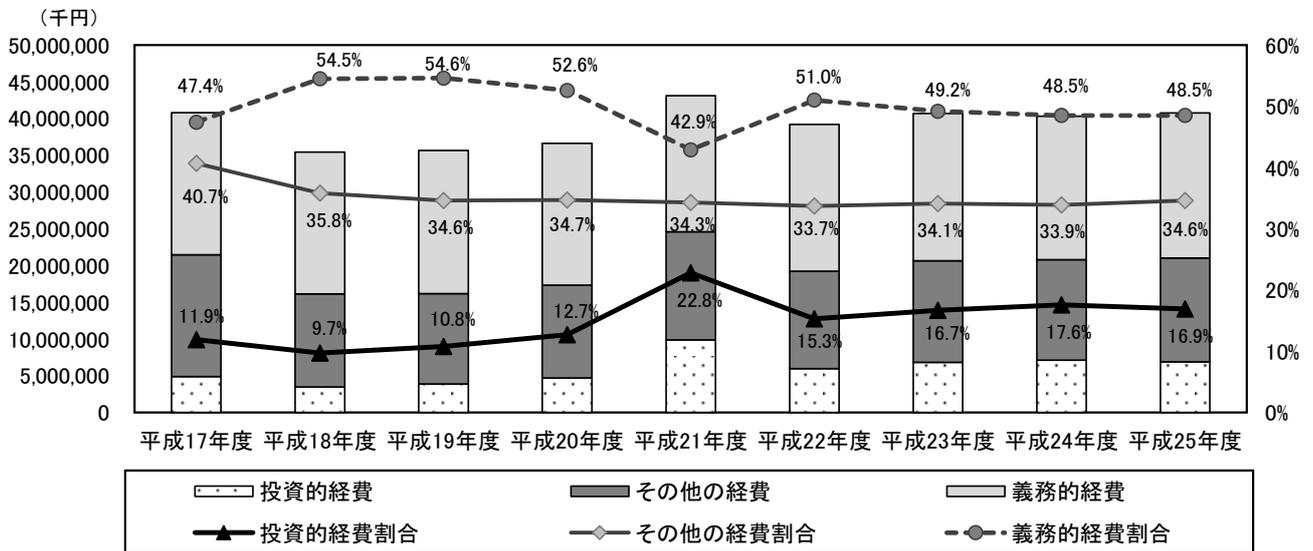
④性質別歳出の推移

性質別歳出の推移をみると、人件費や扶助費・公債費から成る義務的経費が増加傾向にありましたが、平成21年度に大きく減少し、翌年再び増加に転じました。

人件費は、減少していますが、社会保障関連経費の増加や合併特例債の償還の本格化による公債費の増加等の要因により、義務的経費額や割合の大きな減少には至っていません。

投資的経費では、平成21年度に小中学校トイレの洋式化や公共施設の耐震化等で前年に比べて大きく増加しました。その後も学校施設の耐震化など安全安心のまちづくり基盤施設整備を最優先事業と位置付けて実施しており、増加傾向が続いています。

性質別歳出の推移



資料：丸亀市決算カード

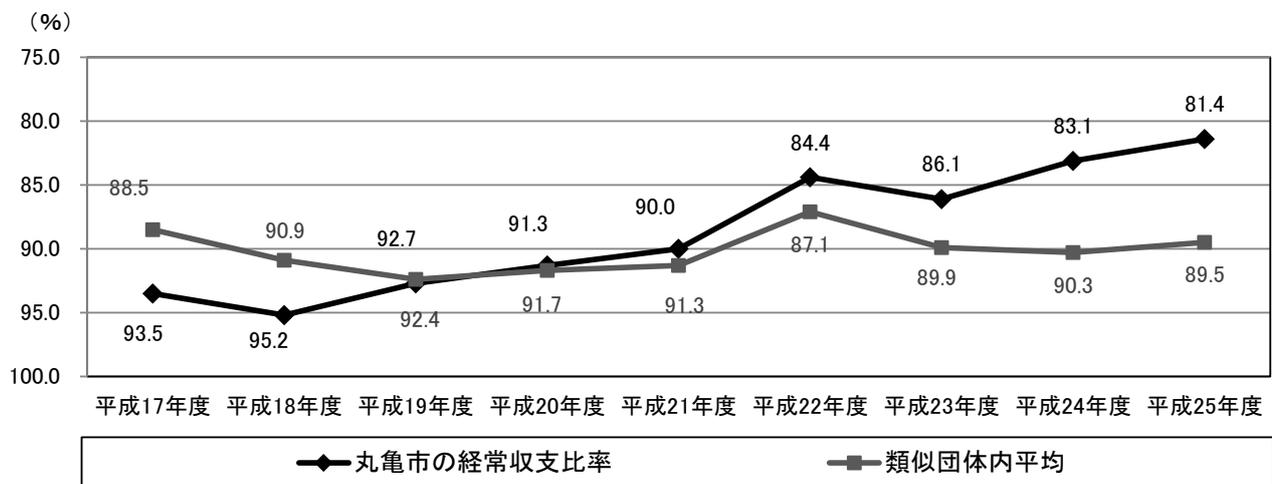
(4) 財政指数

① 経常収支比率の推移

経常収支比率の推移をみると、平成20年度以降は、類似団体内平均値を下回る水準で推移しています。歳出全体は増加したものの、一部有力企業の法人市民税等の歳入増により、経常収支比率は改善されました。

引き続き、経常経費の圧縮と経常一般財源の確保に取り組み、歳入に見合う歳出構造を維持していくことが求められます。

経常収支比率の推移



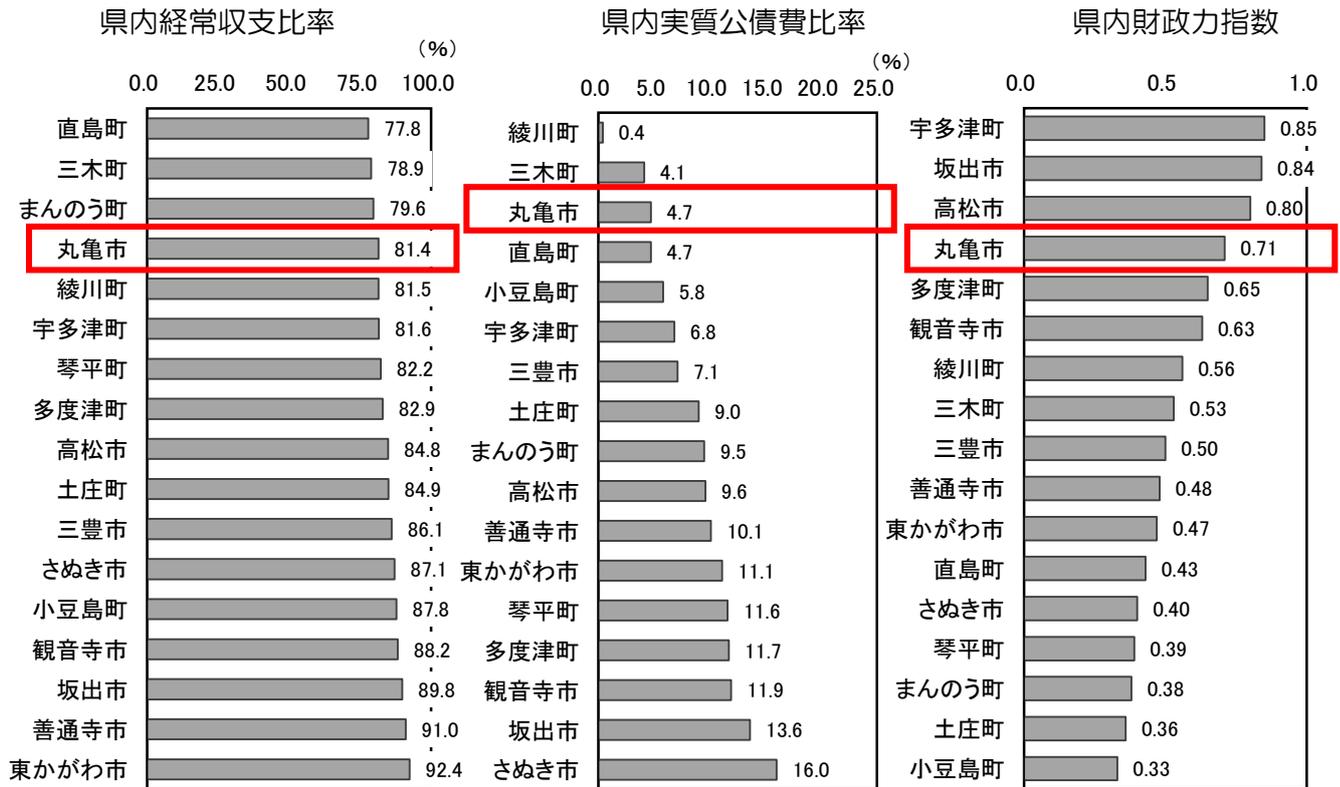
資料：：財政状況資料

②県内市町村別財政指数ランキング

県内の市町村別財政指数ランキングをみると、経常収支比率において本市は 17 市町のうち 4 位となっています。

また、実質公債費比率においては 3 位、財政力指数においては 4 位となっており、県内の他市町と比較しても健全な財政運営ができています。

財政状況は良好と判断できますが、今後も歳入確保及び歳出削減に努め、効率的で持続可能な財政運営を行うことが求められています。



資料：平成 25 年度地方公共団体の主要財政指標一覧

第2部 アンケート調査報告書

1 調査の概要

2-1 調査結果（高校生を中心とした若い世代対象調査）

2-2 調査結果（15歳～49歳の市民対象調査）



1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、今年度策定する「地方版総合戦略」において、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた効果的な施策を推進するため、また、「地方版人口ビジョン」の策定において、市民の結婚・出産・子育ての希望、地方移住に関する希望などのニーズの把握することを目的に行いました。

(2) 調査概要

- 調査対象者：高校生を中心とした若い世代：丸亀高校（全日・定時・通信制）、さぬき福祉専門学校、村上学園、飯山高校、藤井高校、大手前高校、丸亀城西高校、四国職業能力開発大学校
一般市民：15歳以上 49歳以下の市民
- 調査期間：平成27年7月2日（木）～平成27年7月27日（月）
- 調査方法：「高校生を中心とした若い世代」を通じての配布・回収
「15歳以上 49歳以下の市民」郵送による配付・回収

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
若い世代		3,240件	
18歳以上の住民	3,000件	907件	30.2%
合計		4,147件	

(3) 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

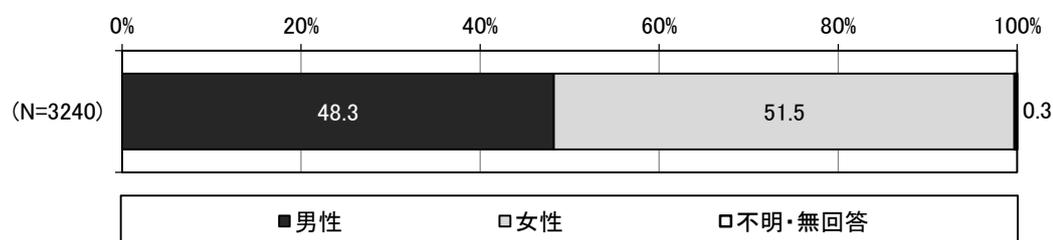
2-1 調査結果

(高校生を中心とした若い世代対象調査)

(1) あなた自身のことについて

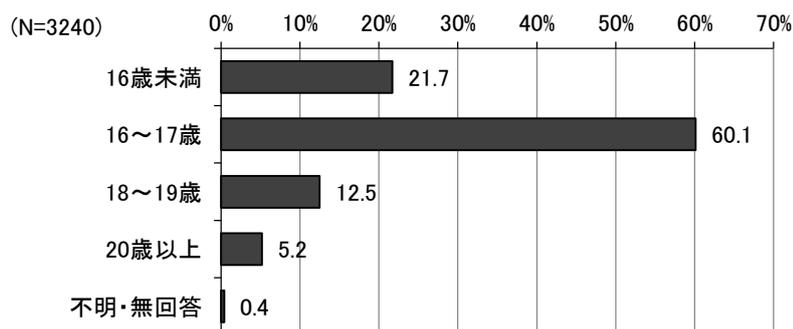
①性別〈単数回答〉〔問1〕

性別についてみると、「男性」が48.3%、「女性」が51.5%となっています。



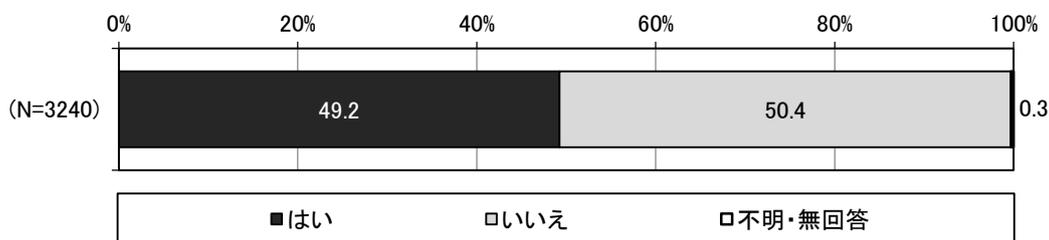
②年齢〈数量回答〉〔問2〕

年齢についてみると、「16歳未満」が21.7%、「16～17歳」が60.1%、「18～19歳」が12.5%、「20歳以上」が5.2%となっています。



③-1 お住まいについて〈単数回答〉〔問3(1)〕

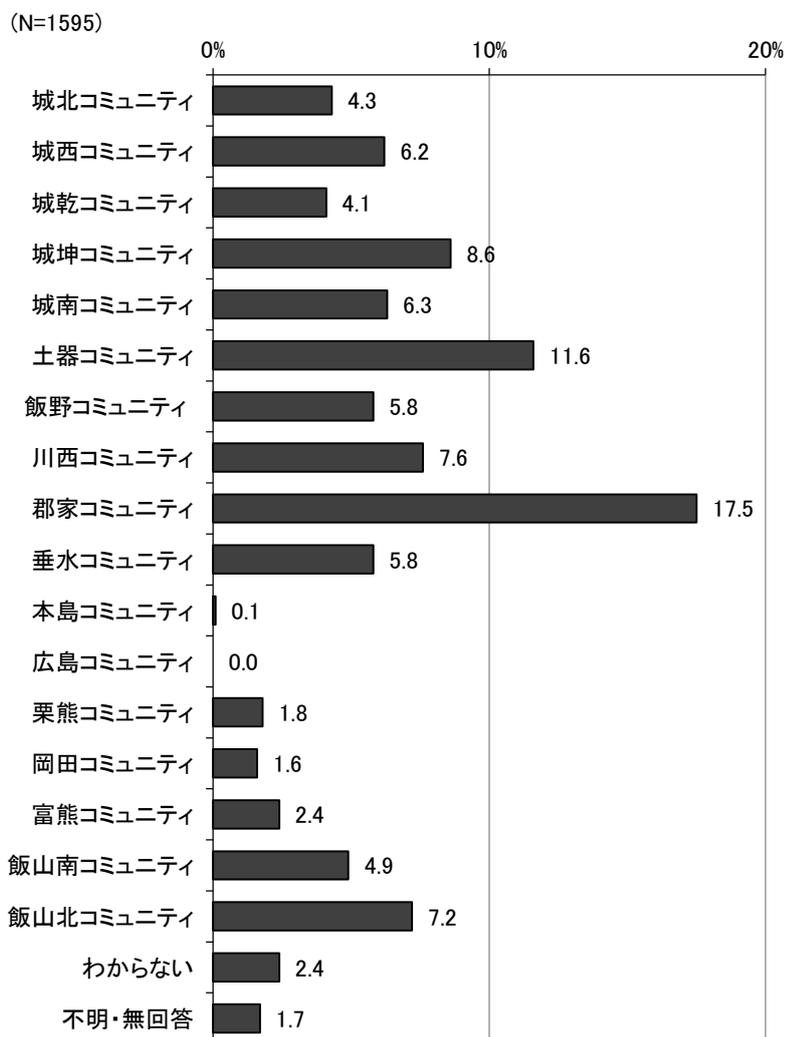
現在、丸亀市内に住んでいるかについてみると、「はい」が49.2%、「いいえ」が50.4%となっています。



問3(1)で「1. はい」を選んだ方におうかがいします。

③-2 お住まいの地区について〈単数回答〉〔問3(2)〕

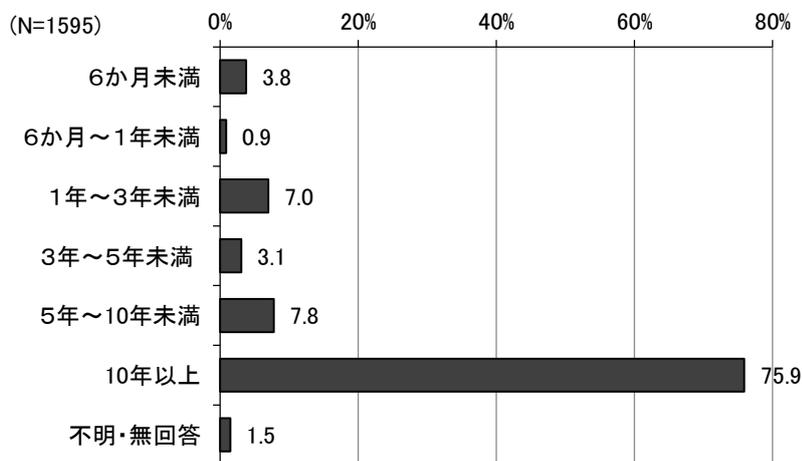
丸亀市内在住の方のお住まいの地区ついてみると、「郡家コミュニティ」が17.5%と最も高く、次いで「土器コミュニティ」が11.6%、「城坤コミュニティ」が8.6%となっています。



問3(1)で「1. はい」を選んだ方におうかがいします。

③-3 居住年数〈単数回答〉〔問3(3)〕

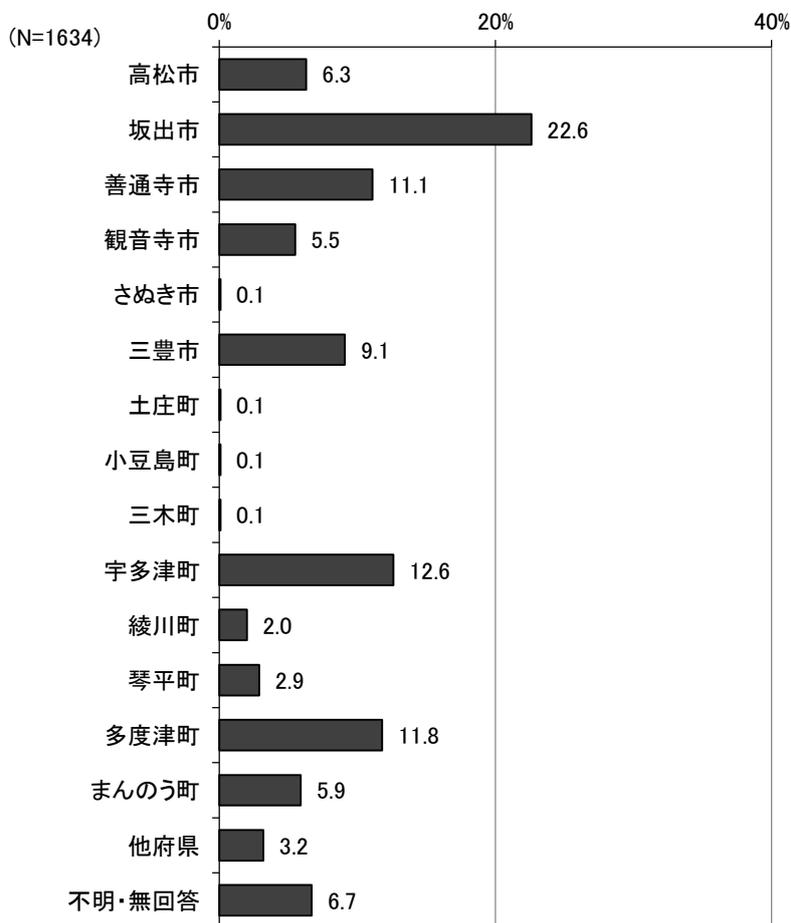
丸亀市での居住年数についてみると、「10年以上」が75.9%ともっとも高く、次いで「5年～10年未満」が7.8%となっています。



問3(1)で「2. いいえ」を選んだ方におうかがいします。

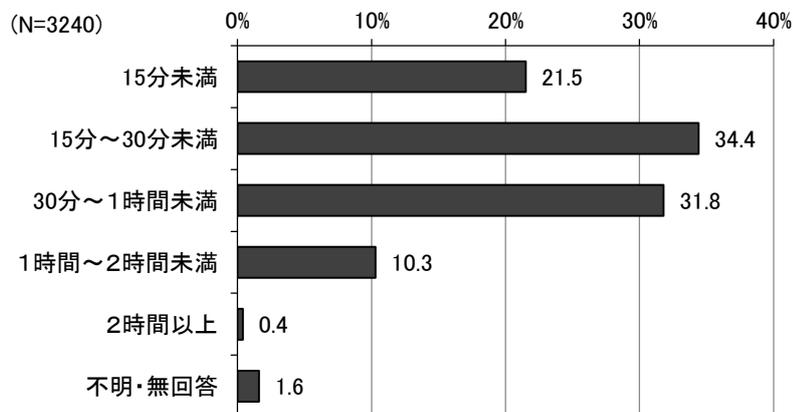
③-4 丸亀市外の方の居住先〈自由回答〉〔問3(4)〕

丸亀市外に住んでいる方の居住先についてみると、「坂出市」が22.6%ともっとも高く、次いで「宇多津町」が12.6%となっています。



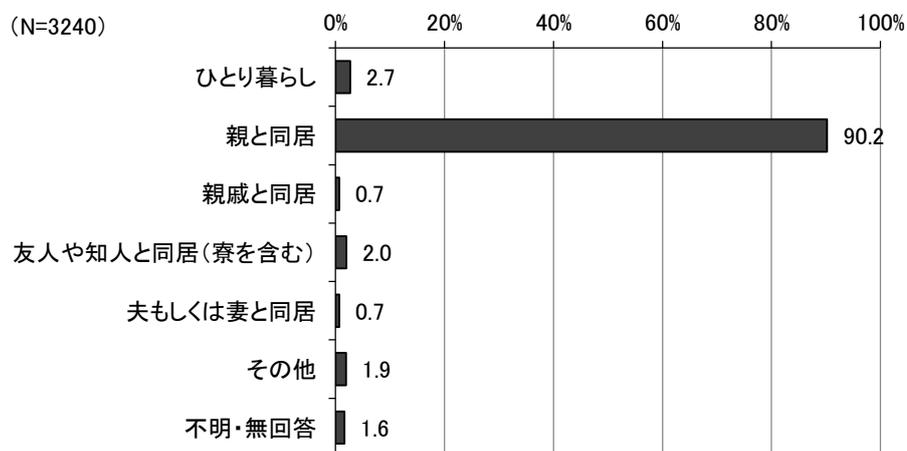
④通学時間〈単数回答〉〔問4〕

通学時間についてみると、「15分～30分未満」が34.4%ともっとも高く、次いで「30分～1時間未満」が31.8%となっています。



⑤家族構成〈単数回答〉〔問5〕

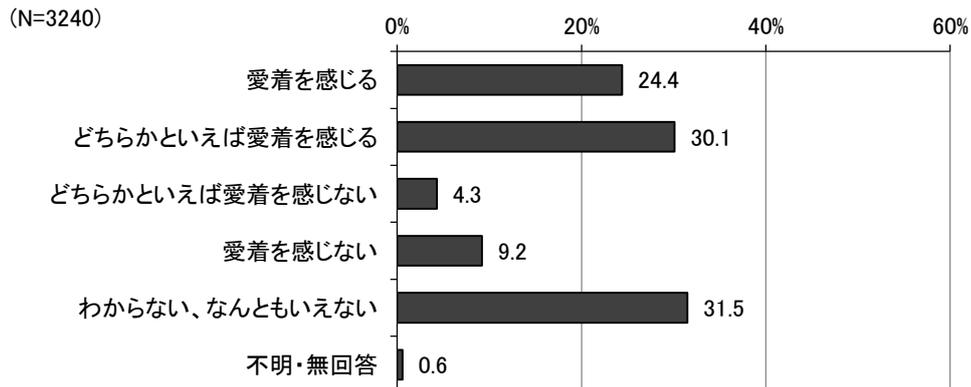
家族構成についてみると、「親と同居」が90.2%ともっとも高く、次いで「ひとり暮らし」が2.7%となっています。



(2) 丸亀市に対するお気持ちについて

⑥-1 丸亀市への愛着〈単数回答〉〔問6(1)〕

丸亀市への愛着についてみると、「わからない、なんともいえない」が31.5%、次いで「どちらかといえば愛着を感じる」が30.1%となっています。



居住別×愛着度

〔問3(1)×問6(1)/クロス〕

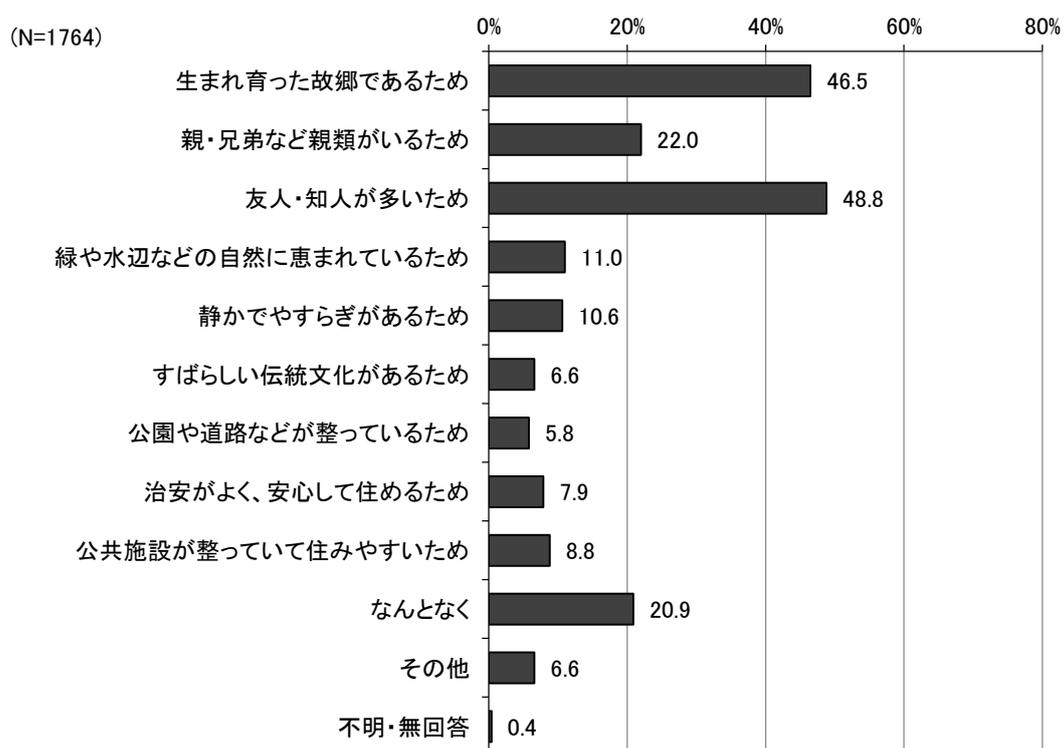
居住別にみると、『市内』に住んでいる方では、「愛着を感じる」が38.7%と最も高く、『市外』に住んでいる方では、「わからない、なんともいえない」が41.5%と最も高くなっています。

上段: 件数 下段: %	合計	愛着を感じる	どちらかとい えば愛着を 感じる	どちらかとい えば愛着を 感じない	愛着を感じな い	わからない、 なんともいえ ない	不明・無回答	
全体	3240 100.0	790 24.4	974 30.1	138 4.3	299 9.2	1021 31.5	18 0.6	
現在、丸亀 市内にお住 まいですか	市内	1595 100.0	618 38.7	497 31.2	37 2.3	99 6.2	340 21.3	4 0.3
	市外	1634 100.0	171 10.5	474 29.0	101 6.2	199 12.2	678 41.5	11 0.7

問6(1)で「1. 愛着を感じる」または「2. どちらかといえば愛着を感じる」を選んだ方におうかがいします。

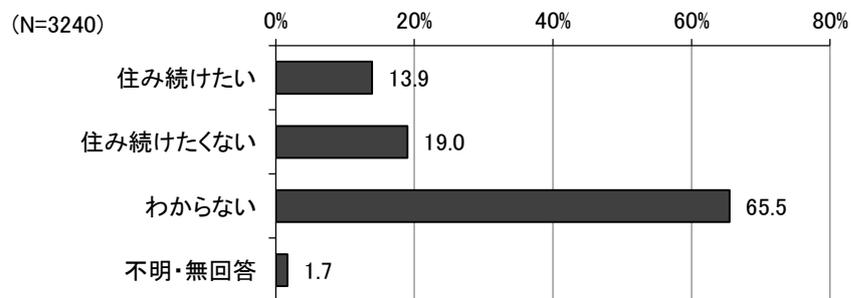
⑥-2 愛着を感じる理由〈複数回答〉〔問6(2)〕

丸亀市へ愛着を感じる理由についてみると、「友人・知人が多いため」が48.8%ともっとも高く、次いで「生まれ育った故郷であるため」が46.5%となっています。



⑦今後の住居希望〈単数回答〉〔問7〕

今後の住居希望についてみると、「わからない」が65.5%と最も高く、次いで「住み続けたくない」が19.0%、「住み続けたい」が13.9%となっています。



居住別×今後の住居希望

〔問3(1)×問7/クロス〕

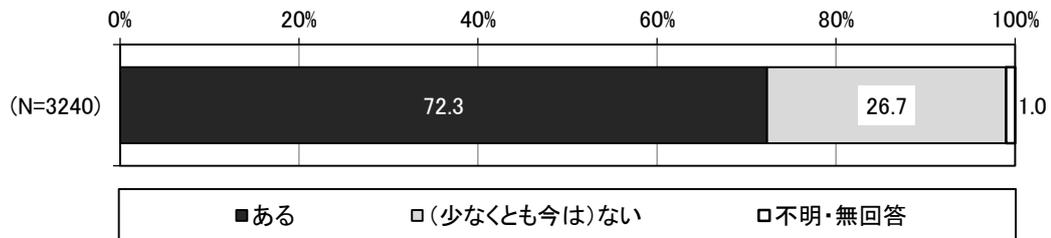
居住別にみると、『市内』に住んでいる方、『市外』に住んでいる方どちらも「わからない」がもっとも高くなっています。「住み続けたい」の割合が、『市内』に住んでいる方では、26.1%となっていますが、『市外』に住んでいる方では、2.0%となっています。

上段:件数 下段:%		合計	住み続けた い	住み続けた くない	わからない	不明・無回答
全体		3240 100.0	450 13.9	615 19.0	2121 65.5	54 1.7
現在、丸亀 市内にお住 まいですか	市内	1595 100.0	417 26.1	245 15.4	917 57.5	16 1.0
	市外	1634 100.0	33 2.0	367 22.5	1199 73.4	35 2.1

(3) 仕事に対するお気持ちについて

⑧-1 希望の職業や仕事の有無〈単数回答〉〔問8(1)〕

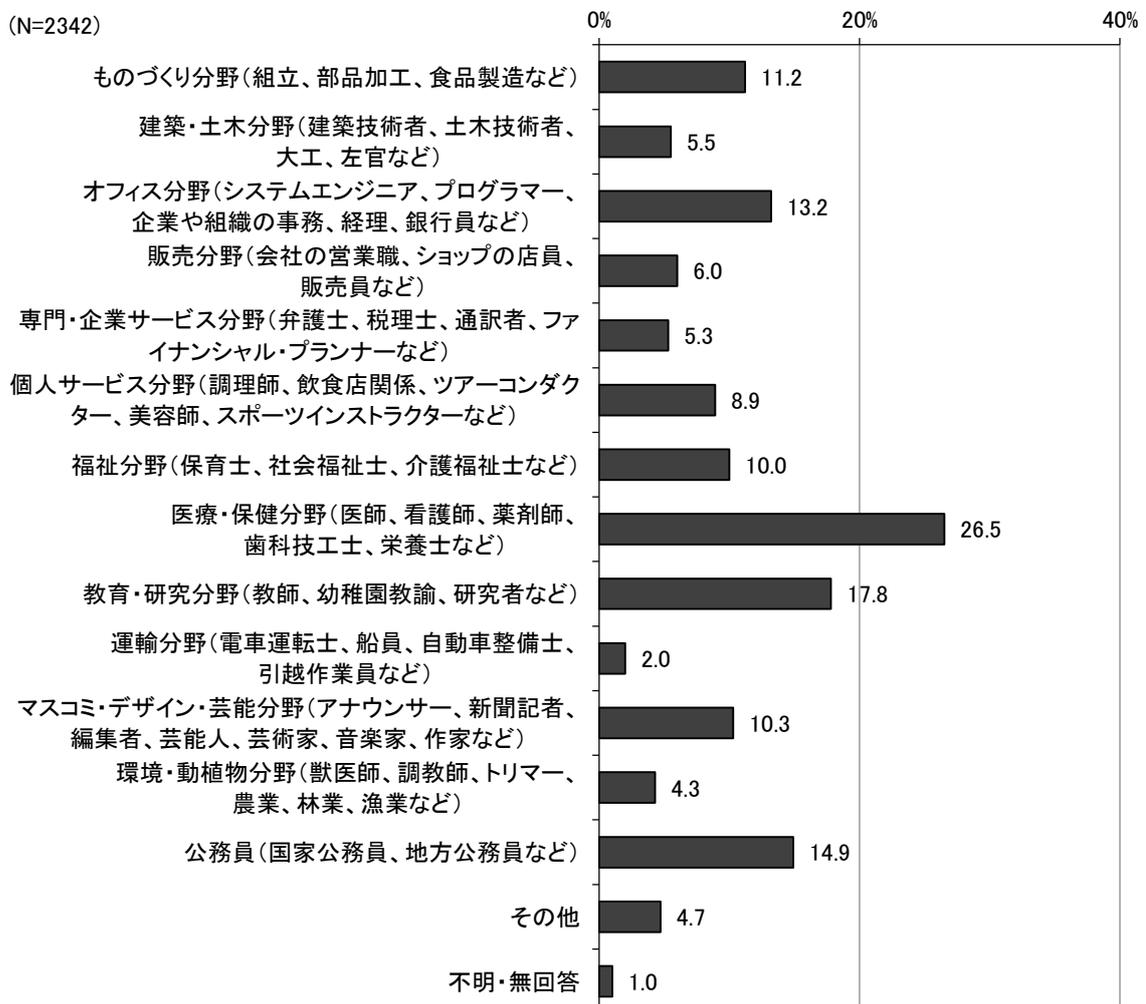
希望の職業や仕事の有無についてみると、「ある」が72.3%、「(少なくとも今は)ない」が26.7%となっています。



問8(1)で「1. ある」を選んだ方におうかがいします。

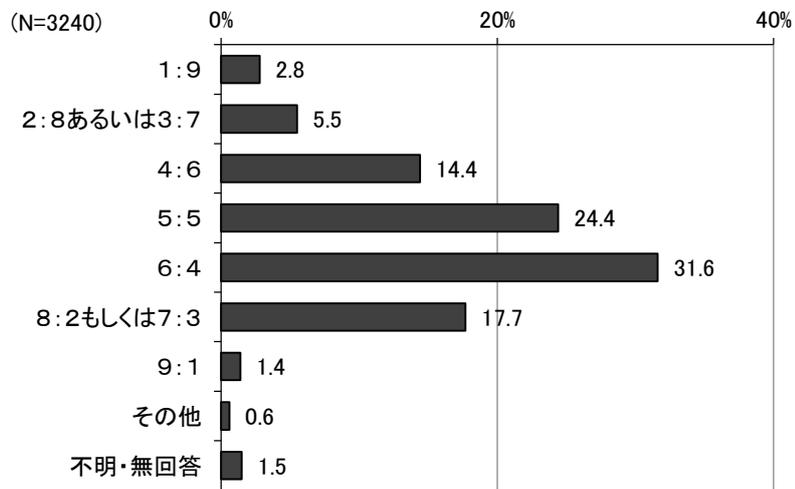
⑧-2 就きたい職業〈複数回答〉〔問8(2)〕

就きたい職業についてみると、「医療・保健分野」が26.5%、「教育・研究分野」が17.8%となっています。



⑨理想的な仕事とプライベートの比率〈単数回答〉〔問9〕

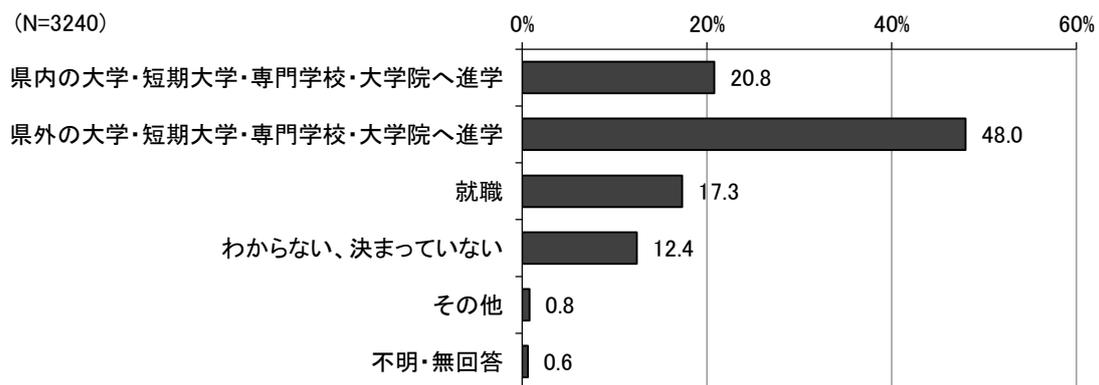
理想的な仕事とプライベートの比率（Ⓐ仕事：Ⓑプライベート）についてみると、「6：4」が31.6%ともっとも高く、次いで「5：5」が24.4%となっています。



(4) 進路や就職に対するお気持ちについて

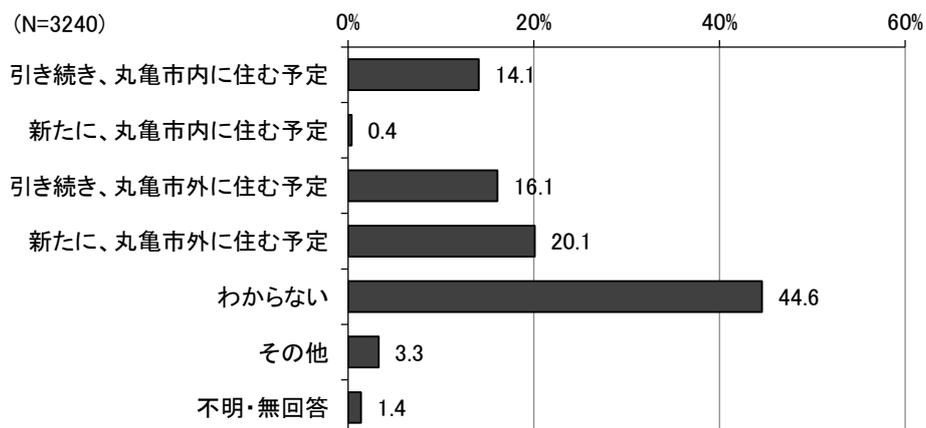
⑩卒業後の進路〈単数回答〉〔問10〕

卒業後の進路についてみると、「県外の大学・短期大学・専門学校・大学院へ進学」が48.0%ともっとも高く、次いで「県内の大学・短期大学・専門学校・大学院へ進学」が20.8%となっています。



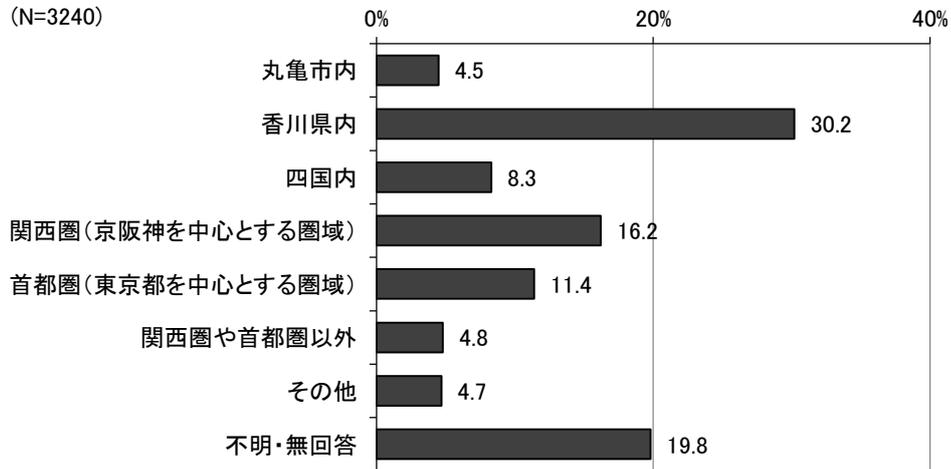
⑪卒業後の住まいの予定〈単数回答〉〔問11〕

卒業後の住まいの予定についてみると、「わからない」が44.6%ともっとも高く、次いで「新たに、丸亀市外に住む予定」が20.1%となっています。



⑫-1 希望の就職地〈単数回答〉〔問 12(1)〕

希望の就職地についてみると、「香川県内」が30.2%ともっとも高く、次いで「関西圏（京阪神を中心とする圏域）」が16.2%となっています。（不明・無回答を除く）



居住別×希望の就職地

〔問 3 (1) × 問 12 (1) / クロス〕

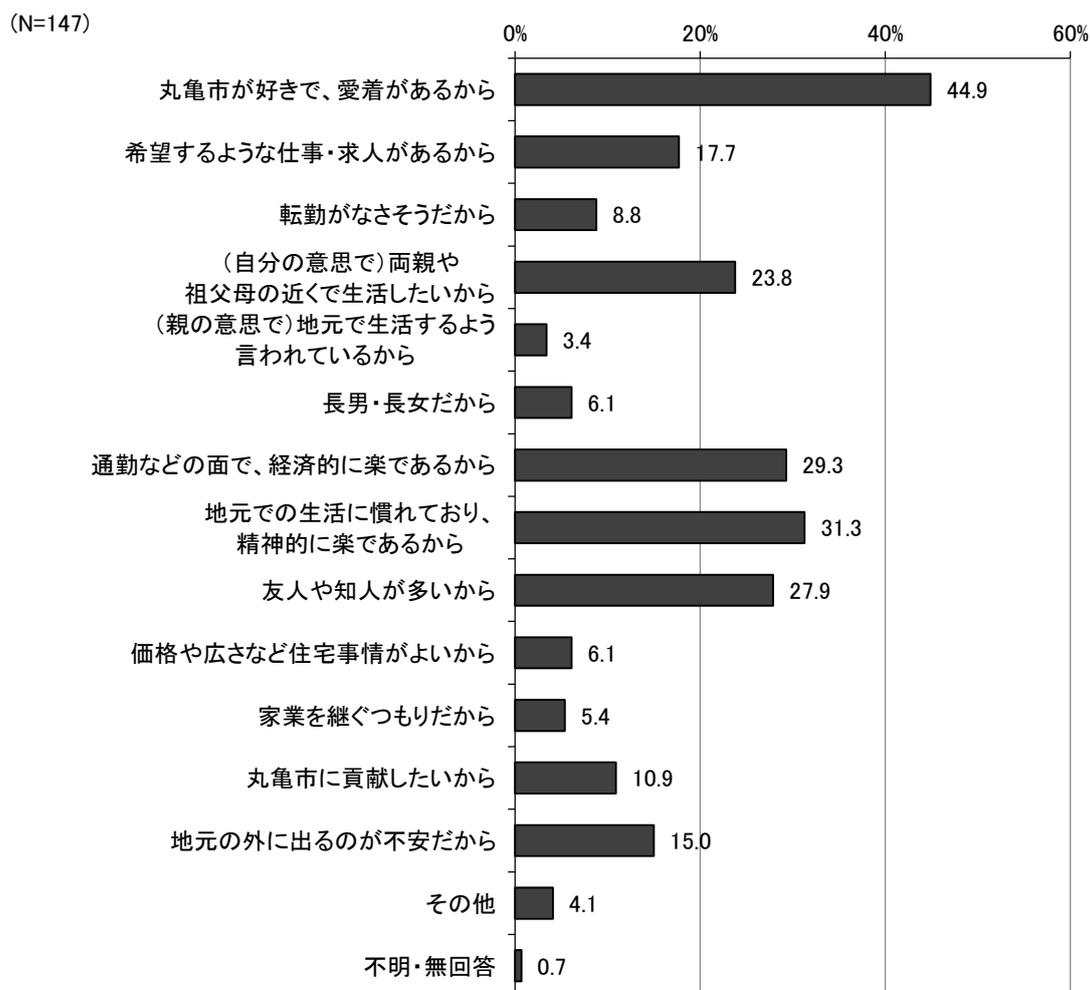
居住別にみると、『市内』に住んでいる方、『市外』に住んでいる方どちらも「香川県内」がもっとも高くなっています。

上段: 件数 下段: %		合計	丸亀市内	香川県内	四国内	関西圏(京阪神を中心とする圏域)	首都圏(東京都を中心とする圏域)	関西圏や首都圏以外	その他	不明・無回答
全体		3240 100.0	147 4.5	980 30.2	270 8.3	526 16.2	369 11.4	155 4.8	153 4.7	640 19.8
現在、丸亀市内にお住まいですか	市内	1595 100.0	138 8.7	469 29.4	143 9.0	246 15.4	148 9.3	74 4.6	68 4.3	309 19.4
	市外	1634 100.0	8 0.5	507 31.0	127 7.8	280 17.1	219 13.4	81 5.0	84 5.1	328 20.1

問 12 (1) で「 1. 丸亀市内」を選んだ方におうかがいします。

⑫-2 丸亀市で就職したい理由〈複数回答〉〔問 12(2)〕

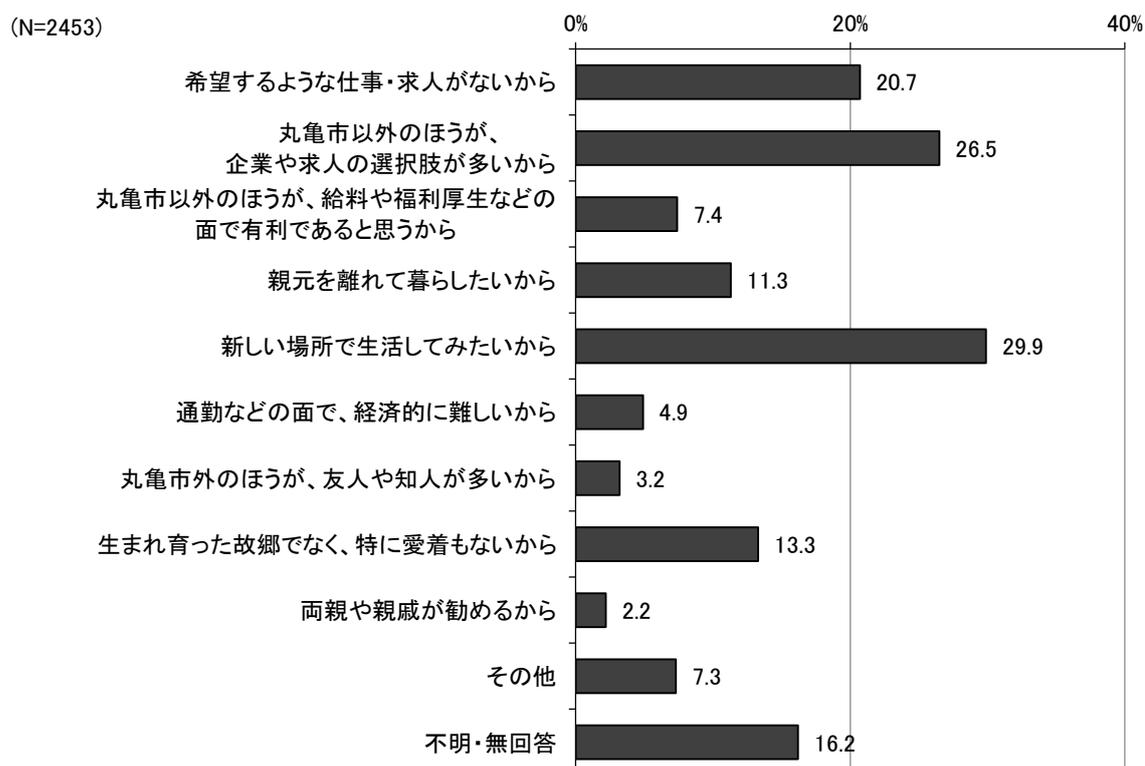
丸亀市で就職したい理由についてみると、「丸亀市が好きで、愛着があるから」が 44.9% ともっとも高く、次いで「地元での生活に慣れており、精神的に楽であるから」が 31.3% となっています。



問 12(1) で「丸亀市内」以外を選んだ方におうかがいします。

⑫-3 丸亀市以外で就職したい理由〈複数回答〉〔問 12(3)〕

丸亀市以外で就職したい理由についてみると、「新しい場所で生活してみたいから」が 29.9%ともっとも高く、次いで「丸亀市以外のほうが、企業や求人の選択肢が多いから」が 26.5%となっています。



希望の就職地×丸亀市外で就職したい理由

〔問 12 (1) × 問 12 (3) / クロス〕

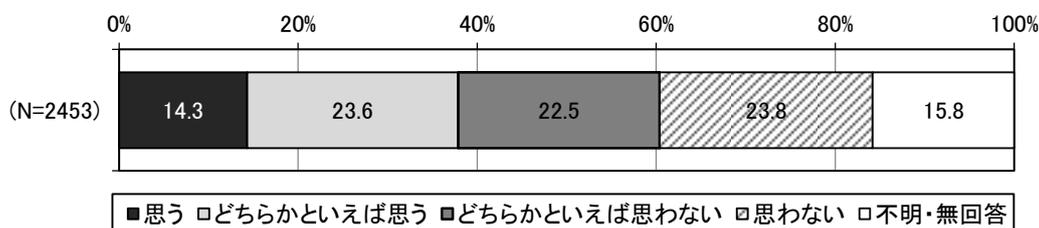
丸亀市外で就職したい理由を希望の就職地別にみると、『香川県内』を選んだ方では、「丸亀市以外の方が、企業や求人を選択肢が多いから」が25.0%ともっとも高く、『県外』を選んだ方では、「新しい場所で生活してみたいから」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	希望するよう な仕事・求人 がないから	丸亀市以外 のほうか、企 業や求人 の選択肢が多 いから	丸亀市以外 のほうか、給 料や福利厚 生などの面 で有利である と思うから	親元を離れ て暮らした いから	新しい場所 で生活して みたいから	通勤など の面で、経 済的に難 しいから	丸亀市外 のほうか、 友人や知 人が多い から	生まれ育 った故郷 でなく、 特に愛着 もない から	両親や親 戚が勧め るから	その他	不明・無 回答
全体	2453 100.0	508 20.7	650 26.5	182 7.4	276 11.3	734 29.9	119 4.9	79 3.2	327 13.3	54 2.2	178 7.3	398 16.2
丸亀市内	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県内	980 100.0	164 16.7	245 25.0	56 5.7	46 4.7	147 15.0	46 4.7	51 5.2	129 13.2	23 2.3	90 9.2	194 19.8
四国内	270 100.0	43 15.9	54 20.0	13 4.8	27 10.0	84 31.1	21 7.8	11 4.1	46 17.0	5 1.9	12 4.4	37 13.7
関西圏 (京阪神を中心とする圏域)	526 100.0	119 22.6	170 32.3	52 9.9	86 16.3	251 47.7	22 4.2	6 1.1	68 12.9	10 1.9	14 2.7	67 12.7
首都圏 (東京都を中心とする圏域)	369 100.0	127 34.4	111 30.1	44 11.9	67 18.2	153 41.5	17 4.6	7 1.9	47 12.7	9 2.4	21 5.7	44 11.9
関西圏や首都圏以外	155 100.0	38 24.5	41 26.5	12 7.7	36 23.2	61 39.4	10 6.5	2 1.3	18 11.6	4 2.6	1 0.6	22 14.2
その他	153 100.0	17 11.1	29 19.0	5 3.3	14 9.2	38 24.8	3 2.0	2 1.3	19 12.4	3 2.0	40 26.1	34 22.2

問 12 (1) で「丸亀市内」以外を選んだ方におうかがいします。

⑫-4 丸亀市へのUターン希望の有無〈単数回答〉〔問 12(4)〕

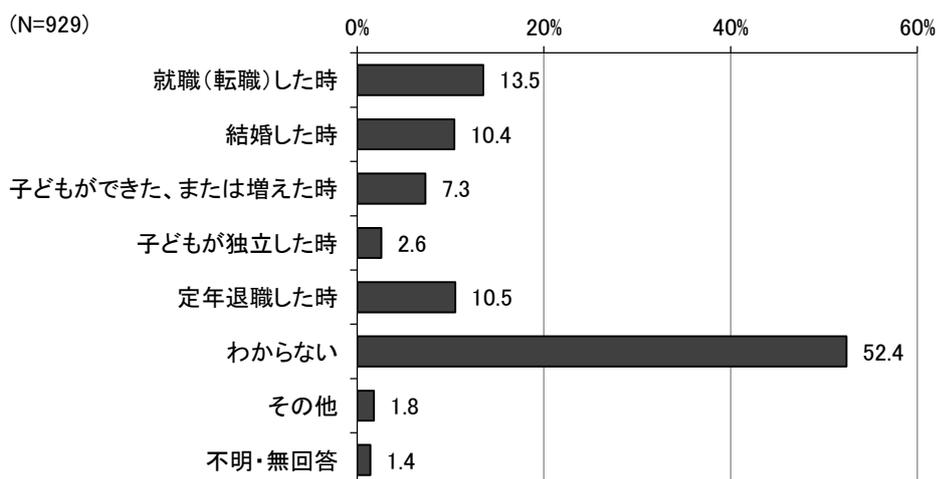
丸亀市へのUターン希望の有無についてみると、「思わない」が23.8%ともっとも高く、次いで「どちらかといえば思う」が23.6%となっています。



問 12 (4) で「1. 思う」または「2. どちらかといえば思う」を選んだ方におうかがい
 します。

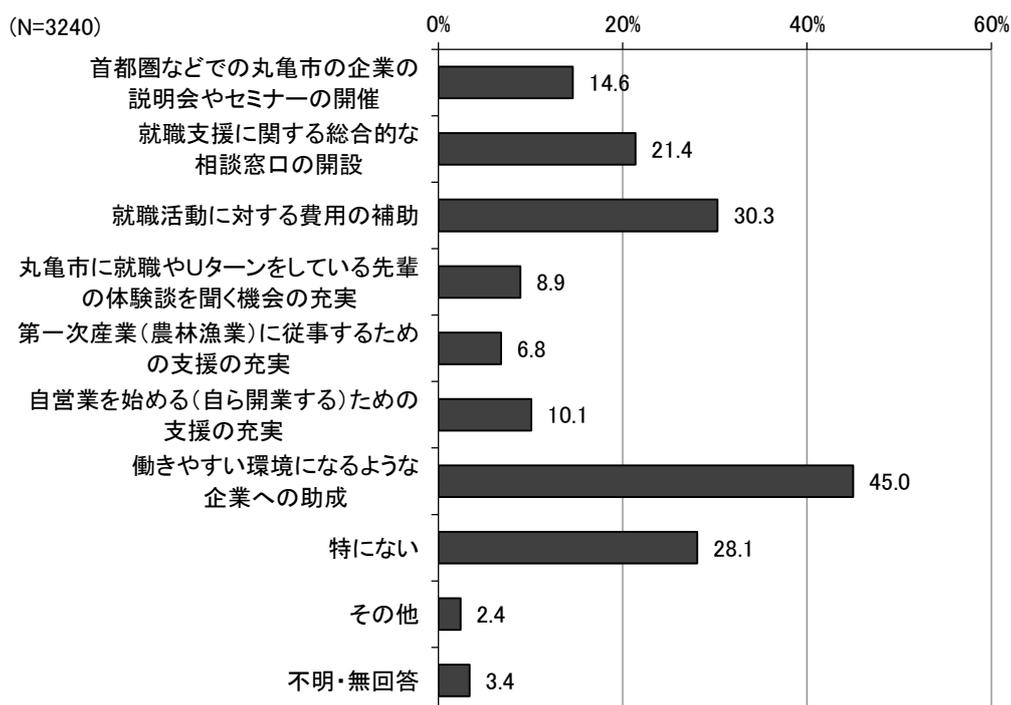
⑫-5 Uターン希望の時期〈単数回答〉〔問 12(5)〕

Uターン希望の時期についてみると、「わからない」が52.4%ともっとも高く、次いで
 「就職（転職）した時」が13.5%となっています。



⑬丸亀市で働いたりUターンをするために必要なサポート〈複数回答〉〔問 13〕

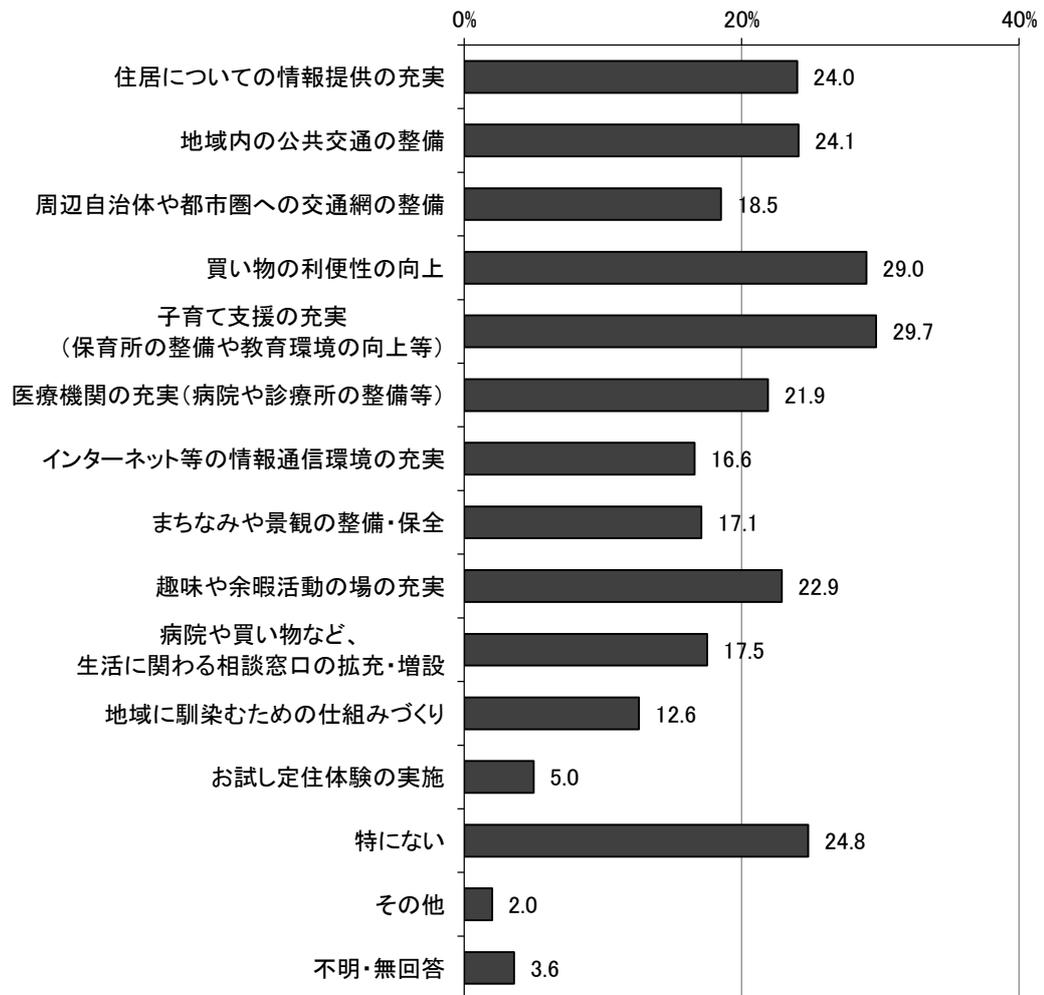
丸亀市で働いたりUターンをするために必要なサポートについてみると、「働きやすい
 環境になるような企業への助成」が45.0%ともっとも高く、次いで「就職活動に対する
 費用の補助」が30.3%となっています。



⑭丸亀市に住み続けたりUターンをするために必要なサポート〈複数回答〉〔問14〕

丸亀市に住み続けたりUターンをするために必要なサポートについてみると、「子育て支援の充実」が29.7%ともっとも高く、次いで「買い物の利便性の向上」が29.0%となっています。

(N=3240)



⑮地元での就職や進路希望、将来的に地元に戻って働くことなどについて、
ご意見やお考え、不安、悩みなど〈自由回答〉〔問 15〕

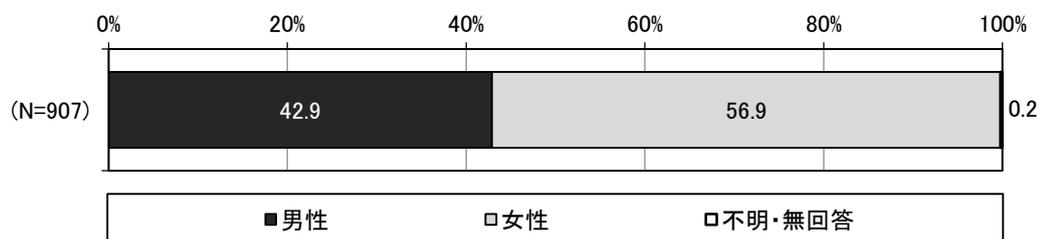
生活環境について	件数
・安心・安全なまち（交通ルール違反・交通事故、治安、街灯）。	15
・公共交通機関の整備（電車やバスの本数を増やす）。	9
・商店街の活性化。	5
・娯楽施設や商業施設の充実。	5
・自転車専用の道をつくってほしい。	2
・暮らす上では住みやすいまちだと思う。	1
・高速道路の料金を下げる。	1
・丸亀城南テニスコートをきれいにしてほしい。	1
就労について	件数
・将来戻った時に仕事（就業先）の確保ができるか不安。	8
・就きたい仕事（求人）がない。	7
・将来、どんな仕事に就けるか不安。	4
・地域の活性化にもなるので、地元に戻って働くという事はいいことだと思う。地元に戻って働きたい。	4
・地元に戻って働く気がない。	4
・仕事の選択肢がたくさんあるといい。	2
・縁があれば丸亀市で働きたい。	2
・普通に生活できる給料が欲しい。	1
・就職者向けの講演会をもっと積極的に行う	1
・ベンチャー企業を発展させる。	1
・地元で働くことは、都会で働くより環境が悪いイメージがある。	1
・地元の企業は仕事に本当に必要な人材であるか見極めてほしい。	1
・都会の方が就職先は充実している。	1
・働くとなると活気があって、人が多い所で働きたい。	1
進学について	件数
・香川県内での進学を考えると、大学の数が少なくて困る。	3
・地元では進学しようと思っていない。	1
・理化学の大学にいきたい。	1
・今は、志望校を早く決めてその偏差値を越えるようにしたい。	1

2-2 調査結果(15歳~49歳の市民対象調査)

(1) あなた自身のことについて

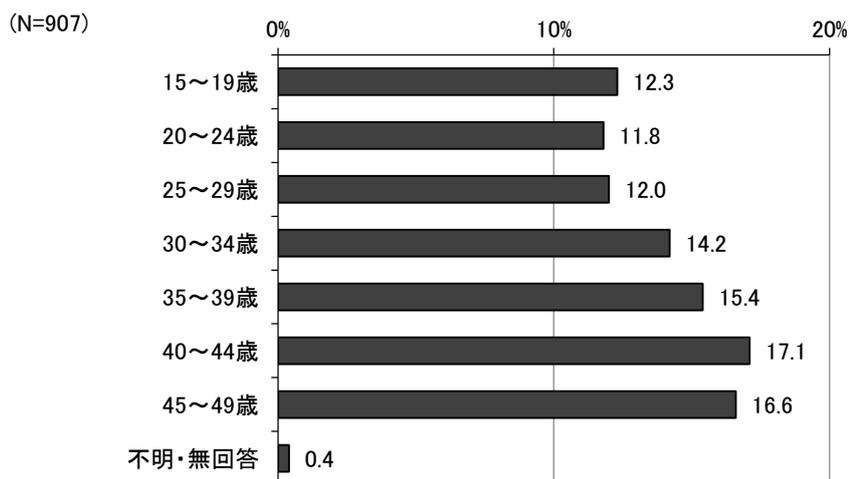
①性別〈単数回答〉〔問1〕

性別についてみると、「男性」が42.9%、「女性」が56.9%となっています。



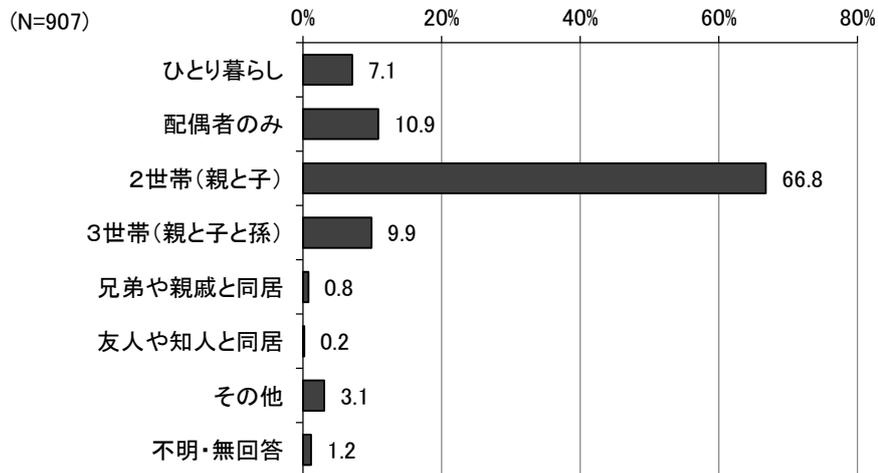
②年齢〈数量回答〉〔問2〕

年齢についてみると、「40~44歳」が17.1%、「45~49歳」が16.6%と高くなっています。



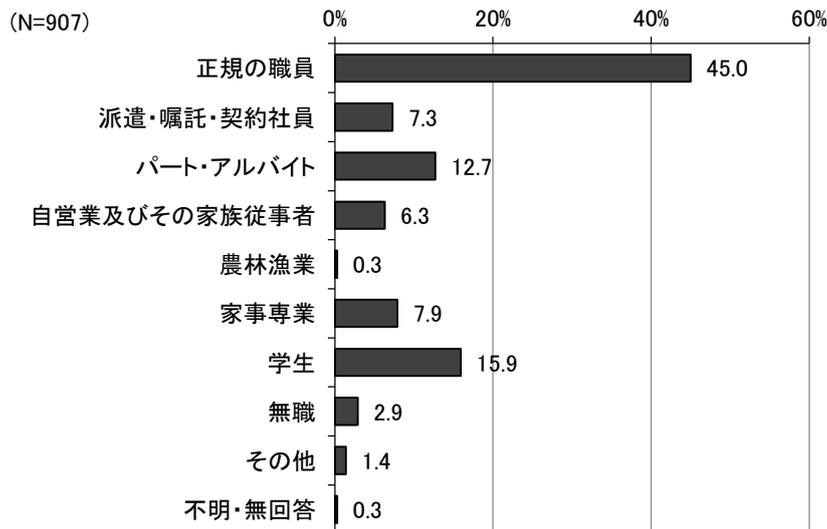
③家族構成〈単数回答〉〔問3〕

家族構成についてみると、「2世帯（親と子）」が66.8%ともっとも高く、次いで「配偶者のみ」が10.9%となっています。



④おつとめ状況〈単数回答〉〔問4〕

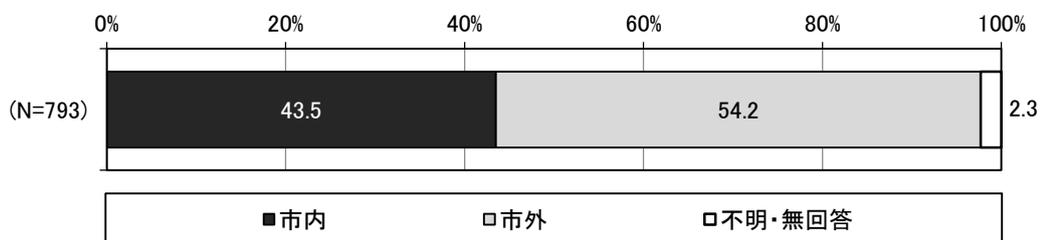
おつとめ状況についてみると、「正規の職員」が45.0%ともっとも高く、次いで「学生」が15.9%となっています。



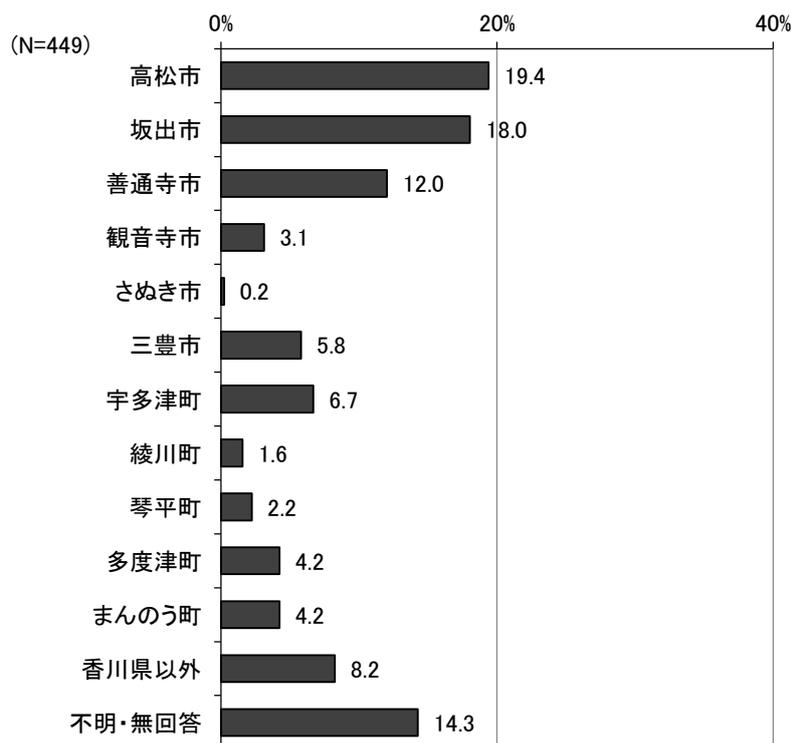
問4で、現在おつとめをされている方におうかがいします。

⑤通勤・通学先〈単数回答〉〔問5〕

通勤・通学先についてみると、「市内」が43.5%、「市外」が54.2%となっています。



【丸亀市外の通勤・通学先の状況】



年代×通勤・通学先

〔問2×問5/クロス〕

年代別にみると、『20歳未満』『20歳代』『30歳代』では、「市外」がもっとも高くなっていますが、『40歳代』では、「市内」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	市内	市外	不明・無回答
全体	793 100.0	345 43.5	430 54.2	18 2.3
20歳未満	107 100.0	34 31.8	72 67.3	1 0.9
20歳代	188 100.0	63 33.5	116 61.7	9 4.8
30歳代	229 100.0	100 43.7	126 55.0	3 1.3
40歳代	267 100.0	147 55.1	115 43.1	5 1.9

家族構成×通勤・通学先

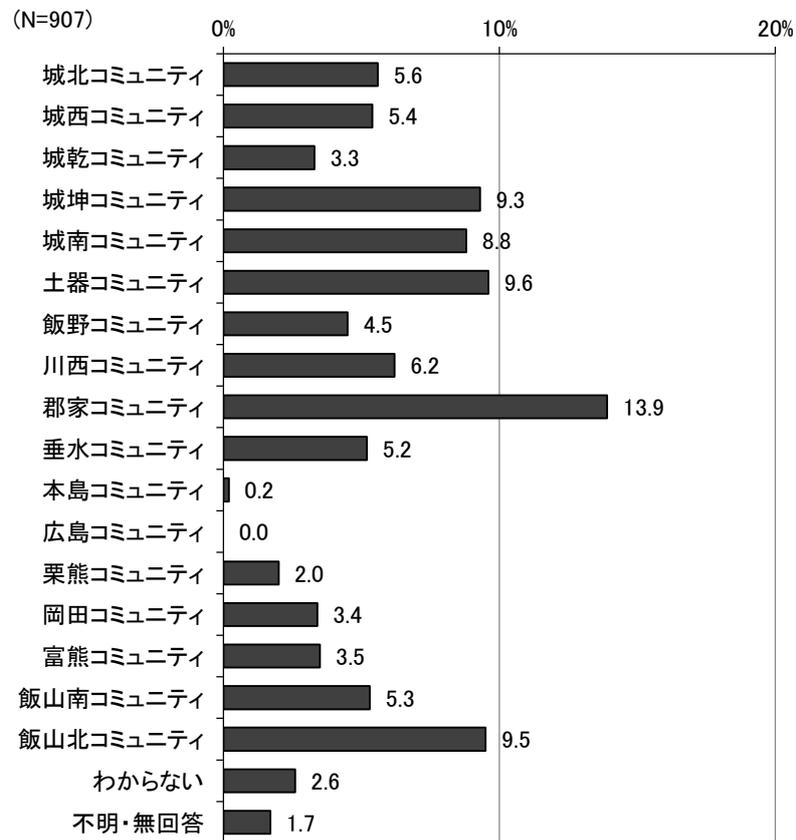
〔問3×問5/クロス〕

家族構成別にみると、『配偶者のみ』の方では「市内」がもっとも高くなっていますが、その他の家族構成の方では、「市外」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	市内	市外	不明・無回答
全体	793 100.0	345 43.5	430 54.2	18 2.3
ひとり暮らし	59 100.0	23 39.0	35 59.3	1 1.7
配偶者のみ	85 100.0	43 50.6	39 45.9	3 3.5
2世帯(親と子)	530 100.0	229 43.2	291 54.9	10 1.9
3世帯(親と子と孫)	80 100.0	33 41.3	44 55.0	3 3.8
兄弟や親戚と同居	6 100.0	2 33.3	4 66.7	-
友人や知人と同居	2 100.0	1 50.0	1 50.0	-
その他	24 100.0	11 45.8	13 54.2	-

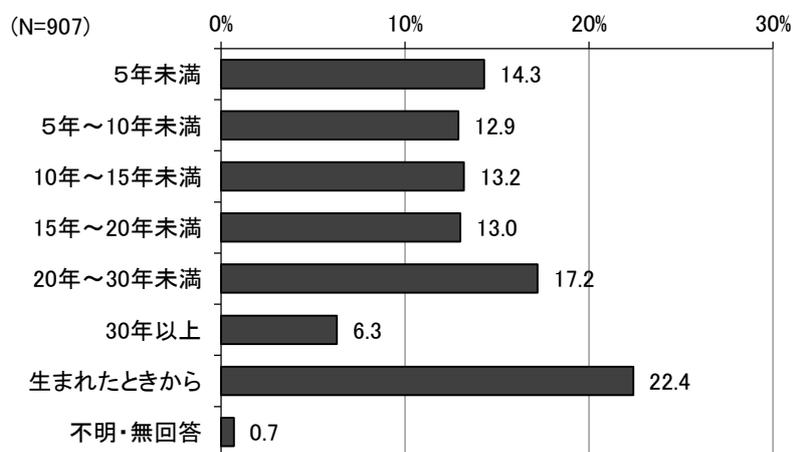
⑥お住まいのコミュニティ〈単数回答〉〔問6〕

お住まいのコミュニティについてみると、「郡家コミュニティ」が13.9%、「土器コミュニティ」が9.6%となっています。



⑦居住年数〈単数回答〉〔問7〕

居住年数についてみると、「生まれたときから」が22.4%ともっとも高く、次いで「20年～30年未満」が17.2%となっています。



家族構成×居住年数

〔問3×問7/クロス〕

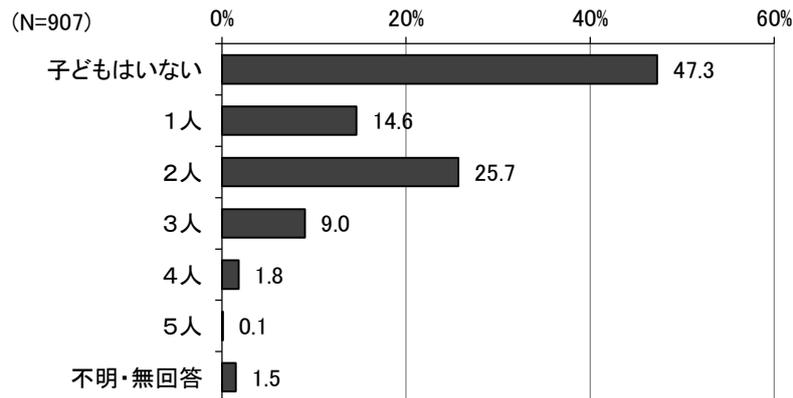
家族構成別にみると、『ひとり暮らし』『配偶者のみ』の方では「5年未満」がもっとも高くなっていますが、『2世帯（親と子）』『3世帯（親と子と孫）』『兄弟や親戚と同居』の方では、「生まれたときから」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	5年未満	5年～10年 未満	10年～15年 未満	15年～20年 未満	20年～30年 未満	30年以上	生まれたとき から	不明・無回答
全体	907 100.0	130 14.3	117 12.9	120 13.2	118 13.0	156 17.2	57 6.3	203 22.4	6 0.7
ひとり暮らし	64 100.0	13 20.3	12 18.8	5 7.8	11 17.2	10 15.6	2 3.1	10 15.6	1 1.6
配偶者のみ	99 100.0	26 26.3	15 15.2	8 8.1	10 10.1	15 15.2	7 7.1	17 17.2	1 1.0
2世帯(親と子)	606 100.0	77 12.7	84 13.9	91 15.0	73 12.0	100 16.5	40 6.6	141 23.3	-
3世帯(親と子と孫)	90 100.0	5 5.6	6 6.7	12 13.3	14 15.6	22 24.4	7 7.8	23 25.6	1 1.1
兄弟や親戚と同居	7 100.0	-	-	1 14.3	1 14.3	2 28.6	-	3 42.9	-
友人や知人と同居	2 100.0	1 50.0	-	-	1 50.0	-	-	-	-
その他	28 100.0	6 21.4	-	2 7.1	7 25.0	5 17.9	1 3.6	7 25.0	-

(2) 結婚・出産・子育てについて

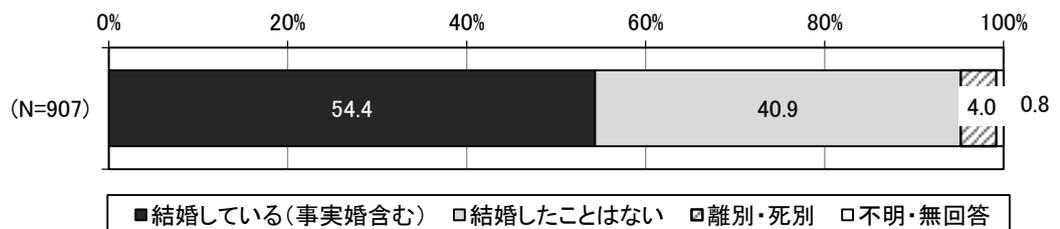
⑧現在のお子さんの数〈数量回答〉〔問8〕

現在のお子さんの数についてみると、「子どもはいない」が47.3%ともっとも高く、次いで「2人」が25.7%となっています。



⑨結婚の有無〈単数回答〉〔問9〕

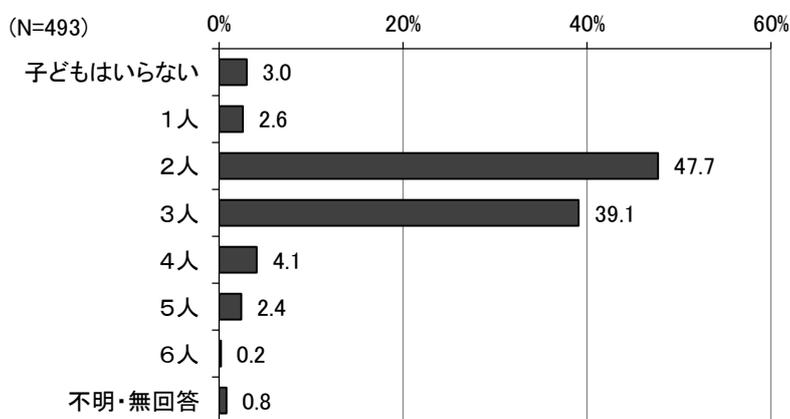
結婚の有無についてみると、「結婚している（事実婚含む）」が54.4%、「結婚したことはない」が40.9%、「離別・死別」が4.0%となっています。



問 10～13 は、問 9 で「1. 結婚している（事実婚含む）」を選んだ方におうかがいします。

⑩ー1 理想のお子さんの数〈単数回答〉〔問 10(1)〕

理想のお子さんの数についてみると、「2人」が 47.7%、次いで「3人」が 39.1%となっています。



年代×理想のお子さんの数

〔問 2×問 10(1) / クロス〕

年代別にみると、『20歳代』では「3人」が 46.3%と最も高くなっています。『30歳代』『40歳代』では、「2人」が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	子どもは いない	1人	2人	3人	4人	5人	6人	不明・ 無回答
全体	493 100.0	15 3.0	13 2.6	235 47.7	193 39.1	20 4.1	12 2.4	1 0.2	4 0.8
20歳未満	2 100.0	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-	-
20歳代	54 100.0	2 3.7	1 1.9	23 42.6	25 46.3	1 1.9	2 3.7	-	-
30歳代	186 100.0	4 2.2	7 3.8	85 45.7	72 38.7	7 3.8	7 3.8	1 0.5	3 1.6
40歳代	251 100.0	9 3.6	4 1.6	126 50.2	96 38.2	12 4.8	3 1.2	-	1 0.4

家族構成×理想なお子さんの数

【問3×問10(1)/クロス】

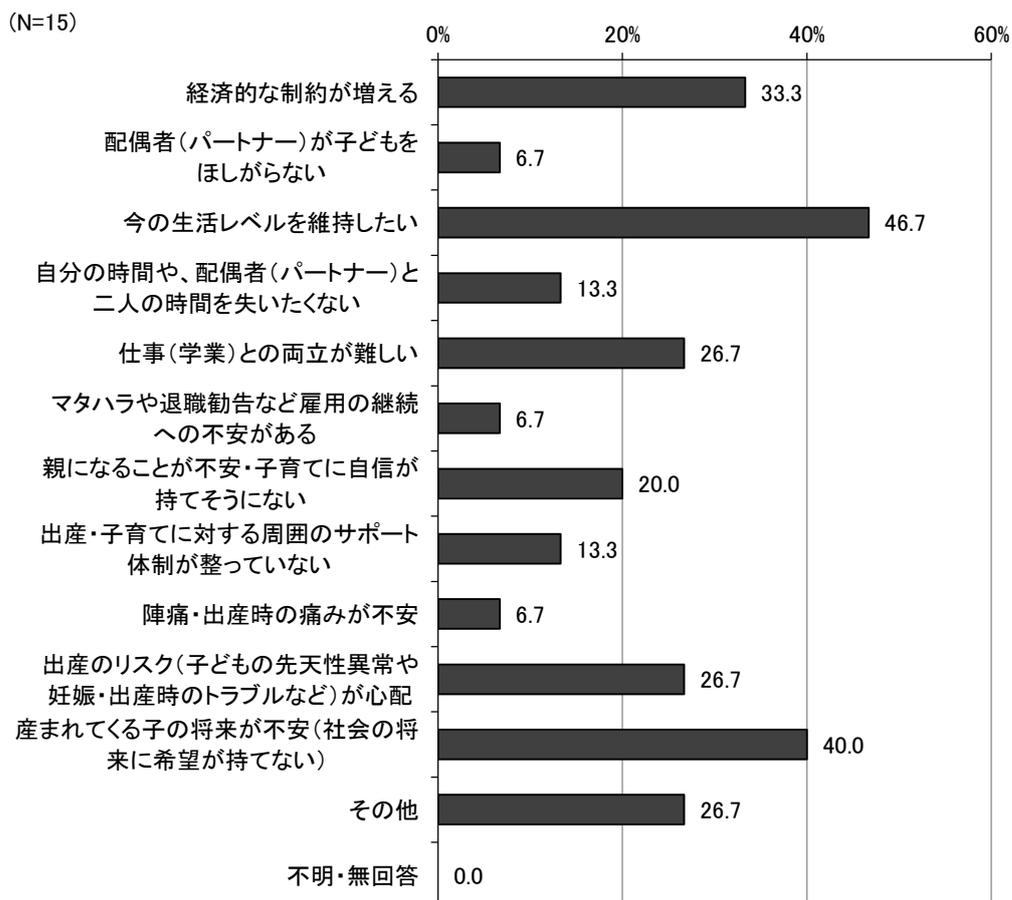
家族構成別にみると、『3世帯（親と子と孫）』では「3人」が45.0%ともっとも高くなっています。その他の家族構成では、「2人」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	子どもは いない	1人	2人	3人	4人	5人	6人	不明・ 無回答
全体	493 100.0	15 3.0	13 2.6	235 47.7	193 39.1	20 4.1	12 2.4	1 0.2	4 0.8
ひとり暮らし	2 100.0	-	-	2 100.0	-	-	-	-	-
配偶者のみ	92 100.0	11 12.0	3 3.3	43 46.7	27 29.3	1 1.1	5 5.4	-	2 2.2
2世帯(親と子)	345 100.0	4 1.2	8 2.3	167 48.4	142 41.2	17 4.9	5 1.4	-	2 0.6
3世帯(親と子と孫)	40 100.0	-	2 5.0	16 40.0	18 45.0	2 5.0	1 2.5	1 2.5	-
兄弟や親戚と同居	-	-	-	-	-	-	-	-	-
友人や知人と同居	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	12 100.0	-	-	6 50.0	5 41.7	-	1 8.3	-	-
不明・無回答	2 100.0	-	-	1 50.0	1 50.0	-	-	-	-

問 10 (1) で「 2. 子どもはほらない」を選んだ方におうかがいします。

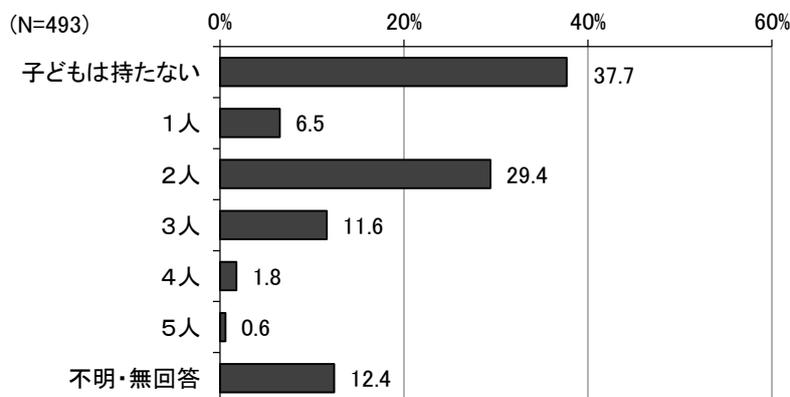
⑩ー2 子どもを持つことを望んでいない理由〈複数回答〉〔問 10(1)〕

子どもを持つことを望んでいない理由についてみると、「今の生活レベルを維持したい」が 46.7%と最も高く、次いで「産まれてくる子の将来が不安（社会の将来に希望が持てない）」が 40.0%となっています。



⑪ 今後、持つ予定のお子さんの数〈数量回答〉〔問 11〕

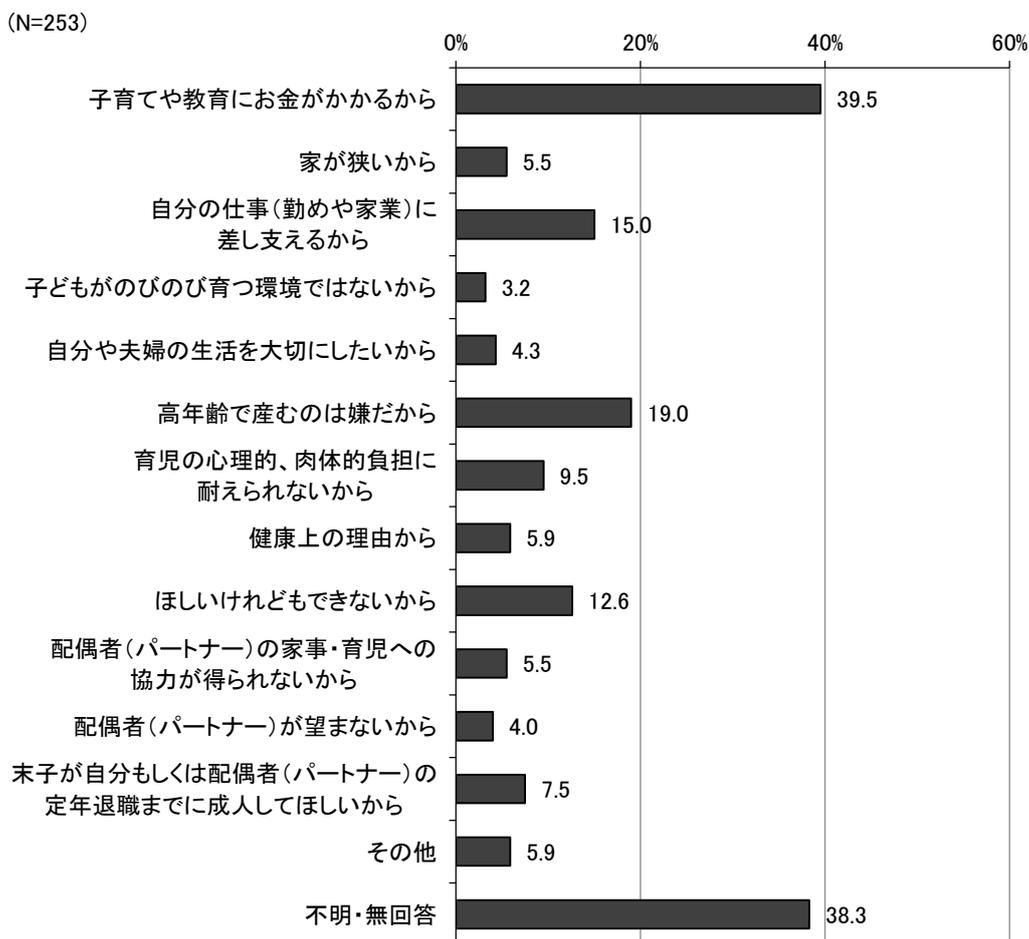
今後、持つ予定のお子さんの数についてみると、「子どもは持たない」が 37.7%ともっとも高く、次いで「2人」が 29.4%となっています。



持つお子さんの数〔問 11 の答え〕が、理想とするお子さんの数〔問 10(1)の答え〕より少ない方におうかがいします。

⑫ 持つお子さんの数が、理想とするお子さんの数より少ない理由〈複数回答〉〔問 12〕

理由についてみると、「子育てや教育にお金がかかるから」が 39.5%ともっとも高く、次いで「高年齢で産むのは嫌だから」が 19.0%となっています。（不明・無回答を除く）



⑬あと1人子どもを産み育てるとしたら、何が必要ですか〈自由記述〉〔問13〕

経済的な支援を必要とする声が圧倒的に多く、その他では子育てに関する支援や仕事（職場環境）に関することなどの意見が多くありました。

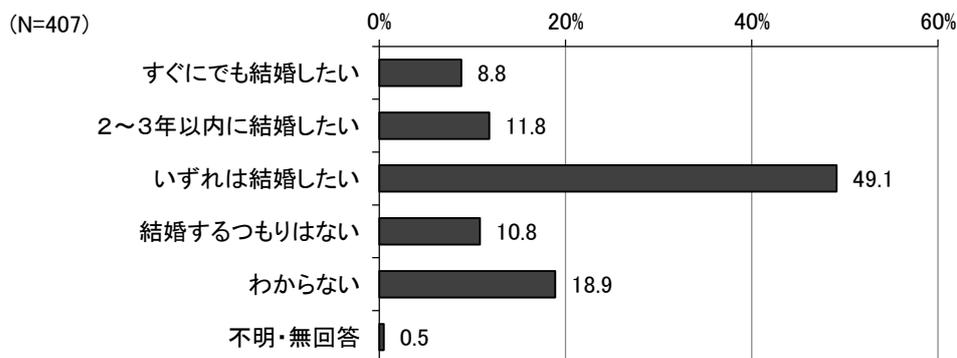
経済的な支援
・雇用の安定、賃金の引き上げ。
・保育料、学費（教育費）。
・医療費の補助。
・子どもを育てるのに必要な物の購入費。
・経済的不安の解消。
・減税。
・不妊治療への助成。
子育てに関する支援
・安心して子どもを預けられる環境。
・待機児童をなくす。
・公園、室内の遊び場、キッズスペース（スーパー）の確保。
・保育園、小学の放課後教室の充実。
・病児保育の充実。
・短時間でもいいので、子どもを預かってくれるサービス。
・子どもが自由に遊べる環境（公園など）。
職場・仕事に関して
・出産後、安心して働ける職場（子どもの病気休暇取得等、子どもが体調を崩した時に対応しやすい環境）。
・出産後の職場（仕事）の確保。
・子育てしながら働きやすい融通が利く職場。
・職場の理解。
・育児と仕事の両立ができる職場環境。
自分自身について
・若さ。
・体力があれば。
・心の余裕。
・時間のゆとりが必要。

周囲の環境
・ 家族（配偶者）の協力。
・ 地域の協力。
・ 子どもを預けられる人（育児ヘルパーなど）。
・ ママ友、頼れる友人。
その他
・ 教育環境の充実。
・ 子育てに関する情報。
・ 出産後の行政サポート。

問 14、15 は、問 9 で「2. 結婚したことはない」「3. 離別・死別」を選んだ方におうかがいします。

⑭ 結婚願望の有無〈単数回答〉〔問 14(1)〕

結婚願望の有無についてみると、「いずれは結婚したい」が 49.1%と最も高く、次いで「わからない」が 18.9%となっています。



年代別×結婚願望の有無

〔問 2×問 14(1) / クロス〕

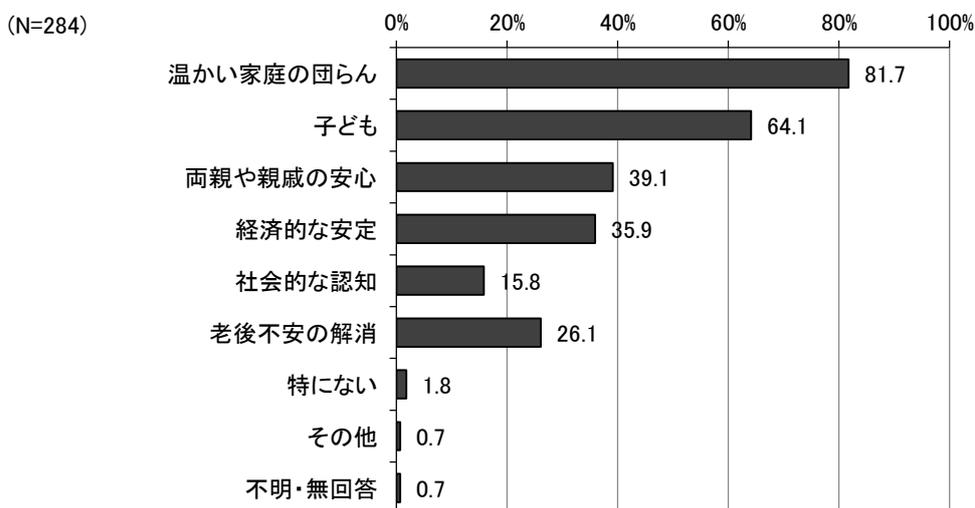
年代別にみると、『20 歳未満』『20 歳代』『30 歳代』では、「いずれは結婚したい」が最も高く、40 歳代では「わからない」が最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	すぐにも結婚したい	2~3年以内に結婚したい	いずれは結婚したい	結婚するつもりはない	わからない	不明・無回答
全体	407 100.0	36 8.8	48 11.8	200 49.1	44 10.8	77 18.9	2 0.5
20歳未満	108 100.0	- -	3 2.8	71 65.7	11 10.2	22 20.4	1 0.9
20歳代	161 100.0	14 8.7	29 18.0	86 53.4	12 7.5	19 11.8	1 0.6
30歳代	83 100.0	16 19.3	12 14.5	28 33.7	10 12.0	17 20.5	- -
40歳代	53 100.0	6 11.3	4 7.5	14 26.4	11 20.8	18 34.0	- -

問 14(1)で「1.すぐにでも結婚したい」「2. 2～3年以内に結婚したい」「3.いずれは結婚したい」を選んだ方におうかがいします。

⑭-2 結婚することで得たいこと〈複数回答〉〔問 14(2)〕

結婚することで得たいことについてみると、「温かい家庭の団らん」が81.7%と最も高く、次いで「子ども」が64.1%となっています。



年代別×結婚することで得たいこと

〔問 2×問 14(2) / クロス〕

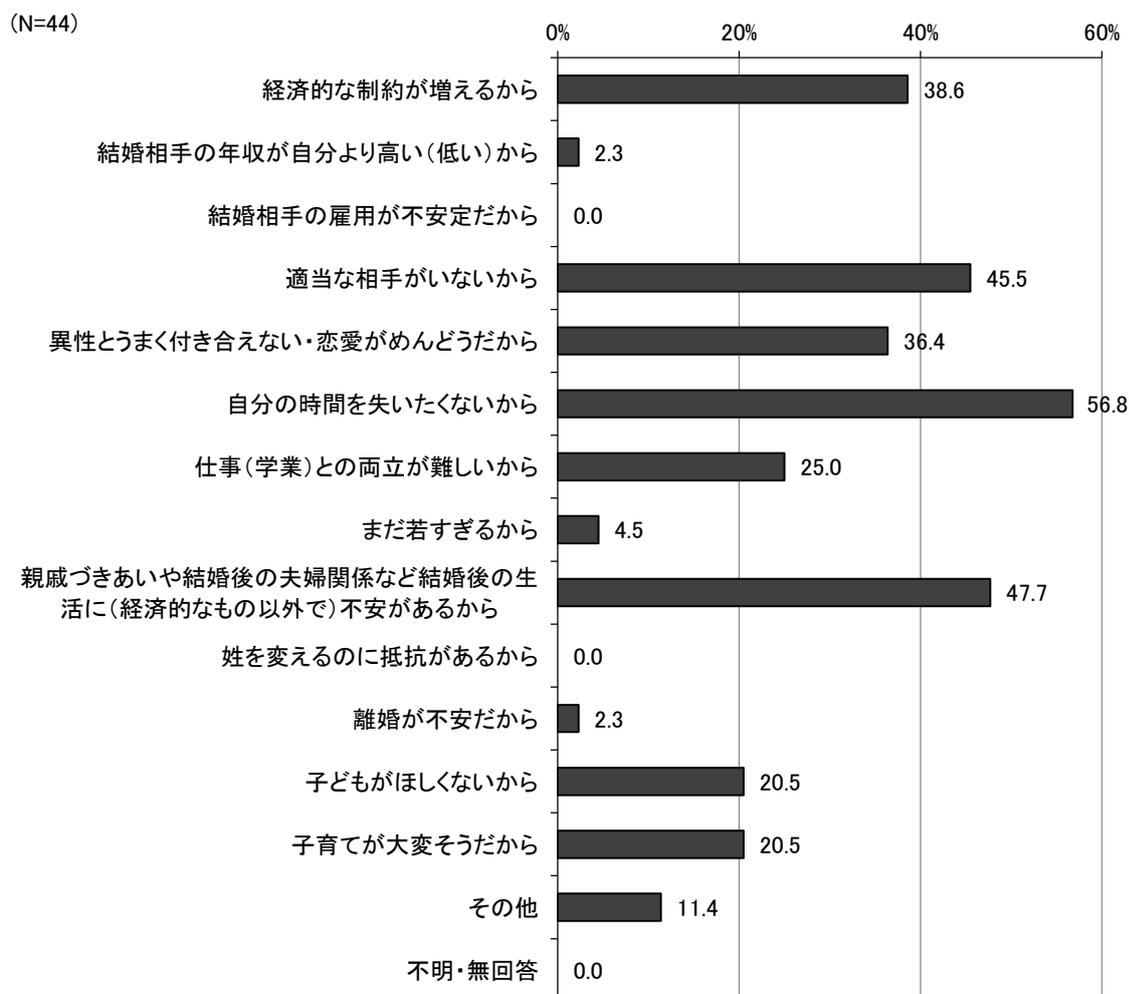
年代別にみると、全ての年代で「温かい家族の団らん」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	温かい家庭 の団らん	子ども	両親や親戚 の安心	経済的な 安定	社会的な 認知	老後不安の 解消	特にない	その他	不明・無回答
全体	284 100.0	232 81.7	182 64.1	111 39.1	102 35.9	45 15.8	74 26.1	5 1.8	2 0.7	2 0.7
20歳未満	74 100.0	68 91.9	44 59.5	18 24.3	28 37.8	9 12.2	10 13.5	1 1.4	1 1.4	1 1.4
20歳代	129 100.0	108 83.7	87 67.4	56 43.4	48 37.2	18 14.0	29 22.5	4 3.1	1 0.8	-
30歳代	56 100.0	39 69.6	39 69.6	29 51.8	17 30.4	16 28.6	21 37.5	-	-	1 1.8
40歳代	24 100.0	16 66.7	12 50.0	8 33.3	9 37.5	2 8.3	14 58.3	-	-	-

問 14 (1) で「4. 結婚するつもりはない」を選んだ方におうかがいします。

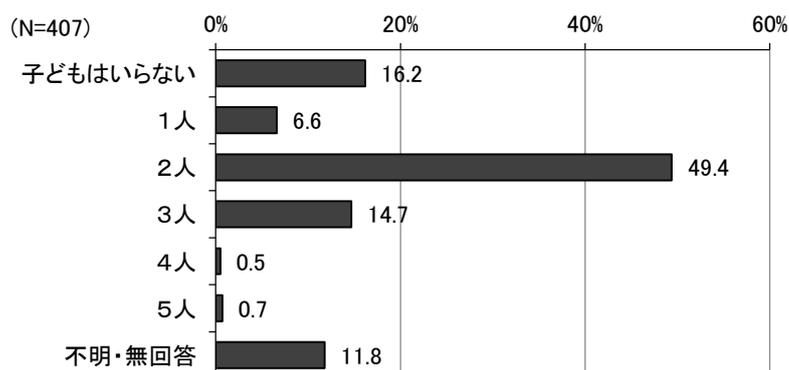
⑭—3 結婚したくない理由〈複数回答〉〔問 14(3)〕

結婚したくない理由についてみると、「自分の時間を失いたくないから」が 56.8%と最も高く、次いで「親戚づきあいや結婚後の夫婦関係など結婚後の生活に（経済的なもの以外で）不安があるから」が 47.7%となっています。



⑮ 将来欲しいお子さんの数〈数量回答〉〔問 15〕

将来欲しいお子さんの数についてみると、「2人」が 49.4%と最も高く、次いで「子どもはほしくない」が 16.2%となっています。



(3) 定住・移住について

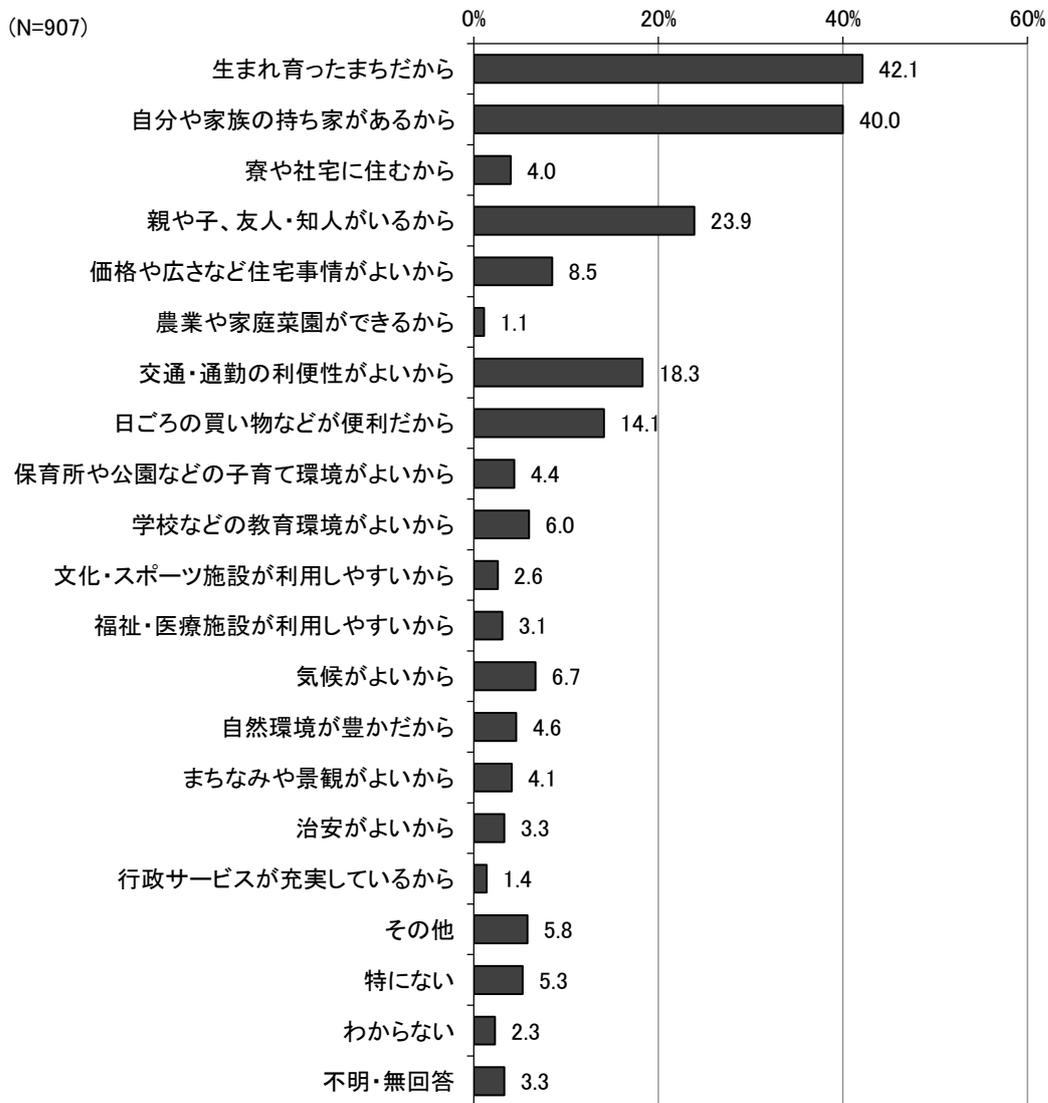
⑩-1 丸亀市に住むことになったきっかけ〈複数回答〉〔問16(1)〕

丸亀市に住むことになったきっかけについてみると、「生まれたときから住んでいる」が45.8%と最も高く、次いで「自分が結婚した」が24.3%となっています。



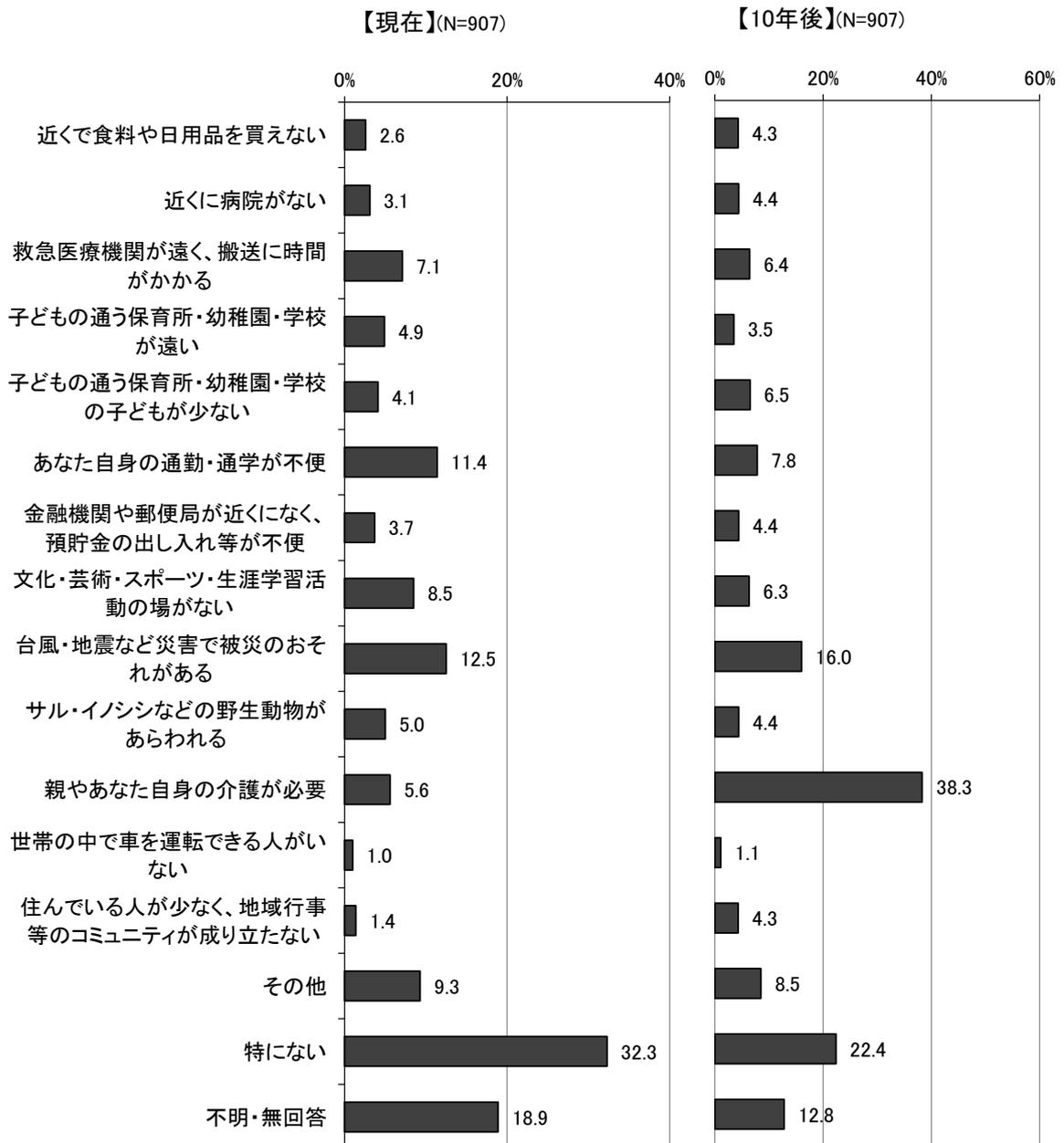
⑩—2 丸亀市を居住先として選んだ理由〈複数回答〉〔問16(2)〕

丸亀市を居住先として選んだ理由についてみると、「生まれ育ったまちだから」が42.1%と最も高く、次いで「自分や家族の持ち家があるから」が40.0%となっています。



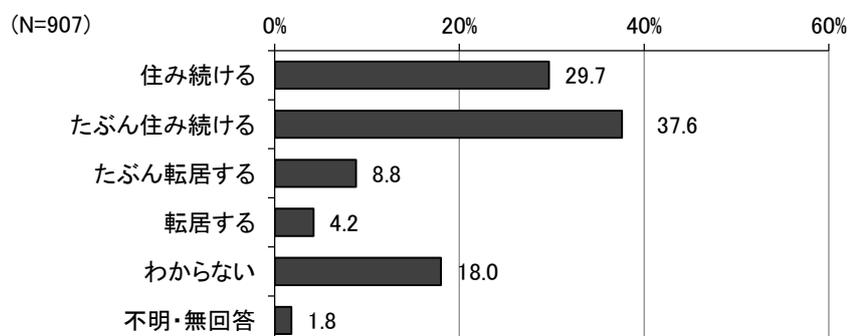
⑰現在と10年後でお困りのことや不安なこと〈複数回答〉〔問17〕

現在の困りごとや不安についてみると、「特にない」が32.3%ともっとも高くなっており、10年後の困りごとや不安についてみると、「親やあなた自身の介護が必要」が38.3%ともっとも高く、次いで「特にない」が22.4%となっています。



⑱-1 今後の居住予定〈単数回答〉〔問 18(1)〕

今後の居住予定についてみると、「たぶん住み続ける」が37.6%ともっとも高く、次いで「住み続ける」が29.7%となっています。



年代別×今後の居住予定

〔問 2×問 18(1) / クロス〕

年代別にみると、『20歳未満』では「わからない」が40.2%ともっとも高く、『20歳代』『40歳代』では「たぶん住み続ける」、「住み続ける」がもっとも高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	住み続ける	たぶん 住み続ける	たぶん 転居する	転居する	わからない	不明・ 無回答
全体	907 100.0	269 29.7	341 37.6	80 8.8	38 4.2	163 18.0	16 1.8
20歳未満	112 100.0	9 8.0	25 22.3	22 19.6	8 7.1	45 40.2	3 2.7
20歳代	216 100.0	30 13.9	78 36.1	32 14.8	13 6.0	57 26.4	6 2.8
30歳代	269 100.0	112 41.6	99 36.8	11 4.1	11 4.1	34 12.6	2 0.7
40歳代	306 100.0	118 38.6	139 45.4	15 4.9	5 1.6	26 8.5	3 1.0

〔問9×問18(1)/クロス〕

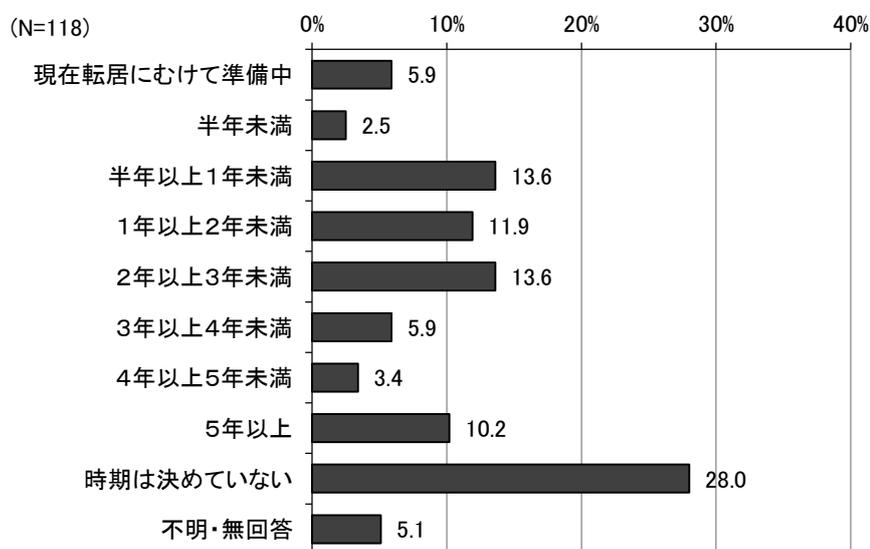
結婚の有無別にみると、『結婚している（事実婚含む）』では、「住み続ける」が41.4%と最も高く、『結婚したことはない』『離別・死別』では、「たぶん住み続ける」がそれぞれ33.4%、44.4%と最も高くなっています。

上段:件数 下段:%	合計	住み続ける	たぶん住み 続ける	たぶん転居 する	転居する	わからない	不明・ 無回答
全体	907 100.0	269 29.7	341 37.6	80 8.8	38 4.2	163 18.0	16 1.8
結婚している (事実婚含む)	493 100.0	204 41.4	200 40.6	34 6.9	15 3.0	36 7.3	4 0.8
結婚したことはない	371 100.0	53 14.3	124 33.4	44 11.9	23 6.2	120 32.3	7 1.9
離別・死別	36 100.0	10 27.8	16 44.4	2 5.6	- -	7 19.4	1 2.8

問18(1)で「3. たぶん転居する」もしくは「4. 転居する」を選んだ方におうかがいします。

⑱-2 転居の時期〈単数回答〉〔問18(2)〕

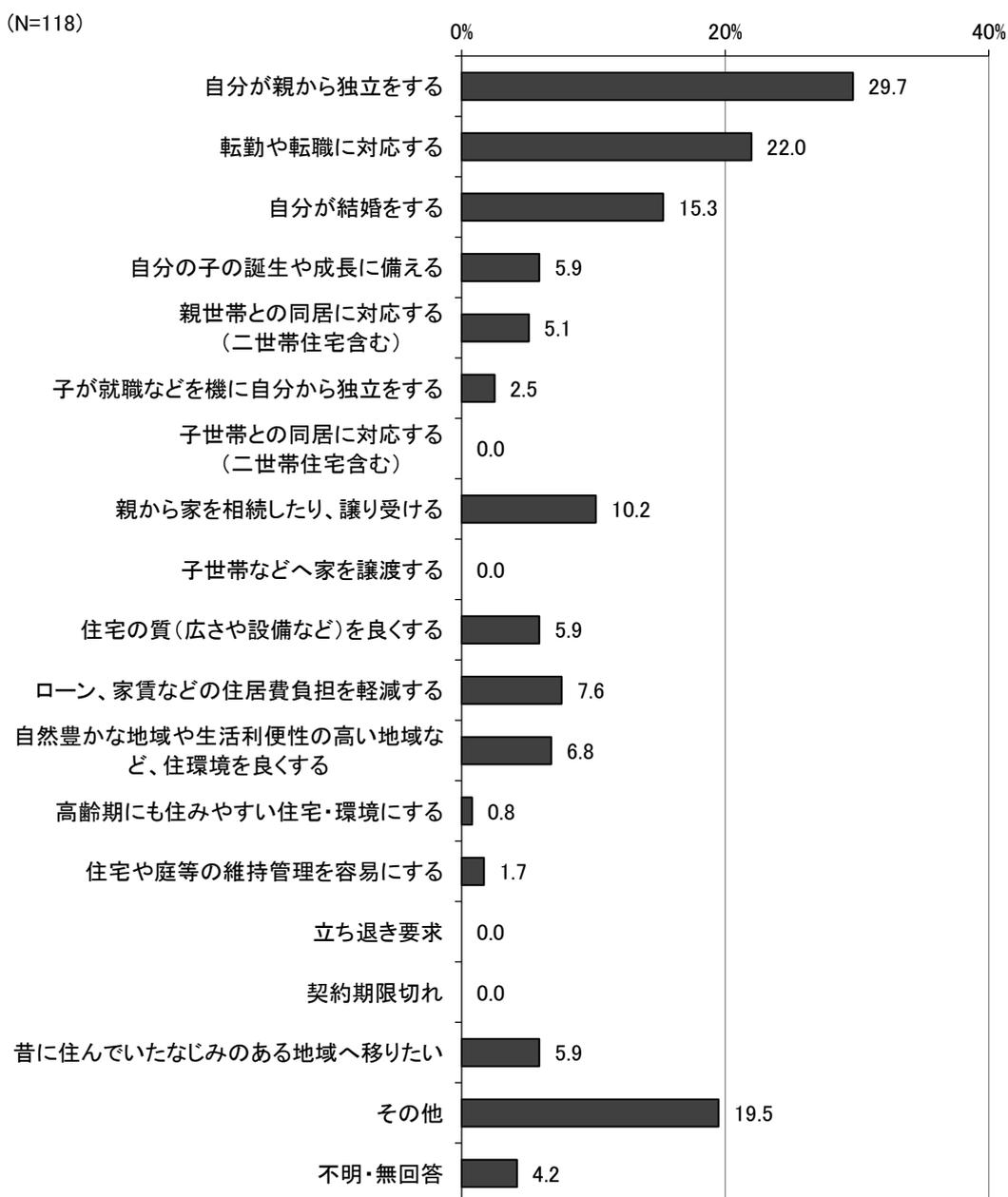
転居の時期についてみると、「時期は決めていない」が28.0%と最も高く、次いで「半年以上1年未満」「2年以上3年未満」がともに13.6%となっています。



問 18 (1) で「 3 . たぶん転居する」もしくは「 4 . 転居する」を選んだ方におうかがい
 します。

⑱— 3 転居したいと思ったきっかけ〈複数回答〉〔問 18(3)〕

転居したいと思ったきっかけについてみると、「自分が親から独立をする」が 29.7%と
 もっとも高く、次いで「転勤や転職に対応する」が 22.0%となっています。

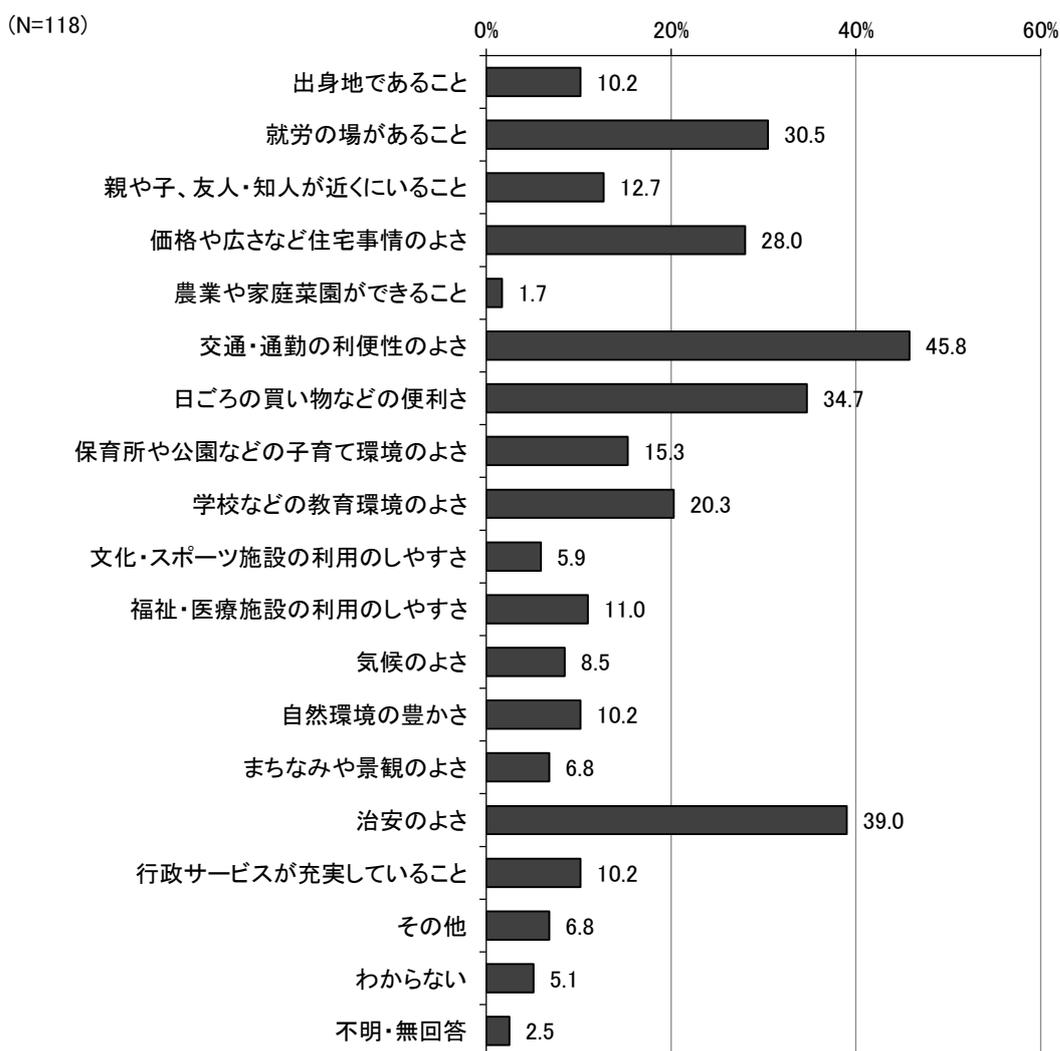


問 18 (1) で「3. たぶん転居する」もしくは「4. 転居する」を選んだ方におうかがい
 します。

⑱—4 転居する際に住まいや周囲の環境選びで特に重視すること〈複数回答〉

〔問 18(4)〕

転居する際に住まいや周囲の環境選びで特に重視することについてみると、「交通・通
 勤の利便性のよさ」が 45.8%と最も高く、次いで「治安のよさ」が 39.0%となっ
 ています。



問 18(1)で「3. たぶん転居する」もしくは「4. 転居する」を選んだ方におうかがい
します。

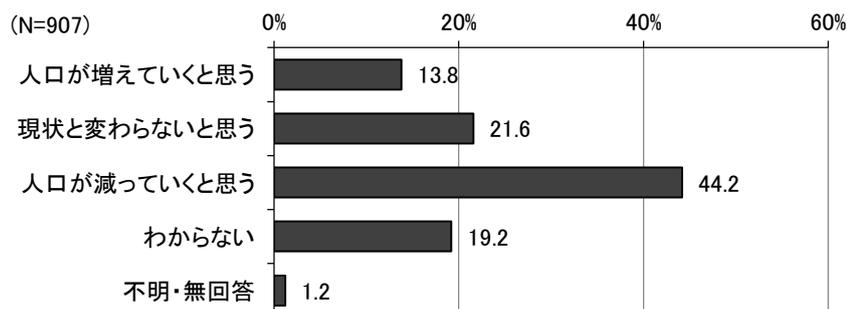
⑱—5 問 18(4)で選んだ環境が丸亀市で向上すれば、これからも住み続けたい
と思うか〈単数回答〉〔問 18(5)〕

問 18(4)で選んだ環境が丸亀市で向上すれば、これからも住み続けたいと思うかにつ
いてみると、「たぶん転居する」が30.5%と最も高く、次いで「わからない」が23.7%
となっています。



⑲ 今後丸亀市の人口はどうなると思うか〈単数回答〉〔問 19〕

今後丸亀市の人口はどうなると思うかについてみると、「人口が減っていくと思う」が
44.2%と最も高く、次いで「現状と変わらないと思う」が21.6%となっています。



⑳問 19 を選んだ理由〈自由記述〉〔問 20〕

【増えると思う】

生活環境について	件数
・住みやすいまちだと思う。	26
・駅や商店などが近く、利便性が良い。	14
・商業施設が充実してきたから。	9
・子育て支援（医療費無償化など）が充実し、子育てしやすい。	6
・公共施設・交通機関が充実してきているから。	4
・田舎過ぎず、都会過ぎず、バランスが良い。	3
・治安が良いまちだから。	2
・人口が増えると医療機関が充実する。	2
・家賃が安いから。	2
・教育環境が良いから。	2
・スポーツ施設が充実しているから。	1
住宅の増加	件数
・分譲地や住宅が増加している。	32
・土地があるから。	2
仕事（企業）が多いから	件数
・企業が多いから。	1
・求人が多いから。	1
人口の流入が多いから	件数
・転入者が多いから。	3
・転勤によって移住してくる。	1
・他県から人がくるかもしれない。	1
・都会からの移住者が増えているから。	1
その他	件数
・人口が増えている実感がする。	4
・香川の中では都会だから。（西讃の中心地）	4
・人口が減っている実感がないから。	2
・周りの人の子どもが多いから。	2
・合併して市域が広いから。	2
・都会にはない魅力があるから。	1
・ボート、サッカー場、野球場の収益が大きいと思う。	1
・県外へ行くにも便利な位置にある。	1
・災害が少ない。	1

【現状と変わらない】

生活環境について	件数
・良くも悪くもない環境だから	3
・便の良い地区は若い人たちが増え、田舎方では減るため。	2
・住みよいが人口に大きな変化はないと思う。(現状維持のまま)	2
・不便だと思う事はたいしてないが、住んでいたからといって、特にメリットもないから。	1
・少子化が進むが、商業施設や企業が多いとはいえないがある程度あるため。	1
人口の流入・流出について	件数
・出たり入ったりがあるから。	4
・流出もあるが、若い子育て世代が入ってくると思うので。	2
・安定を求めて人は出ていかず、目だった良いところもないので人は入ってこない。	1
・発展しても人口の増減はあまり変化が無いように思うから。	1
・県外に出て行った人でも、帰ってきているから。	1
住宅の増加	件数
・土地は安いが年を取ってから困る場所が多い。(車がないと)	2
・学生は減っているが、ところどころに新居が建っているため	1
・若者は県外に出ていくが、住宅が増えてその分市外から入るので。	1
・丸亀市は田んぼがあった土地をマンションにしているが、実際のところ人口の現状は変わらないと思う。	1
・新しい住宅が増えているが、高齢者が住んでいた空き家も増えている	1
その他	件数
・出産して子育てをする人も多いが、高齢者も多いため。	5
・市内でも増える地区と減る地区があり、市全体では変わらない。	3
・過去10年でそんなに変わっておらず、安定している。	2
・減っている実感があまりない。	1
・丸亀市を好きでも嫌いでもない人が多い。	1
・工業、産業も近隣市町に比べ発展しているので人口は変わらないと考える。	1
・そこまで人気でも不人気でもない場所だから。人口は変わらないと思う。	1

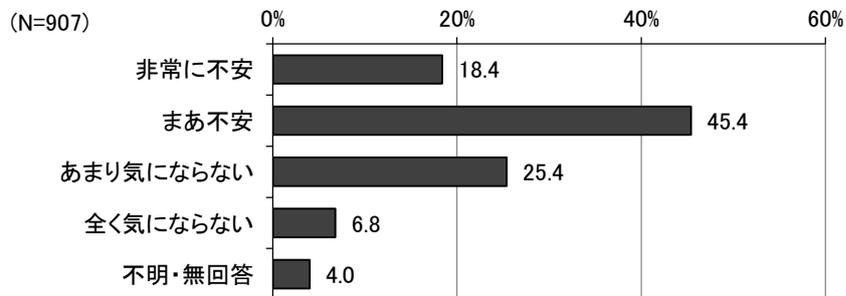
【減ると思う】

生活環境について	件数
・田舎だから、生活に魅力を感じない。不便。	17
・都会の方が便利だから、都会へ人が流出する。	15
・郊外化が進み、まちの活性化は進まない。	6
・空き家の増加。	6
・治安が悪いから。	5
・税金が高く、支援などの対策で住みやすいまちにしてほしい。	3
・単身世帯の増加。	2
・アパートが少なく、振興住宅も増えていない。	2
・地域のコミュニティが減っている。	1
若者の流出	件数
・若者が都会へ行く。	30
・進学や就職を機に県外へ出る人が多い。	22
・若者が残りたいと思う魅力がない。	6
少子高齢化の進行	件数
・子どもが減っているから。	106
・高齢化が進んでいる。	42
・少子高齢化に対する対策がない。(子育て支援など)	17
・経済的な理由で子どもを多く産めない。	2
・地区によっては高齢者の割合が非常に高い。	1
・子どもを育てることに対する考え方が変わってきている。	1
就労環境について	件数
・魅力的な就職先(企業)が少ない。	13
・地方での就労の確保が必要。	12
・景気が良くなく、所得も増えないから。	4
・若い人が地元で働いていない。	2
日本全体が減っているから	件数
・全国的に減少する。	17
・香川県の人口と同様に減っていく。	4
・新聞で予測されていた。	1

その他	件数
・晩婚・未婚化が進んでいる。	11
・人口減少に対する危機感がない。対策が取られていない。	7
・移住が少ない。移住のメリットや魅力がない。	5
・観光客が減っているような気がするから。	1
・人口を保持するだけの経済力もなく丸亀ではできないこともあるから	1
・将来に対する不安がある。	1
・合併して一時的に人口を増やしても意味がない。	1
・市民性が閉鎖的。	1
・転勤で出ていく人が多い。	1
・市全体として財政が豊かであるとは言えず、もう少し保障の改良の余地もあるから。	1

②① 「地域の人口が減少する」と聞いてどのように感じるか〈単数回答〉〔問 21〕

「地域の人口が減少する」と聞いてどのように感じるかについてみると、「まあ不安」が 45.4%と最も高く、次いで「あまり気にならない」が 25.4%となっています。



②② 結婚、出産、子育て、少子化、人口問題などについて、充実してほしいと感じている施策やご意見など〈自由回答〉〔問 22〕

生活環境について	件数
・公共交通の利便性の向上（便数・運賃）。	32
・商業施設、娯楽施設の充実。	21
・街灯や歩道の整備。	16
・運動施設の充実（プール、利用のしやすさなど）。	12
・環境問題（ごみの分別など）	3
・子ども安全の確保。（通学路など）	3
・騒音対策。	3
・図書館を増やして欲しい。	3
・交通マナーの向上。	2
・宅地整備。	2
・高齢者などの買い物難民への支援。	1
移住・定住に向けた施策	件数
・空き家の活用をする。	7
・若い世代が住みやすい環境づくり。（住宅の提供など）	4
・他県から若い人が住みたいと思うようなイベント・PRを行ってほしい。	3
・Uターン学生への支援	3

子育て支援について	件数
・子どもを安心して預けられる。 （待機児童解消・保育士の増加など）	57
・子育て支援（金銭面）の充実（保育料や祝い金など）。	53
・子どもを連れて行ける場所（お店や公園などの遊び場）を増やす。	43
・子育てに関する情報交換や相談できる場。	8
・子ども手当の対象引き上げ。	8
・不妊治療への支援。	7
・子どもの医療費補助の対象年齢を引き上げてほしい。	6
・子育てしやすい企業の協力。	5
・男性の育休の促進。	4
・出産にかかる費用の補助。	3
・家庭だけでなく、第三者の支援が必要。	1
経済的支援について	件数
・市民税などの税金への補助。	9
・経済的な不安をなくす。	2
・高齢者への生活用品の配達。	1
まちの活性	件数
・まちの繋がりや満足感を得られるイベントの創出。	6
・文化や芸術のため、市民会館等の施設の充実。	4
・地域コミュニティの希薄化。	2
・スポーツ振興。	1
就業について	件数
・求人がない。地元雇用の確保。	18
・企業の誘致。	10
・安定した収入を得られるようにする。	9
・定年後も働ける環境や施設。	4
・若い人でも農業で生計が立てられるように支援する。	2
・ベンチャー企業支援。	1
結婚について	件数
・若者同士で交流する機会を増やす。（婚活イベントなど）	16
・結婚祝い金制度など。	4
・少子化対策のために、まずは結婚する人を増やしてほしい。	2

医療・福祉について	件数
・老人へのサポート（老人ホームなど）を充実させる。	10
・医療機関（救急医療など）の充実。	10
・親の老後が不安。	6
・障害者への福祉の充実。	4
・産婦人科の充足。	4
・健康な高齢者に対するインセンティブ。	3
行政に対して	件数
・市の広報（PR）を充実させる。	7
・土日祝日の窓口対応や時間延長。	3
・人口減に対応したまち作り。	2
・誰にとっても優しいまちづくり。	1
・人口が減少すると少ない税金で施策などがまかなえず、地方の衰退を招く。	1
・明るい情報発信をしてほしい。	1
・ふるさと納税の魅力ある商品の取り扱い。	1
・市や議員の活動をもっと市民に可視化する。	1
その他	件数
・教育現場の環境の充実。（学力定着、いじめ問題など）	12
・高齢者も若者も希望のもてるまちにする。	2
・下水道の整備。	2
・2世帯、3世帯の同居を増やす。	1
・子どもが自由に学校を選べるようにしてほしい（小学校校区外）。	1

第3部 ヒアリング報告書

- 1 調査の概要
- 2 ヒアリング結果まとめ



1 調査の概要

本調査は、「地方版総合戦略」「地方版人口ビジョン」の策定において、以下の対象者へのヒアリング調査を実施しました。

(1) 調査対象

- 公益社団法人さぬき青年会議所（JCI）会員…平成 27 年 9 月 9 日（水）
- 四国職業能力開発大学校学生…平成 27 年 9 月 14 日（月）
- 香川短期大学学生…平成 27 年 9 月 14 日（月）
- 株式会社アイクコーポレーション香川支社社員…平成 27 年 9 月 15 日（火）

(2) 実施手法

- グループインタビュー形式

(3) 実施目的

- 丸亀市の魅力・課題などについて市内外の視点から意見の聴取
- 幅広い団体から意見の聴取
- 総合戦略におけるまちづくりの在り方を検討する

上記の目的に向けて、主に 5 つ観点から意見を頂きました。

- 1 市の魅力
- 2 市の課題
- 3 丸亀市の「まちづくり」について（雇用関係）
- 4 丸亀市の「まちづくり」について（結婚・子育て・働き方）
- 5 市外への就職希望が多いことについて

2 ヒアリング結果まとめ

(1) 市の魅力

【主な意見】

- 子育て医療費の補助などもあり、住みやすいイメージ
- 幼稚園から高校まで近くで通えて、コンパクトにまとまっている
- 遊ぶところや買い物できる所もあって便利
- 駐車場も多く、駅前や図書館は無料で停められる
- 都会過ぎず、気軽にどこでも行ける
- 生活圏内に必要な店や施設がある
- 暮らす上では不便ではない
- 丸亀城もあって、歴史あるイメージ
- 郊外に企業や店舗がある

【まとめ・考察】

「住みやすさ」の実感から、市に対する愛着をもつ人が多い。

⇒コンパクトなまちから、生活をする上での利便性は高く、子育てへの支援も充実している印象があり、「住みやすい」という意見が多くありました。また、丸亀城を中心とした歴史的な地域資源のイメージも共通していました。

(2) 市の課題

【主な意見】

- 交通マナーが悪い
- 買い物や食事をする場所がないので、丸亀市までわざわざ行かない
- 商店街が寂れている
- 街灯が少ない、歩道が狭いなど危険な箇所がある

【まとめ・考察】

交通マナーの悪さと、街なかで魅力に欠ける声が多い。

⇒共通して出ていたのは、交通マナーです。また、商店街の再開発が進まず、街なかで過ごせるお店や、丸亀城周辺の観光強化が必要という声もありました。

(3) 雇用関係

【主な意見】

- 職人不足であり、人材不足を補うための人材育成が必要
- 地元企業の活躍の支援や、県レベルの広域な取組が必要
- 職人・商売人のイメージが丸亀市にはある
- 丸亀のブランド化を進めることで、競争力の強化や地元（丸亀）で商業をしたい、と思えるイメージアップにつなげる
- 仕事を決める上では、やりたい仕事であるか、長続きするかどうかが重要

【まとめ・考察】

今後の課題として人材確保や働きやすい環境づくりが必要。

⇒地方の企業においては、業種を問わず人材不足が課題となっていることから、人材育成のための機関や地元企業への支援が重要だと認識されています。また、女性の就労に関しては、育休取得後の職場復帰のしやすさ、子育てしながら働きやすいイメージを企業側がPRしていくことが重要という声もありました。

(4) 結婚・子育て・働き方

【主な意見】

- 子育て支援に対する支援はスピード感をもってやってもらっている印象
- 子育てに関する（習い事、保育料）の更なる支援
- 子育てを親族間（家族間）で支える認識が薄くなってきて、行政への要望が多くなっている
- 地域コミュニティが希薄しており、地域の世話役となる人が居ない
- 地域で子どもを育てる環境や地域愛を育む機会が必要
- 家を継いだり、同居するのを嫌がる風潮があるので、同居するメリットをPR
- 子どもの数が減った背景には、共働きの増加・晩婚化がある

【まとめ・考察】

子育てを巡る環境・地域の変化。

⇒子どもの数が減っている中、子ども会を始めとする地域のつながりの希薄化を危惧する声が多くありました。子育てを担う家族や地域の役割を改めて見直し、それが子育てしながら働きやすい環境づくりにも繋がると言えます。

(5) 市外への就職希望について

【主な意見】

- 都会への憧れが、都会への就職希望につながっている
- 「地元（県内）では希望する就職先がない」という認識が多いが、実際には情報不足が原因のケースもある
- 地元で働くことの良さを PR する
- 早期のキャリア教育を充実させることで、働き方の選択肢が広がるのでは
- 都会では様々な経験ができそうだが、地元では安心して働けるイメージ
- Uターンをすれば返金不要の奨学金制度を創設
- 郷土愛を育むことで、地元定着につながる

【まとめ・考察】

都会への憧れが強いが、地元での就職メリットを PR する必要。

⇒都会への憧れや地元では希望する就職先が少ないという意見が多くあり、市外への就職希望の多さにつながっています。地方で働くことは「地方を支える」といったやりがいを見出せるような意識醸成、また丸亀市で就職をするための情報発信が求められています。

(6) その他

【主な意見】

- 市民が人口減少に対する危機感を持つことが重要
- 統一された「丸亀らしさ」を確立していく（丸亀ブランドの強化）
- 丸亀城周辺の観光の強化（お土産を買える場所やカフェ、滞在スポットの充実）
- 住みたい、訪れたいと思う魅力を高める
- 継続的な取組のためは、地域の自発的な活動が必要（商店街の再開発など）
- 移住・定住のために住みよさを実感できる PR

【まとめ・考察】

今後のまちづくりの方向性

⇒本市では豊富な地域資源を有しており、それを活かした PR など積極的な情報発信が有効との声が多くありました。

第4部 人口推計のための資料

- 1 将来に及ぼす影響度の分析
- 2 人口構造の分析結果
- 3 老年人口比率の変化分析



1 将来に及ぼす影響度の分析

将来推計人口に及ぼす影響度は自然増減の方が やや大きい

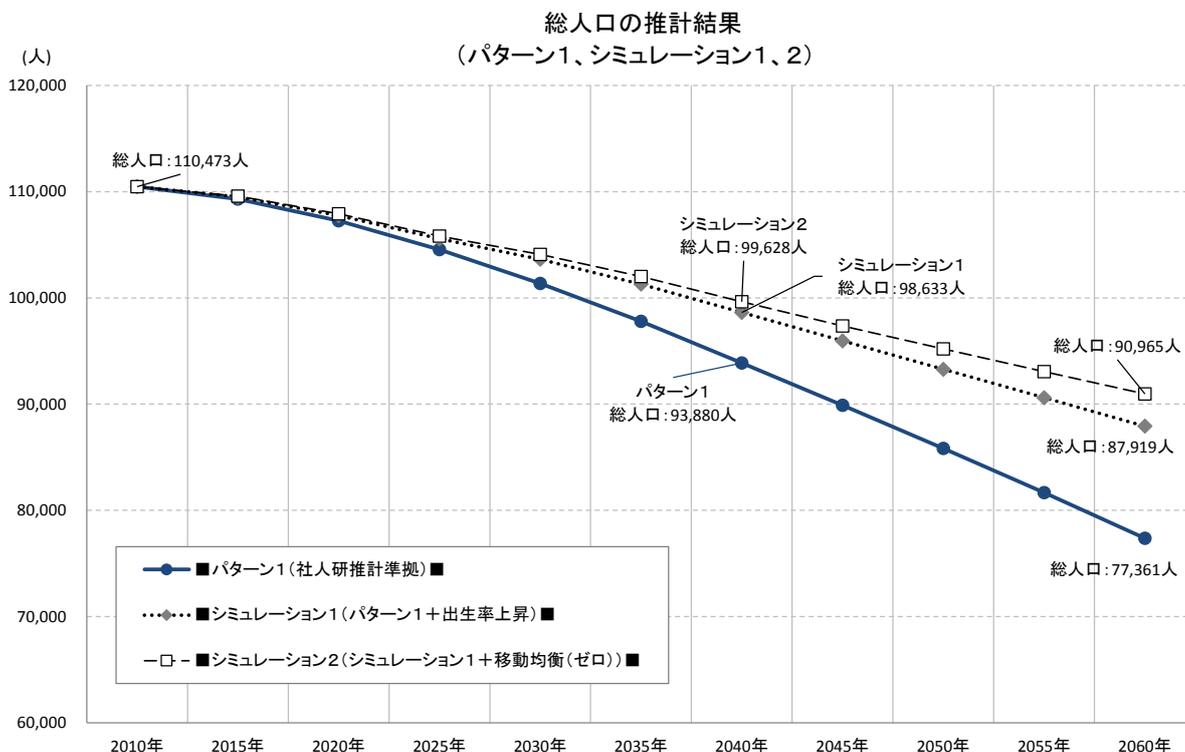
【シミュレーションの概要】

○将来人口推計におけるパターン1(社人研準拠)をベースに以下の2つのシミュレーションを行います。

シミュレーション1 (自然増減の影響)	仮に、合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(人口を長期的に一定に保てる水準の2.1)まで上昇したとした場合
シミュレーション2 (社会増減の影響)	仮に、合計特殊出生率が2030年までに人口置換水準(2.1)まで上昇し、かつ人口移動が均衡したとした場合(転入・転出数が同数となり、移動がゼロとなった場合)

【自然増減、社会増減の影響度の分析】

■人口増減の分析(パターン1、シミュレーション1、2)



【シミュレーションの結果】

○パターン1とシミュレーション1を比較することで、将来人口に及ぼす自然増減の影響度の分析を行い、またシミュレーション2との比較で、将来人口に及ぼす社会増減の影響度の分析を行います。

■自然増減、社会増減の影響度

分類	計算方法	影響度
自然増減の影響度	シミュレーション1の平成52(2040)年推計人口=98,633(人) パターン1の平成52(2040)年推計人口=93,880(人) ⇒98,633(人)/93,880(人)=105.1%	3
社会増減の影響度	シミュレーション2の平成52(2040)年推計人口=99,628(人) シミュレーション1の平成52(2040)年推計人口=98,633(人) ⇒99,628(人)/98,633(人)=101.0%	2

●「自然増減の影響度」

・シミュレーション1の平成52(2040)年の総人口/パターン1の平成52(2040)年の総人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、
「4」=110~115%、「5」=115%以上の増加

●「社会増減の影響度」

・シミュレーション2の平成52(2040)年の総人口/シミュレーション1の平成52(2040)年の総人口の数値に応じて、以下の5段階に整理。

「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、
「4」=120~130%、「5」=130%以上の増加



○自然増減の影響度が「3:105~110%」、社会増減の影響度が「2:100~110%」。

○人口減少の度合いを抑えることや、減少に歯止めをかけるには、社会増をもたらす施策だけでなく、自然増をもたらす施策の両面に取り組み事がより効果的です。

2 人口構造の分析結果

シミュレーションにより、

年少人口の減少率が抑制されている

■集計結果ごとの人口増減率

		総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口				
2010年	現状値	110,473	16,278	5,031	68,325	25,870	12,803
2040年	パターン1	93,880	10,834	3,514	50,239	32,806	9,049
	シミュレーション1	98,633	14,620	4,801	51,206	32,806	9,259
	シミュレーション2	99,628	15,335	5,108	52,042	32,251	9,888
	パターン2	92,344	10,421	3,350	49,199	32,724	8,470

		総人口	0～14歳人口		15～64歳人口	65歳以上人口	20～39歳女性人口
			うち0～4歳人口				
2010年から 2040年への 増減率	パターン1	-15.0%	-33.4%	-30.2%	-26.5%	26.8%	-29.3%
	シミュレーション1	-10.7%	-10.2%	-4.6%	-25.1%	26.8%	-27.7%
	シミュレーション2	-9.8%	-5.8%	増加 1.5%	-23.8%	24.7%	-22.8%
	パターン2	-16.4%	-36.0%	-33.4%	-28.0%	26.5%	-33.8%



- シミュレーション1では、パターン1と比較すると「0～14歳人口」の減少率は小さくなり、シミュレーション2ではさらに小さくなっています。
- シミュレーション2では、パターン1と比較すると「0～4歳人口」では増加に転じる。
- 「15～64歳人口」「65歳以上人口」は、パターン1とシミュレーション1、2の間でそれほど大きな差はありません。
- 「20～39歳女性人口」では、シミュレーション1よりもシミュレーション2の方が人口の減少率が小さくなっています。

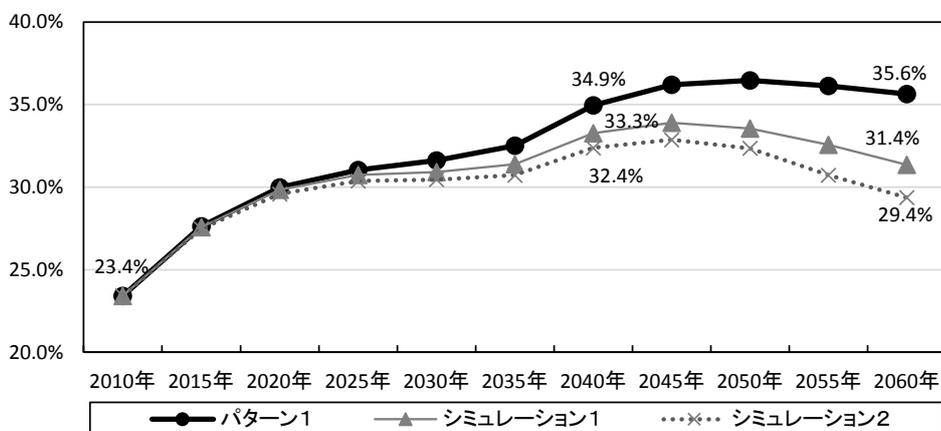
3 老年人口比率の変化分析

出生率の上昇と社会動態の改善が 人口構造の高齢化抑止に効果をもたらす

■平成 22（2010）年から平成 72（2060）年までの総人口・年齢 3 区分別人口比率

		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
パターン1	総人口(人)	110,473	109,305	107,271	104,545	101,368	97,803	93,880	89,882	85,834	81,664	77,361
	年少人口比率	14.7%	14.0%	13.1%	12.4%	11.7%	11.5%	11.5%	11.6%	11.5%	11.2%	10.9%
	生産年齢人口比率	61.8%	58.3%	56.9%	56.6%	56.7%	56.0%	53.5%	52.2%	52.1%	52.7%	53.5%
	65歳以上人口比率	23.4%	27.6%	30.0%	31.0%	31.6%	32.5%	34.9%	36.2%	36.5%	36.1%	35.6%
	75歳以上人口比率	11.9%	13.2%	14.9%	18.3%	19.9%	20.3%	20.2%	20.6%	23.0%	24.1%	24.0%
シミュレーション1	総人口(人)	110,473	109,502	107,742	105,567	103,638	101,299	98,633	95,961	93,285	90,607	87,919
	年少人口比率	14.7%	14.2%	13.5%	13.2%	13.5%	14.1%	14.8%	15.0%	15.0%	14.9%	14.9%
	生産年齢人口比率	61.8%	58.2%	56.7%	56.0%	55.6%	54.5%	51.9%	51.1%	51.5%	52.5%	53.8%
	65歳以上人口比率	23.4%	27.6%	29.8%	30.7%	30.9%	31.4%	33.3%	33.9%	33.5%	32.6%	31.4%
	75歳以上人口比率	11.9%	13.1%	14.8%	18.1%	19.5%	19.6%	19.2%	19.3%	21.1%	21.7%	21.1%
シミュレーション2	総人口(人)	110,473	109,589	107,907	105,818	104,088	102,007	99,628	97,359	95,190	93,054	90,965
	年少人口比率	14.7%	14.3%	13.7%	13.5%	13.8%	14.5%	15.4%	15.7%	15.8%	15.7%	15.7%
	生産年齢人口比率	61.8%	58.3%	56.8%	56.1%	55.7%	54.8%	52.2%	51.5%	51.9%	53.5%	54.9%
	65歳以上人口比率	23.4%	27.5%	29.6%	30.4%	30.5%	30.7%	32.4%	32.9%	32.3%	30.7%	29.4%
	75歳以上人口比率	11.9%	13.1%	14.6%	17.9%	19.3%	19.3%	18.7%	18.5%	20.2%	20.8%	20.1%

■老年人口（65歳以上人口）比率の長期推計



- パターン1では 2050 年まで老年人口の比率が上昇し続けます。
- 出生率が 2030 年までに 2.1 に上昇すると仮定したシミュレーション1においては、人口構造の高齢化抑止効果が 2045 年頃に現れ始め、33.9%程度でピークを迎え、その後低下します。
- 出生率が 2030 年までに 2.1 に上昇し、かつ人口移動が均衡すると仮定したシミュレーション2においても、人口構造の高齢化抑止効果が 2045 年頃に現れ始め、32.9%程度でピークを迎え、その後低下します。また、シミュレーション1と比較すると、老年人口比率は全期間で低くなっています。